

A工区地質記載シート

A3-請負-計測工(地質)-090120

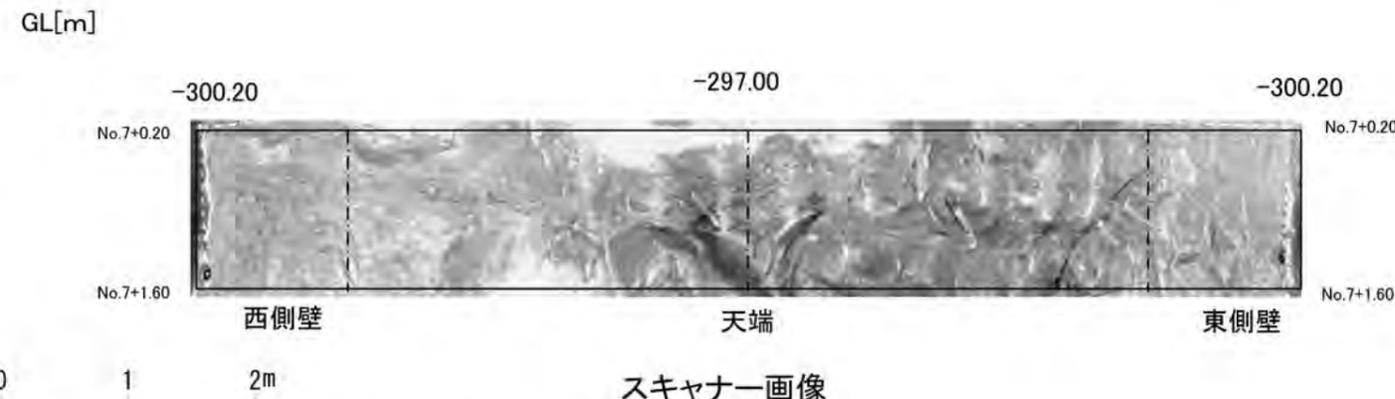
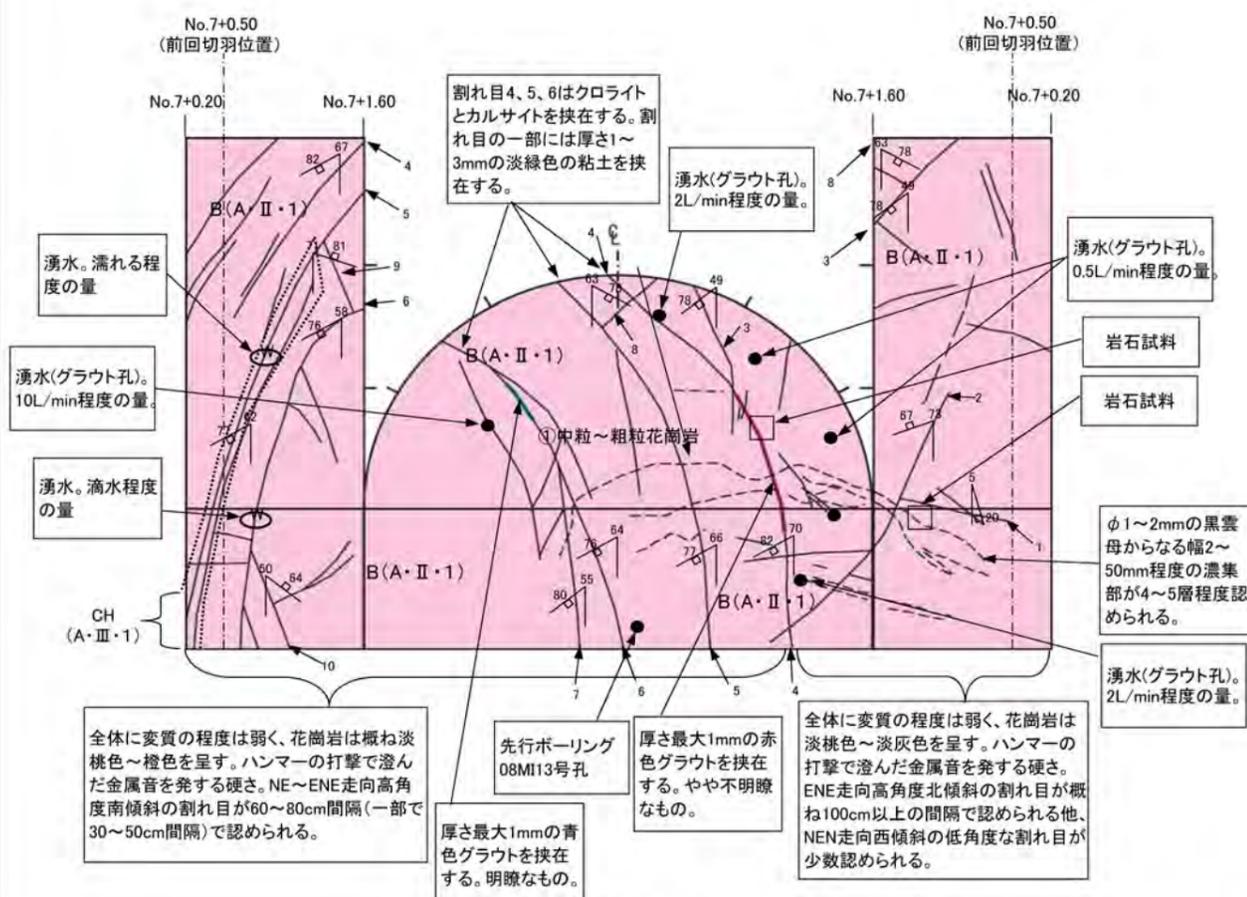
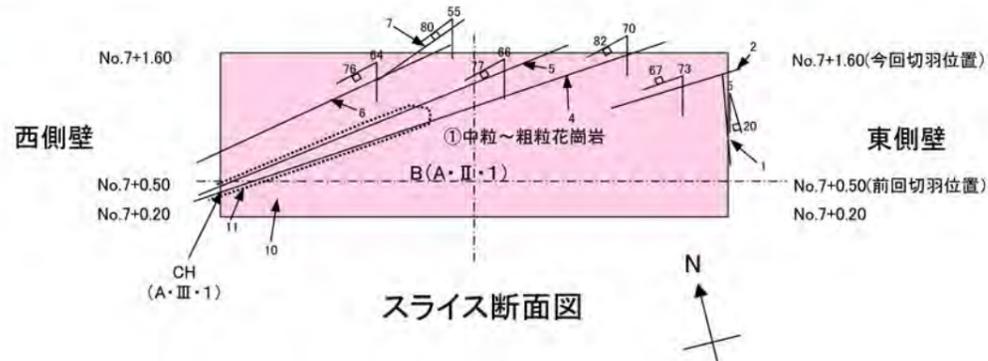
シート番号	300mアクセス坑道-50	日時	平成21年1月20日 5:30~7:00	位置・深度	300mアクセス坑道-50 G.L. 297.0 m~G.L. 300.2 m	観察・撮影者	
-------	---------------	----	-------------------------	-------	--	--------	--

総括監督員	主任監督員	監督員

請負人 大林・大成・間特定建設工事共同企業体
現場代理人

凡例

	花崗岩		湧水		割れ目		岩級区分境界		黒雲母の濃集		グラウト		グラウト湧水箇所
--	-----	--	----	--	-----	--	--------	--	--------	--	------	--	----------



岩種	花崗岩	電研式岩級	G.L. -297m~299m B/CH G.L. -299m~300.2m B/CH
岩相	①中粒～粗粒花崗岩 (淡桃色、淡灰色)	RMR値	G.L. -297m~299m 77 G.L. -299m~300.2m 74
風化	α	岩石試料番号	M300A50-1 (花崗岩)、M300A50-2 (花崗岩・グラウト)
変質	1~2	採水試料番号	無
湧水	滴水程度		

特記事項

当箇所はアクセス坑道の横坑であり、掘進方向はN11E方向である。横坑観察は鏡面から1.4m離れた場所より目視観察を実施した。

岩種は花崗岩で、岩相は石英の粒径がφ2~7mm程度の中粒～粗粒花崗岩である。切羽全体にφ10mm程度までの淡桃色~淡灰色を帯びた長石が散在している。

全体に花崗岩は変質の程度が弱く、黒雲母などの有色鉱物はクロライト化せずほぼ残存している。

割れ目は、東側壁~鏡面右側までは、ENE走向高角度北傾斜の割れ目が概ね100cm以上の間隔で認められる。他、NEN走向西傾斜の低角度な割れ目が少数認められる。鏡面右側~西側壁にはNE~ENE走向高角度南傾斜の割れ目が60~80cm間隔(一部で30~50cm間隔)で認められる。割れ目4、5、6はクロライトとカルサイトを挟む。割れ目の一部には厚さ1~3mmの淡緑色の粘土を挟む。

鏡面には、前回の観察に引き続きφ1~2mmの黒雲母からなる幅2~50mm程度の層状の濃集部が認められる。

湧水は、西側壁の割れ目5から濡れる程度、割れ目6から滴水程度の量が認められた。

岩級区分は、西側壁の一部では、割れ目間隔が概ね20~30cm程度の間隔で、ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さであることから、CH(A・Ⅲ・1)級と判断した。その他の切羽の大半では、割れ目間隔が概ね60~100cm以上の間隔で、ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さであることからB(A・Ⅱ・1)級と判断した。

グラウトは、鏡面右側の割れ目にて赤色グラウトが厚さ最大1mmでやや不明瞭に、鏡面左側の割れ目6にて青色グラウトが厚さ最大1mmで明瞭に認められる。

A工区地質記載シート

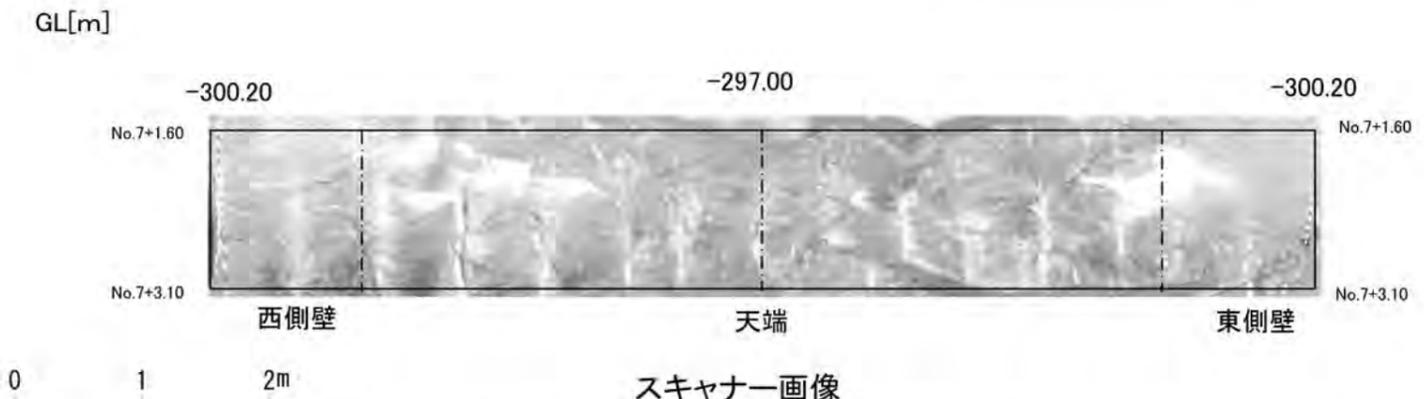
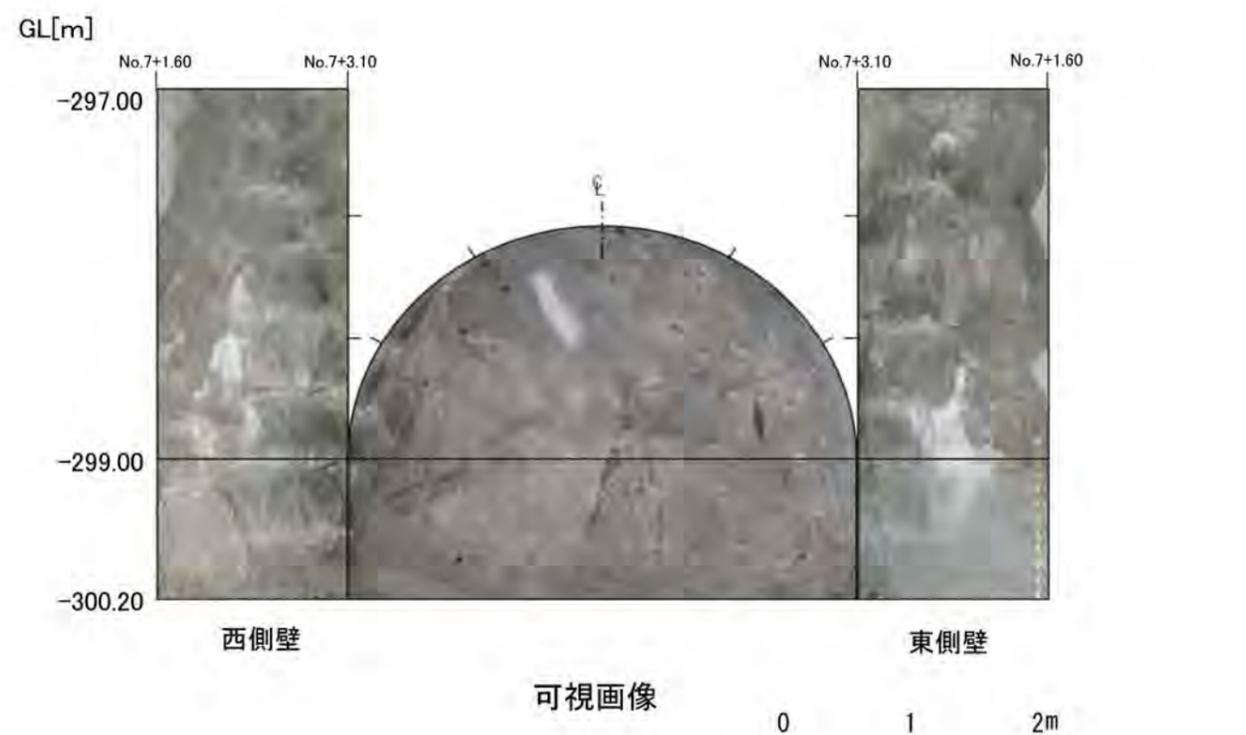
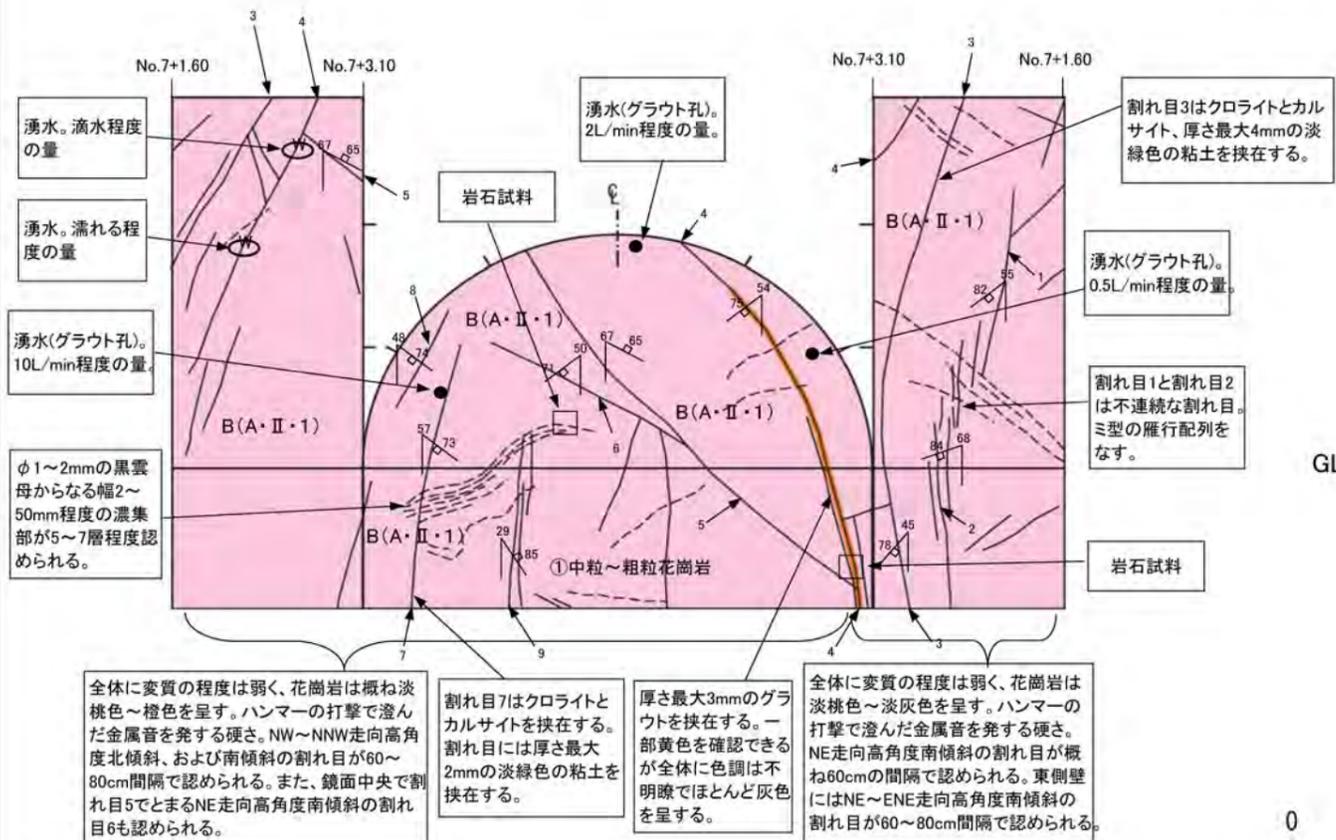
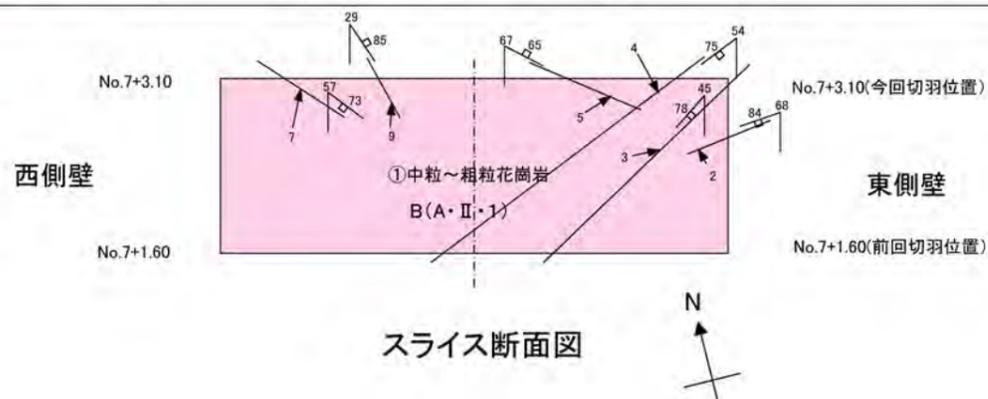
A3-請負-計測工(地質)-090120

シート番号	300mアクセス坑道-51	日時	平成21年1月20日 22:40~0:10	位置・深度	300mアクセス坑道-51 G.L. 297.0 m~G.L. 300.2 m	観察・撮影者	
-------	---------------	----	--------------------------	-------	--	--------	--

総括監督員	主任監督員	監督員

請負人 大林・大成・間特定建設工事共同企業体
現場代理人

凡例 花崗岩 湧水 割れ目 岩級区分境界 黒雲母の濃集・石英脈 ● グラウト湧水箇所



スケッチ

岩種	花崗岩	電研式岩級	G.L. -297m~299m B
岩相	①中粒~粗粒花崗岩 (淡桃色、淡灰色)	RMR値	G.L. -297m~299m 74 G.L. -299m~300.2m 80
風化	α	岩石試料番号	M300A51-1 (花崗岩)、M300A51-2 (花崗岩)
変質	1~2	採水試料番号	無
湧水	滴水程度		

特記事項

当箇所はアクセス坑道の横坑であり、掘進方向はN11E方向である。横坑観察は鏡面から1.5m離れた場所より目視観察を実施した。岩種は花崗岩で、岩相は石英の粒径がφ2~7mm程度の中粒~粗粒花崗岩である。切羽全体にφ10mm程度までの淡桃色~淡灰色を帯びた長石が散在している。全体に花崗岩は変質の程度が弱く、黒雲母などの有色鉱物はクロライト化せずほぼ残存している。割れ目は、東側壁~鏡面右側まではNE走向高角度南傾斜の割れ目が主体で、概ね60cm程度の間隔で認められる。他に、東側壁にはNE~ENE走向高角度南傾斜の割れ目が雁行配列をなしているのが認められた。鏡面右側の割れ目3はクロライトとカルサイト、厚さ最大4mmの淡緑色の粘土を挟在する。鏡面右側~西側壁にはNW~NNW走向高角度北傾斜、および南傾斜の割れ目が60~80cm間隔で認められる。また、鏡面中央で割れ目5でとまるNE走向高角度南傾斜の割れ目6も認められる。

鏡面には、前回の観察に引き続きφ1~2mmの黒雲母からなる幅2~50mm程度の濃集部が5~7層程度認められる。湧水は、西側壁上部の割れ目4から滴水および濡れる程度の量が認められた。岩級区分は、切羽の大半で、割れ目間隔が概ね60~100cm以上の間隔で、ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さであることからB(A・II・1)級と判断した。グラウトは、鏡面右側の割れ目4にて黄色グラウトが厚さ最大3mmで明確に認められる。

A工区地質記載シート

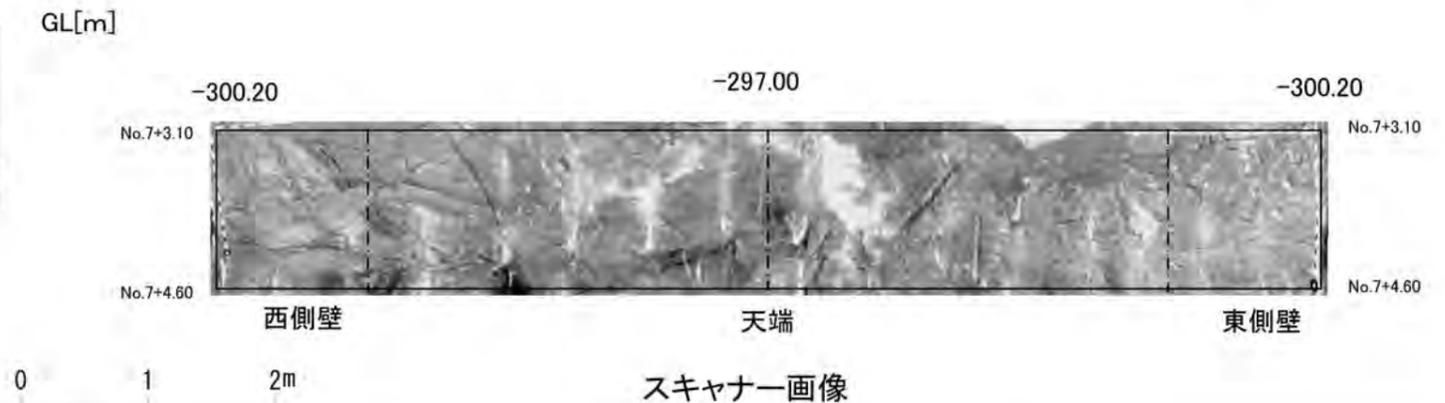
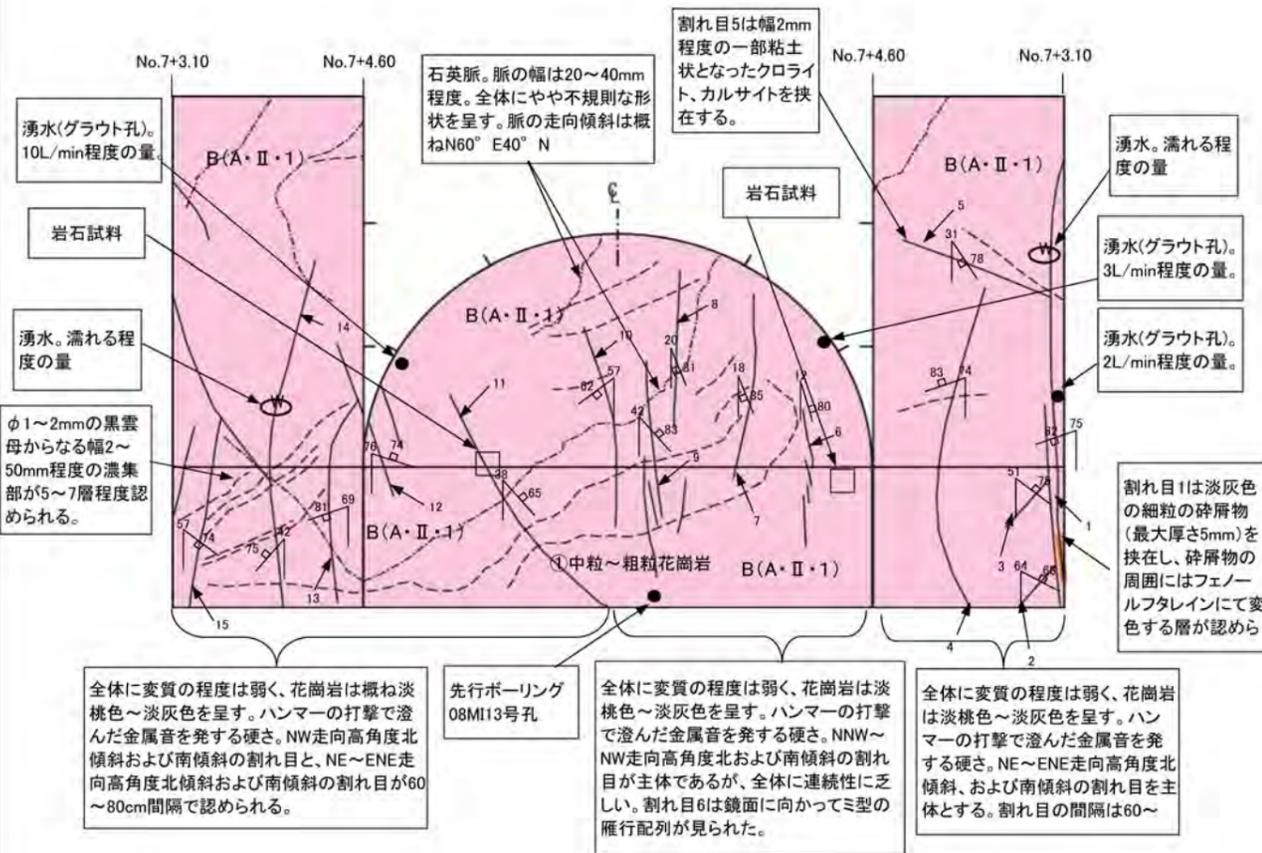
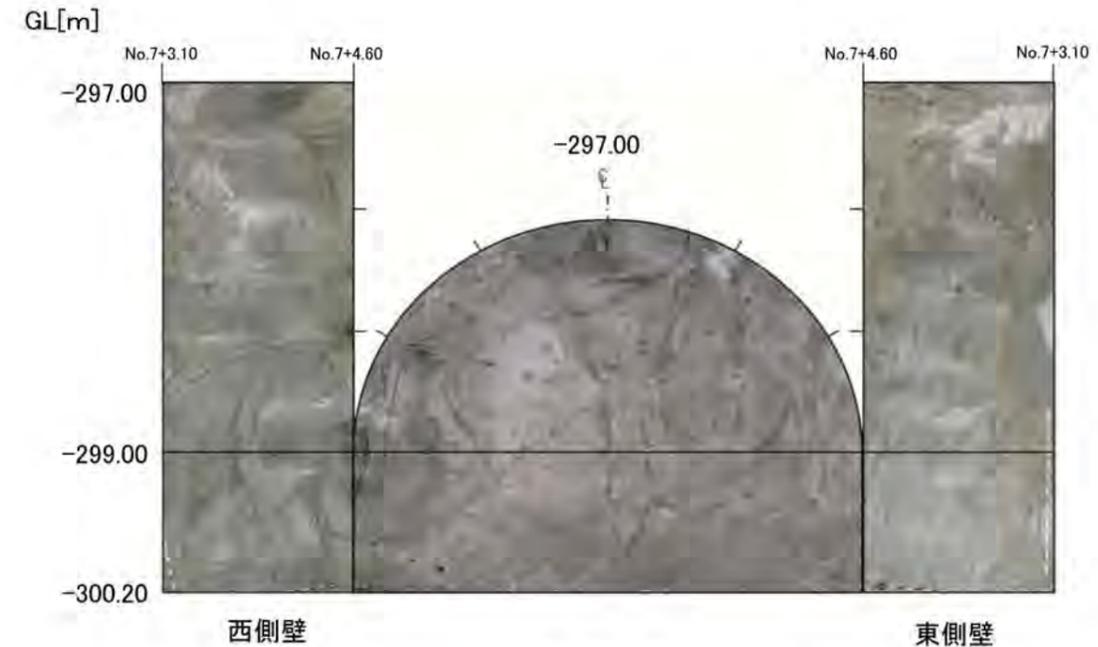
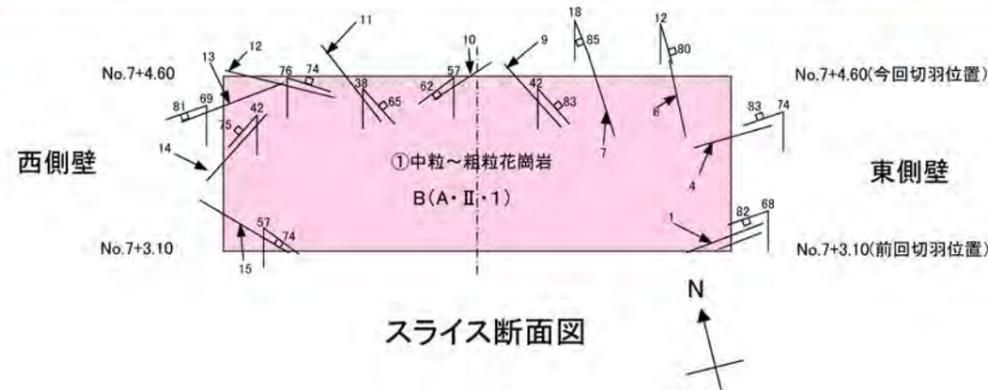
A3-請負-計測工(地質)-090121

シート番号	300mアクセス坑道-52	日時	平成21年1月21日 16:40~18:20	位置・深度	300mアクセス坑道-52 G.L. 297.0 m~G.L. 300.2 m	観察・撮影者	
-------	---------------	----	---------------------------	-------	--	--------	--

総括監督員	主任監督員	監督員

凡例 花崗岩 湧水 割れ目 岩級区分境界 黒雲母の濃集 石英脈 グラウト ● グラウト湧水箇所

請負人 大林・大成・間特定建設工事共同企業体
現場代理人



スケッチ

岩種	花崗岩	電研式岩級	G.L. -297m~299m B
岩相	①中粒~粗粒花崗岩 (淡桃色、淡灰色)	RMR値	G.L. -297m~299m 74 G.L. -299m~300.2m 80
風化	α	岩石試料番号	M300A52-1 (花崗岩)、M300A52-2 (花崗岩)
変質	1~2	採水試料番号	無
湧水	濡れる程度		

特記事項

当箇所はアクセス坑道の横坑であり、掘進方向はN11E方向である。横坑観察は鏡面から1.5m離れた場所より目視観察を実施した。
岩種は花崗岩で、岩相は石英の粒径がφ2~8mm程度の中粒~粗粒花崗岩である。切羽全体にφ12mm程度までの淡桃色~淡灰色を帯びた長石が散在している。
全体に花崗岩は変質の程度が弱く、黒雲母などの有色鉱物はクロライト化せずほぼ残存している。
割れ目は、東側壁ではNE~ENE走向高角度北傾斜、および南傾斜の割れ目を主体とする。鏡面右側から鏡面中央にかけては、NNW~NW走向高角度北および南傾斜の割れ目が主体であるが、全体に連続性に乏しい。割れ目6は雁行状に割れ目が配列するが、条線などせん断割れ目であると示すものは見られない。鏡面中央から西側壁にかけてはNW走向高角度北傾斜および南傾斜の割れ目と、NE~ENE走向高角度北傾斜および南傾斜の割れ目が60~80cm間隔で認められる。

鏡面には、前回の観察に引き続きφ1~2mmの黒雲母からなる幅2~50mm程度の層状の濃集部が数層認められる。また、鏡面には幅20~30mm程度の石英脈が認められ、石英脈の走向傾斜は概ねN60° E40° Nであった。
湧水は、東側壁上部の割れ目1から濡れる程度、西側壁の割れ目14から濡れる程度の量で認められた。
岩級区分は、切羽の全面で、割れ目間隔が概ね60~80cm程度の間隔で、ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さであることからB(A・II・1)級と判断した。
グラウトは、東側壁の割れ目1にて黄色グラウトが厚さ最大1mm程度で明瞭に認められる。

A工区地質記載シート

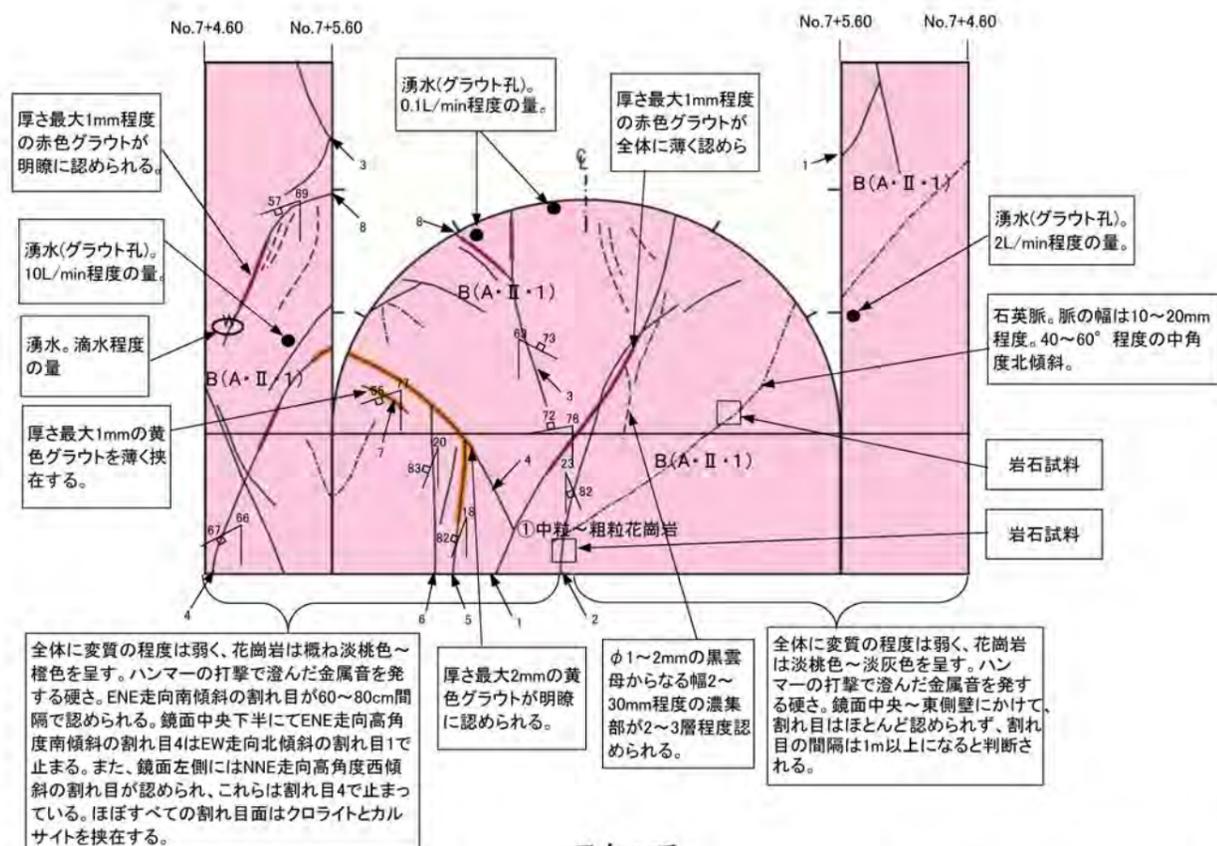
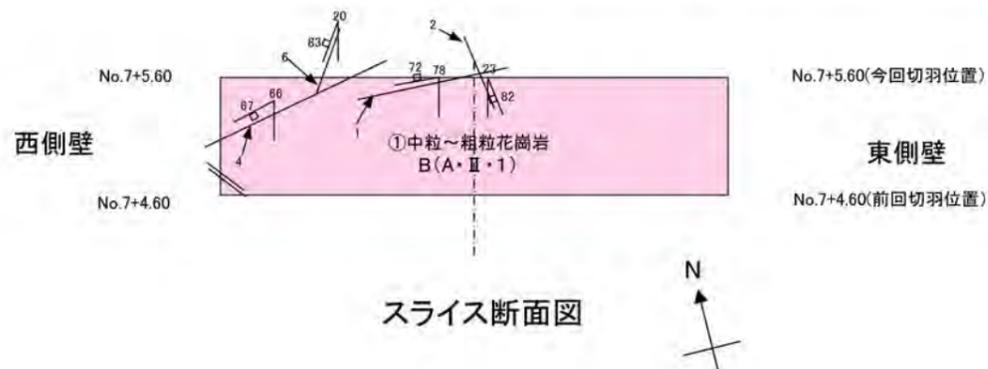
A3-請負-計測工(地質)-090122

シート番号	300mアクセス坑道-53	日時	平成21年1月22日 5:30~7:00	位置・深度	300mアクセス坑道-53 G.L. 297.0 m~G.L. 300.2 m	観察・撮影者	
-------	---------------	----	-------------------------	-------	--	--------	--

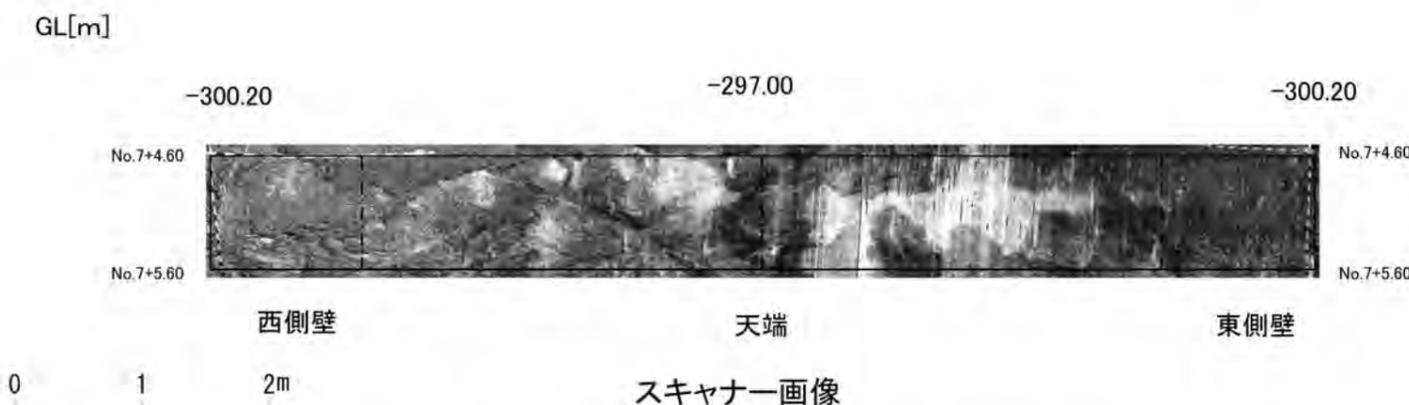
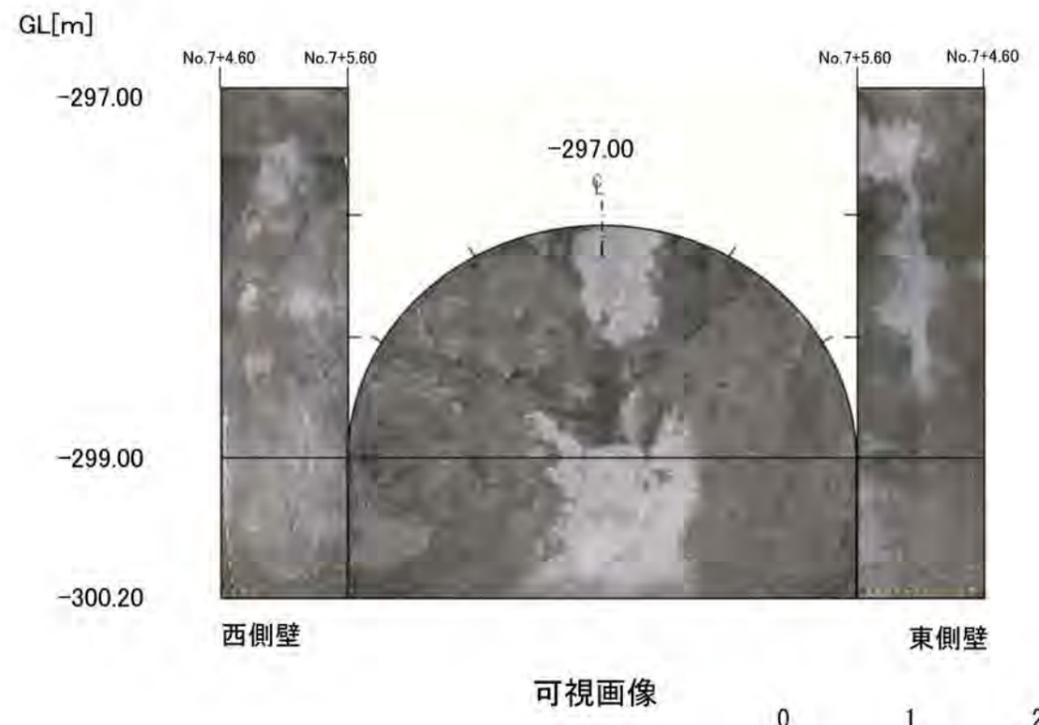
総括監督員	主任監督員	監督員

請負人 大林・大成・間特定建設工事共同企業体
現場代理人

凡例 花崗岩 湧水 割れ目 岩級区分境界 黒雲母の濃集 ● グラウト湧水箇所 グラウト 石英脈



スケッチ



岩種	花崗岩	電研式岩級	G.L. -297m~299m B G.L. -299m~300.2m B
岩相	①中粒~粗粒花崗岩 (淡桃色、淡灰色)	RMR値	G.L. -297m~299m 74 G.L. -299m~300.2m 80
風化	α	岩石試料番号	M300A53-1 (花崗岩・石英脈)、M300A53-2 (花崗岩)
変質	1~2	採水試料番号	無
湧水	滴水程度		

特記事項

当箇所はアクセス坑道の横坑であり、掘進方向はN11E方向である。横坑観察は鏡面から1.0m離れた場所より目視観察を実施した。
岩種は花崗岩で、岩相は石英の粒径がφ2~7mm程度の中粒~粗粒花崗岩である。切羽全体にφ10mm程度までの淡桃色~淡灰色を帯びた長石が散在している。
全体に花崗岩は変質の程度が弱く、黒雲母などの有色鉱物はクロライト化せずほぼ残存している。
割れ目は、東側壁~鏡面中央付近までは割れ目はほとんど認められず、割れ目の間隔は1m以上である。鏡面中央~西側壁にかけてENE走向南傾斜の割れ目が60~80cm間隔で認められる。鏡面中央下半にてENE走向高角度南傾斜の割れ目4はEW走向北傾斜の割れ目1で止まる。また、割れ目4でNNE走向高角度西傾斜の割れ目5、6が止まっている。ほぼすべての割れ目面はクロライトとカルサイトを挟在する。

鏡面には、前回の観察に引き続きφ1~2mmの黒雲母からなる幅2~30mm程度の層状の濃集部が認められる。また、鏡面には幅10~20mm程度の中角度北傾斜の石英脈が認められた。
湧水は、西側壁の割れ目8から滴水程度の量が認められた。
岩級区分は、切羽の全面で、割れ目間隔が概ね60~100cm以上の間隔で、ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さであることからB(A・II・1)級と判断した。
グラウトは、鏡面中央~西側壁にかけて割れ目1、割れ目3、割れ目4、割れ目8にて赤色グラウトが厚さ最大1mmで認められる。また、鏡面左側~西側壁にかけて割れ目4、割れ目5において黄色グラウトが厚さ最大2mmで認められる。

A工区地質記載シート

A3-請負-計測工(地質)-090122

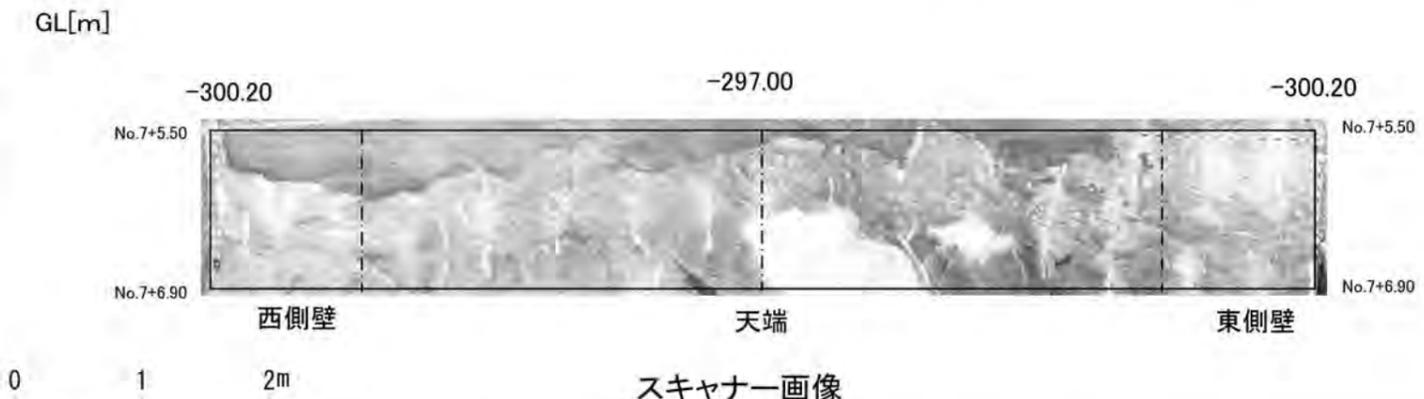
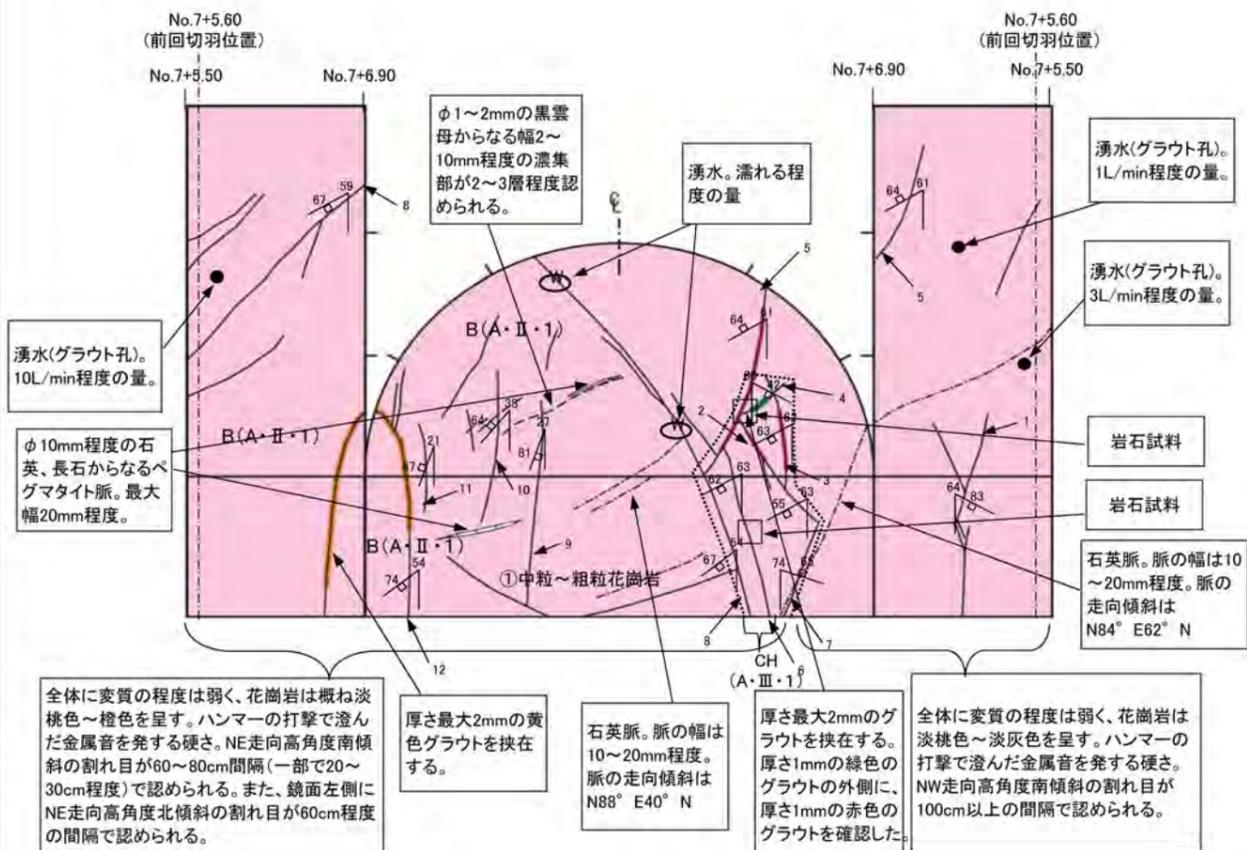
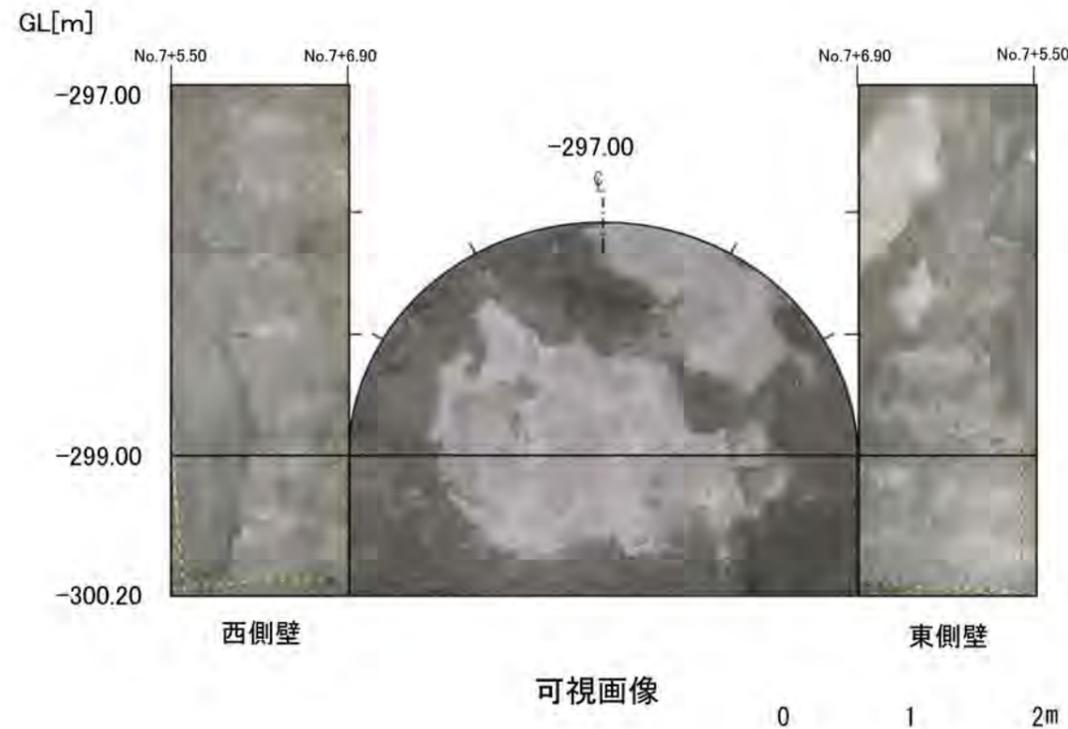
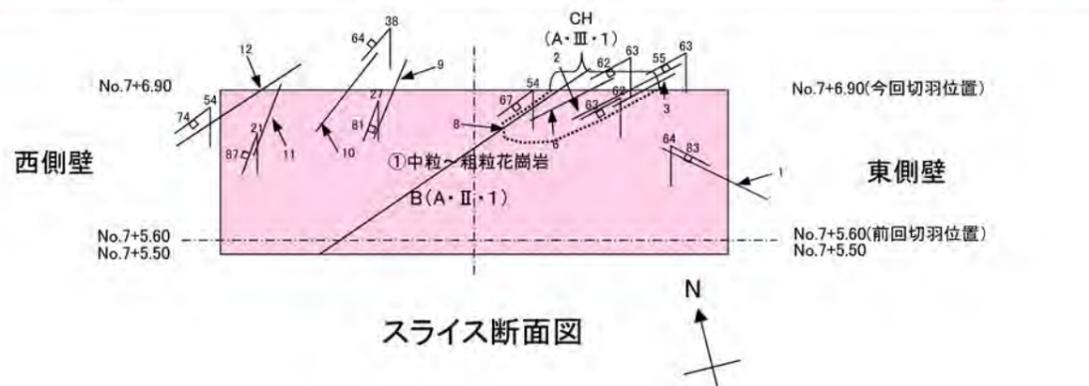
シート番号	300mアクセス坑道-54	日時	平成21年1月22日 17:50~19:20	位置・深度	300mアクセス坑道-54 G.L. 297.0 m~G.L. 300.2 m	観察・撮影者	
-------	---------------	----	---------------------------	-------	--	--------	--

総括監督員	主任監督員	監督員

請負人 大林・大成・間特定建設工事共同企業体
現場代理人

凡例

	花崗岩		湧水		割れ目		岩級区分境界		黒雲母の濃集		グラウト湧水箇所		グラウト		pegmatite
--	-----	--	----	--	-----	--	--------	--	--------	--	----------	--	------	--	-----------



岩種	花崗岩	電研式岩級	G.L. -297m~299m G.L. -299m~300.2m	B/CH B/CH
岩相	①中粒~粗粒花崗岩 (淡桃色、淡灰色)	RMR値	G.L. -297m~299m G.L. -299m~300.2m	77 80
風化	α	岩石試料番号	M300A54-1 (花崗岩)、M300A54-2 (花崗岩)	
変質	1~2	採水試料番号	無	
湧水	濡れる程度			

特記事項

当箇所はアクセス坑道の横坑であり、掘進方向はN11E方向である。横坑観察は鏡面から1.4m離れた場所より目視観察を実施した。

岩種は花崗岩で、岩相は石英の粒径がφ2~7mm程度の中粒~粗粒花崗岩である。切羽全体にφ8~10mm程度までの淡桃色~淡灰色を帯びた長石が散在している。

全体に花崗岩は変質の程度が弱く、黒雲母などの有色鉱物はクロライト化せざるは残存している。

主要な割れ目はNE~ENE走向で、一部NE走向が認められる。

東側壁~鏡面右側まではNW走向高角度南傾斜の割れ目が100cm以上の間隔で認められる。鏡面右側~西側壁まではNE走向高角度南傾斜の割れ目が60~80cm間隔 (鏡面右側~鏡面中央の主に下で20~30cm程度の間隔) で認められる。また、鏡面左側にNE走向高角度北傾斜の割れ目が60cm程度の間隔で認められる。

鏡面には、前回の観察に引き続きφ1~2mmの黒雲母からなる幅2~20mm程度の層状の濃集部が認められる。また、東側壁~鏡面には幅10~20mm程度の石英脈が認められた。石英脈はEW走向高角度北傾斜の層状に分布する。また、鏡面中央~鏡面左側にはφ10mm程度の石英、長石からなるpegmatite脈 (最大幅20mm程度) が認められる。

湧水は、鏡面中央~天端付近の割れ目8から濡れる程度の量が認められた。

岩級区分は、鏡面中央の一部では、割れ目間隔が概ね20~30cm程度の間隔で、ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さであることから、CH (A-III-1) 級と判断した。その他の切羽の大半では、割れ目間隔が概ね60~100cm以上の間隔で、ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さであることからB (A-II-1) 級と判断した。

グラウトは、鏡面中央の割れ目2、3、5にて赤色グラウトが厚さ最大1mmで明確に認められる。鏡面右側の割れ目4にて緑色グラウトが最大厚さ2mmで認められる。鏡面左側~西側壁の割れ目12にて黄色グラウトが厚さ最大2mmで認められる。

A工区地質記載シート

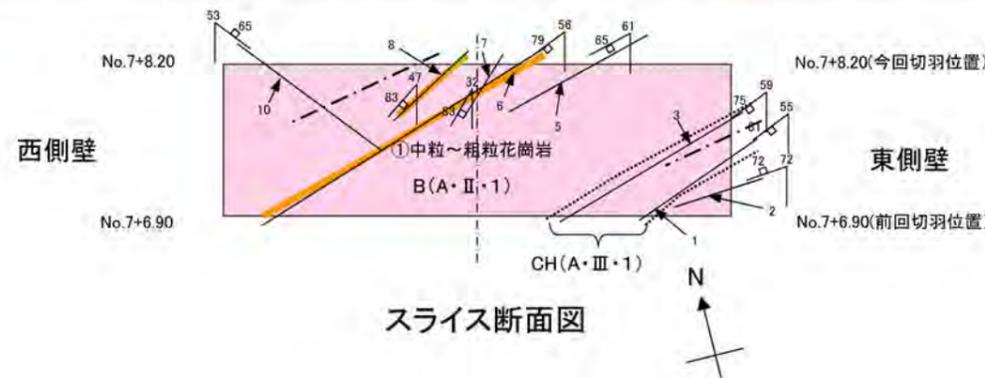
A3-請負-計測工(地質)-090123

シート番号	300mアクセス坑道-55	日時	平成21年1月23日 11:45~13:15	位置・深度	300mアクセス坑道-55 G.L. 297.0 m~G.L. 300.2 m	観察・撮影者	
-------	---------------	----	---------------------------	-------	--	--------	--

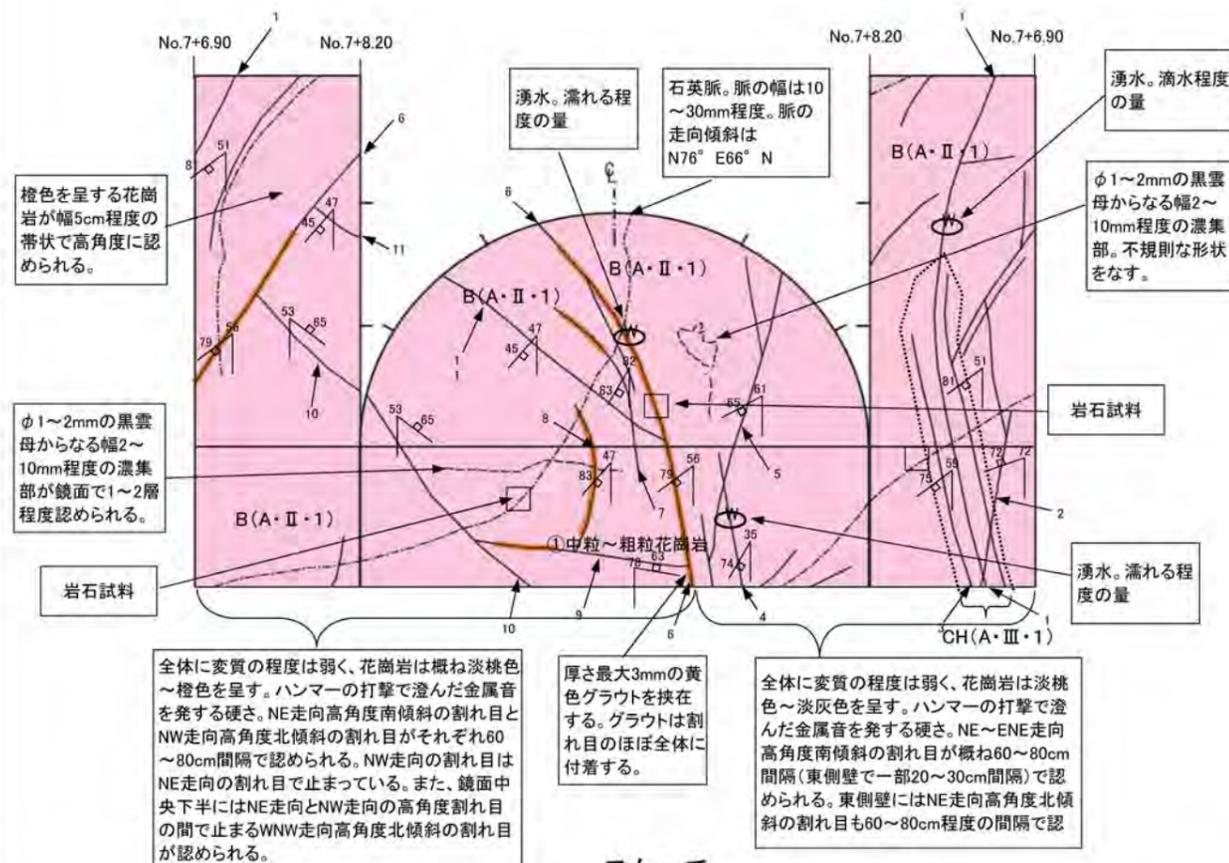
総括監督員	主任監督員	監督員

請負人 大林・大成・間特定建設工事共同企業体
現場代理人

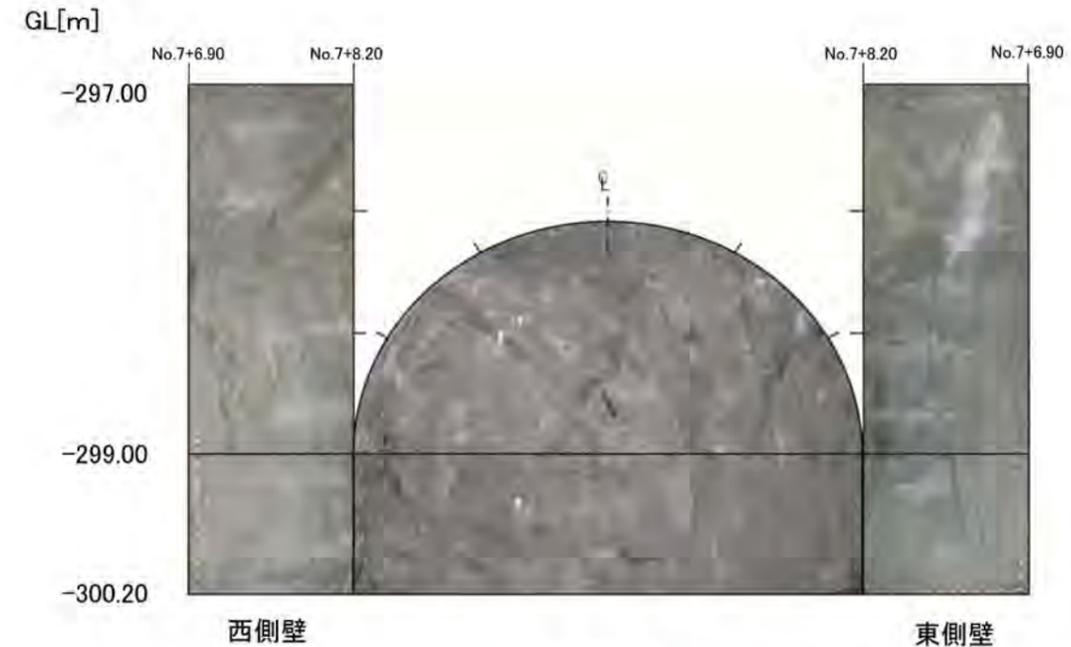
凡例	花崗岩	湧水	割れ目	岩級区分境界	黒雲母の濃集	グラウト	石英脈
----	-----	----	-----	--------	--------	------	-----



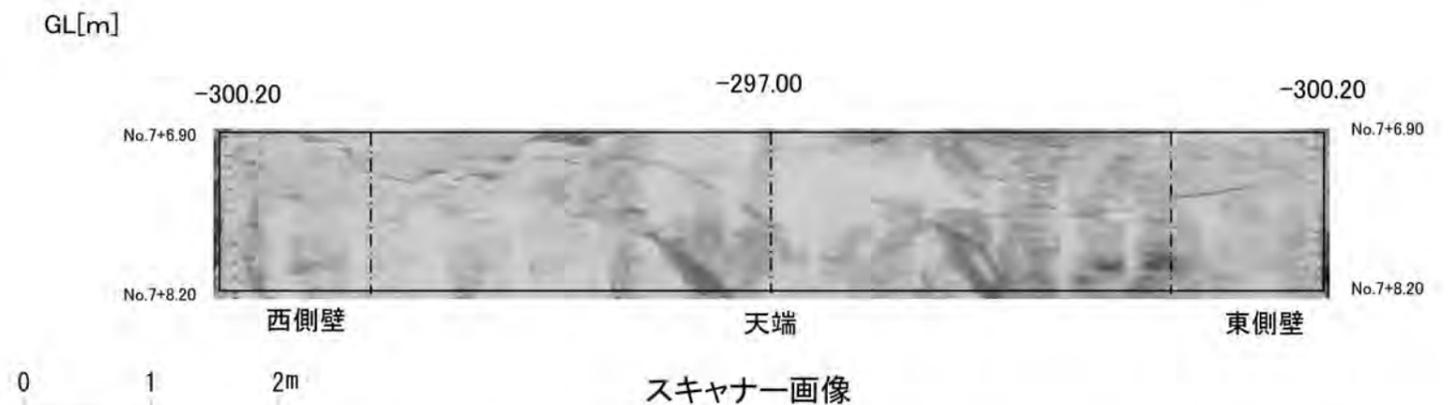
スライス断面図



スケッチ



可視画像



スキャナー画像

岩種	花崗岩	電研式岩級	G.L. -297m~299m G.L. -299m~300.2m	B/CH B/CH
岩相	①中粒~粗粒花崗岩 (淡桃色、淡灰色)	RMR値	G.L. -297m~299m G.L. -299m~300.2m	74 80
風化	α	岩石試料番号	M300A55-1 (花崗岩・グラウト)、M300A55-2 (花崗岩・石英脈)	
変質	1~2	採水試料番号	無	
湧水	滴水程度			

特記事項

当箇所はアクセス坑道の横坑であり、掘進方向はN11E方向である。横坑観察は鏡面から1.4m離れた場所より目視観察を実施した。
岩種は花崗岩で、岩相は石英の粒径がφ2~7mm程度の中粒~粗粒花崗岩である。切羽全体にφ10mm程度までの淡桃色~淡灰色を帯びた長石が散在している。
全体に花崗岩は変質の程度が弱く、黒雲母などの有色鉱物はクロライト化せずほぼ残存している。西側壁の上には、幅5cm程度の帯状に強く橙色を帯びる花崗岩が認められた。
割れ目は、主要な割れ目はNE~ENE走向で、一部NW走向が認められる。
東側壁は鏡面中央まではNE~ENE走向高角度南傾斜の割れ目が概ね60~80cm間隔(東側壁で一部20~30cm間隔)で認められる。東側壁にはNE走向高角度北傾斜の割れ目も60~80cm程度の間隔で認められる。鏡面中央~西側壁まではNE走向高角度南傾斜の割れ目とNW走向高角度北傾斜の割れ目がそれぞれ60~80cm間隔で認められる。NW走向の割れ目はNE走向の割れ目と止まっている。また、鏡面中央下半にはNE走向とNW走向の高角度割れ目の間で止まるWNW走向高角度北傾斜の割れ目が認められる。

鏡面には、前回の観察に引き続きφ1~2mmの黒雲母からなる幅2~20mm程度の層状の濃集部が認められる。切羽全体に幅10~30mm程度の石英脈が認められた。石英脈はNE走向高角度北傾斜で層状に分布する。
湧水は、東側壁上部の割れ目1から滴水程度、鏡面中央の割れ目4と割れ目6から濡れる程度の量が認められた。
岩級区分は、東側壁の一部では、割れ目間隔が概ね20~30cm程度の間隔で、ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さであることから、CH(A・III・1)級と判断した。その他の切羽の大半では、割れ目間隔が概ね60~100cm以上の間隔で、ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さであることからB(A・II・1)級と判断した。
グラウトは、鏡面中央~西側壁にかけて、割れ目6、7、8、9にて黄色グラウトが厚さ最大2mmで明確に認められる。

A工区地質記載シート

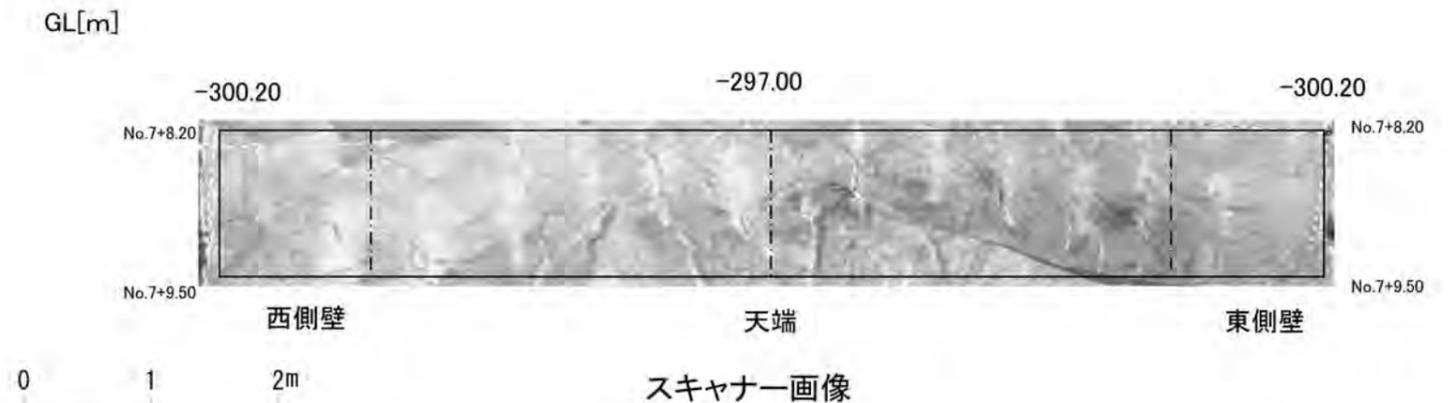
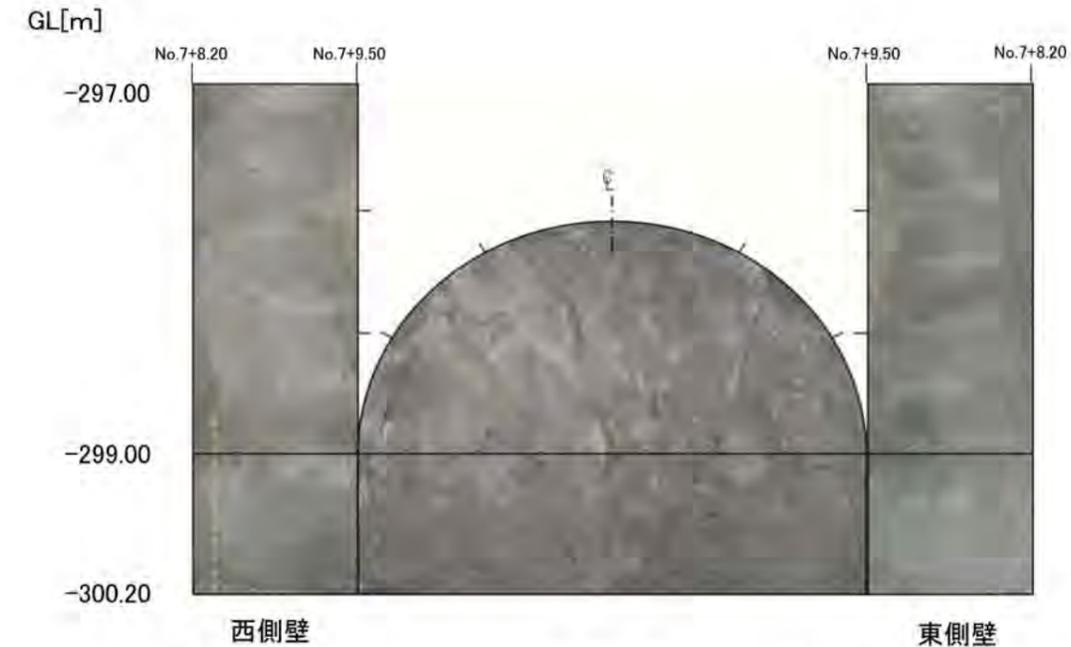
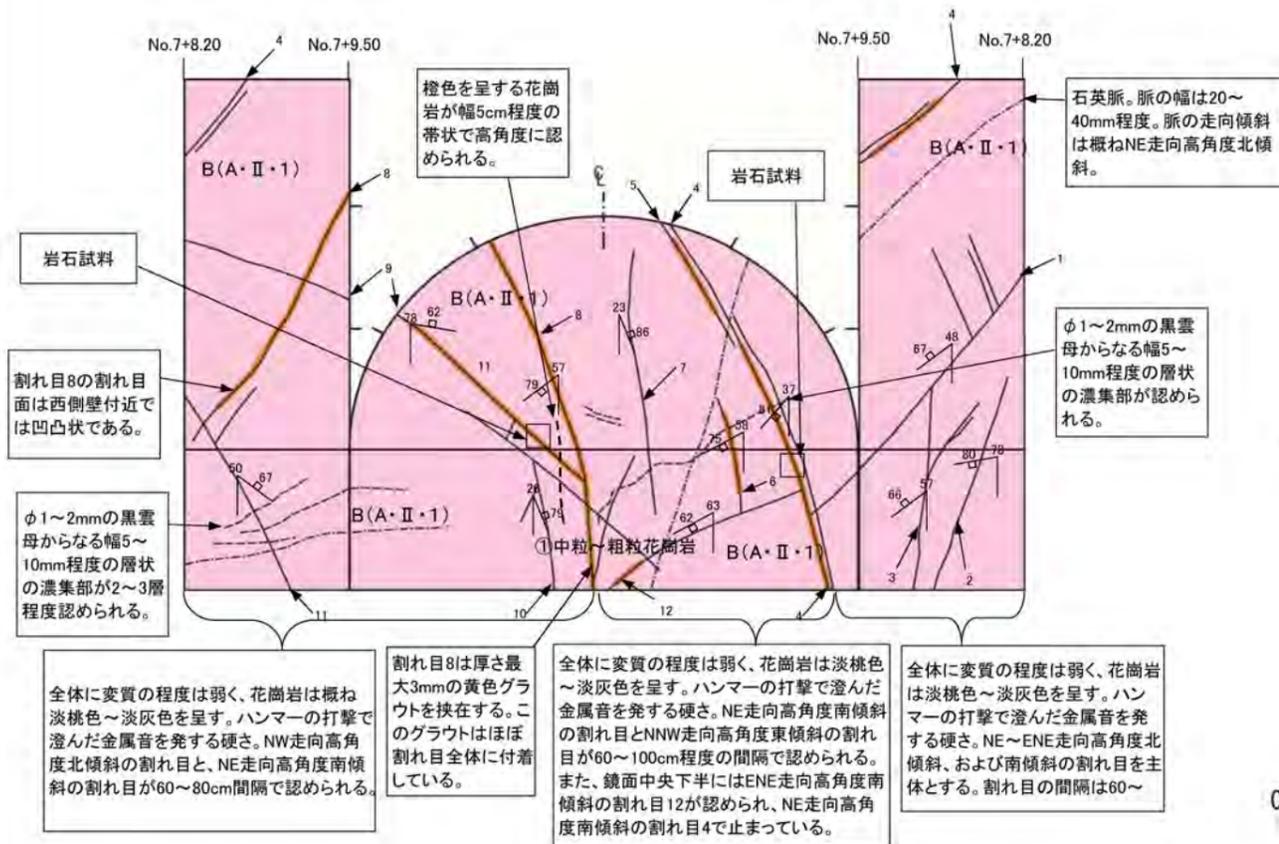
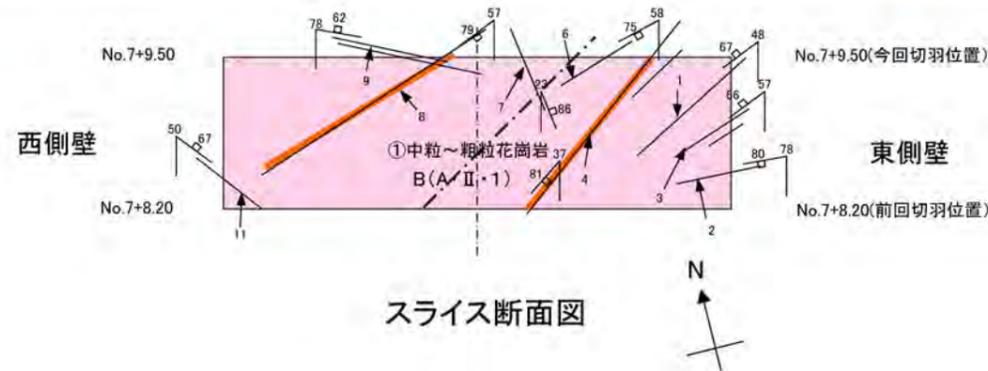
A3-請負-計測工(地質)-090124

シート番号	300mアクセス坑道-56	日時	平成21年1月24日 5:00~7:00	位置・深度	300mアクセス坑道-56 G.L. 297.0 m~G.L. 300.2 m	観察・撮影者	
-------	---------------	----	-------------------------	-------	--	--------	--

総括監督員	主任監督員	監督員

請負人 大林・大成・間特定建設工事共同企業体
現場代理人

凡例	花崗岩	湧水	割れ目	岩級区分境界	黒雲母の濃集	石英脈	グラウト
----	-----	----	-----	--------	--------	-----	------



スケッチ

岩種	花崗岩	電研式岩級	G.L. -297m~299m B
岩相	①中粒~粗粒花崗岩 (淡桃色、淡灰色)	RMR値	G.L. -297m~299m 80 G.L. -299m~300.2m 80
風化	α	岩石試料番号	M300A56-1 (花崗岩・グラウト)、M300A56-2 (花崗岩・グラウト)
変質	1~2	採水試料番号	無
湧水	無		

特記事項

当箇所はアクセス坑道の横坑であり、掘進方向はN11E方向である。横坑観察は鏡面から1.5m離れた場所より目視観察を実施した。
岩種は花崗岩で、岩相は石英の粒径がφ2~7mm程度の中粒~粗粒花崗岩である。切羽全体にφ7~10mm程度までの淡桃色~淡灰色を帯びた長石が散在している。
全体に花崗岩は変質の程度が弱く、黒雲母などの有色鉱物はクロライト化せずほぼ残存している。鏡面中央には、幅5cm程度の帯状に強く橙色を帯びる花崗岩が認められた。
割れ目は、主要な割れ目はNE~ENE走向で、一部NNW~NW走向が認められる。
東側壁~鏡面右側まではNE~ENE走向高角度北傾斜、および南傾斜の割れ目が60~80cm程度の間隔で認められる。鏡面右側~鏡面中央まではNE走向高角度南傾斜の割れ目とNNW走向高角度東傾斜の割れ目が60~100cm程度の間隔で認められる。また、鏡面中央下半にはENE走向高角度南傾斜の割れ目が認められ、NE走向高角度南傾斜の割れ目4で止まっている。鏡面中央~西側壁まではNW走向高角度北傾斜の割れ目と、NE走向高角度南傾斜の割れ目が60~80cm間隔で認められる。

西側壁~鏡面には、前回の観察に引き続きφ1~2mmの黒雲母からなる幅5~10mm程度の層状の濃集部が認められる。また、切羽全体に幅20~40mm程度の石英脈が認められた。石英脈はNE走向高角度北傾斜で層状に1~2層認められる。
湧水は、今回の切羽からはほとんど認められなかった。
岩級区分は、切羽の全面で、割れ目間隔が概ね60~100cm以上の間隔で、ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さであることからB(A・II・1)級と判断した。
グラウトは、鏡面右側~東側壁の割れ目4、鏡面右側の割れ目5、6、鏡面中央~西側壁の割れ目8、9、12にて黄色グラウトを最大厚さ3mmで確認した。割れ目8は厚さ最大3mmの黄色グラウトを挟み、このグラウトはほぼ割れ目全体に付着している。

A工区地質記載シート

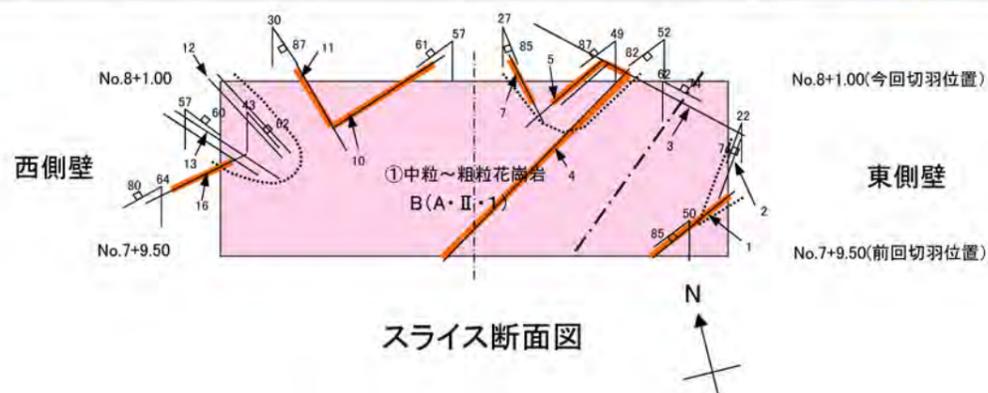
A3-請負-計測工(地質)-090202

シート番号	300mアクセス坑道-57	日時	平成21年2月2日 17:00~19:00	位置・深度	300mアクセス坑道-57 G.L. 297.0 m~G.L. 300.2 m	観察・撮影者	
-------	---------------	----	--------------------------	-------	--	--------	--

総括監督員	主任監督員	監督員

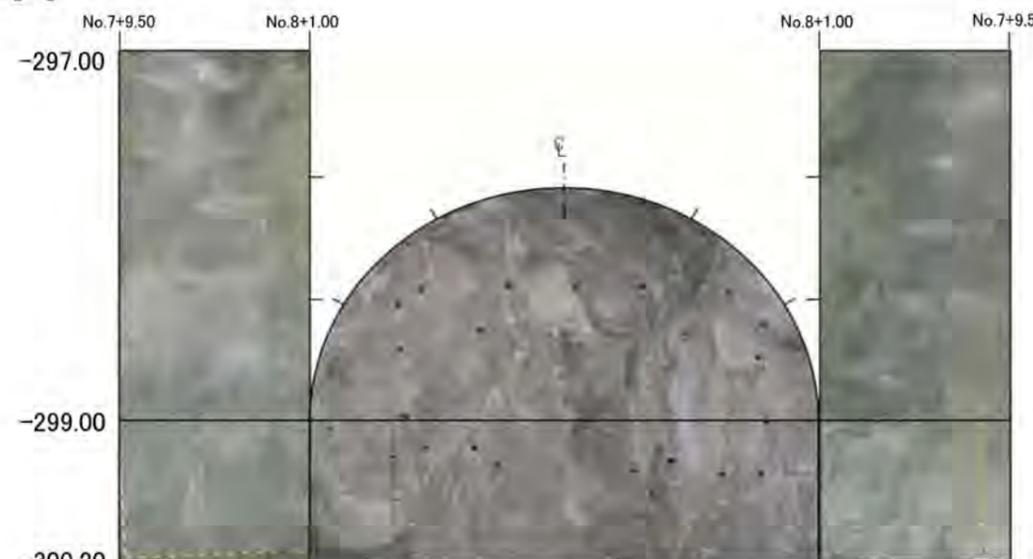
請負人 大林・大成・間特定建設工事共同企業体
現場代理人

凡例	花崗岩	湧水	割れ目	岩級区分境界	黒雲母の濃集	石英脈	グラウト
----	-----	----	-----	--------	--------	-----	------



スライス断面図

GL[m]

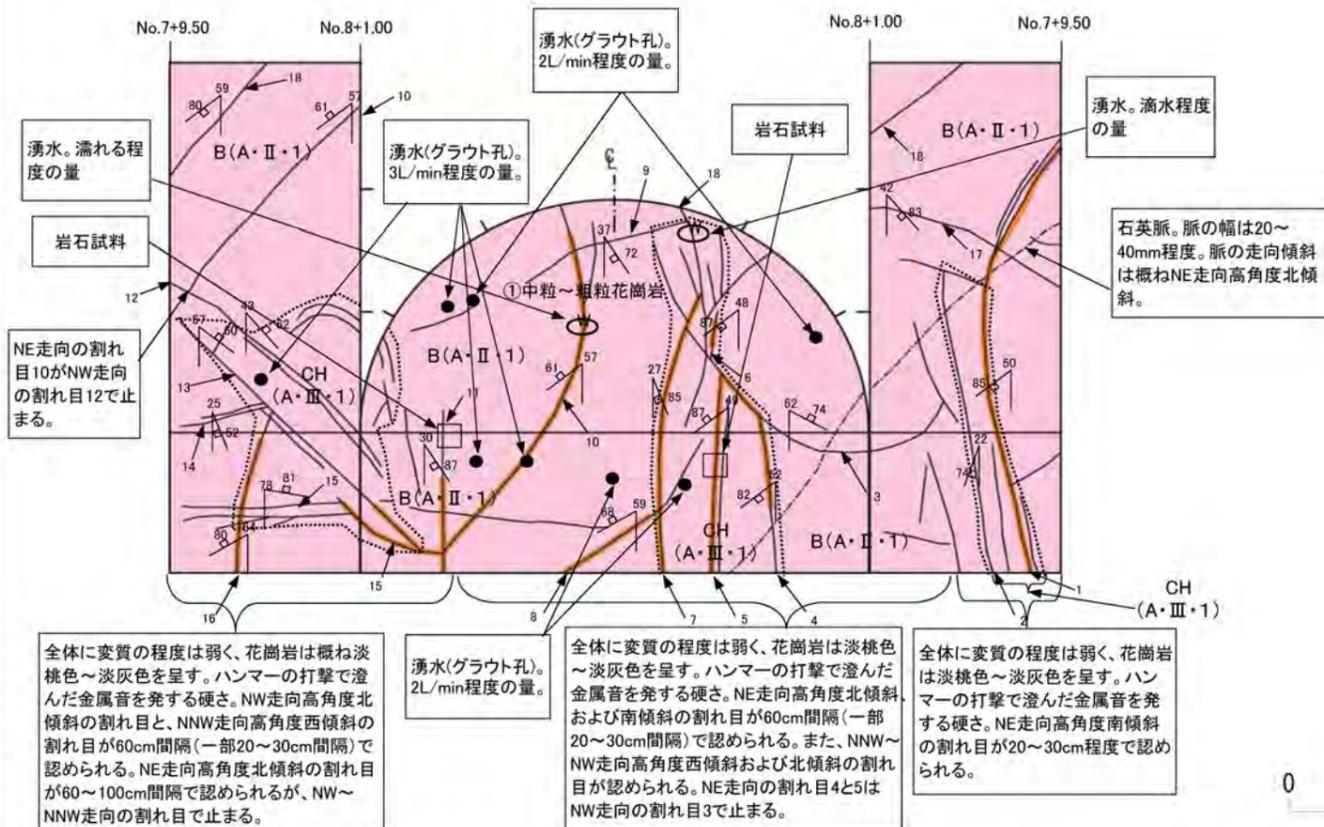


西側壁

東側壁

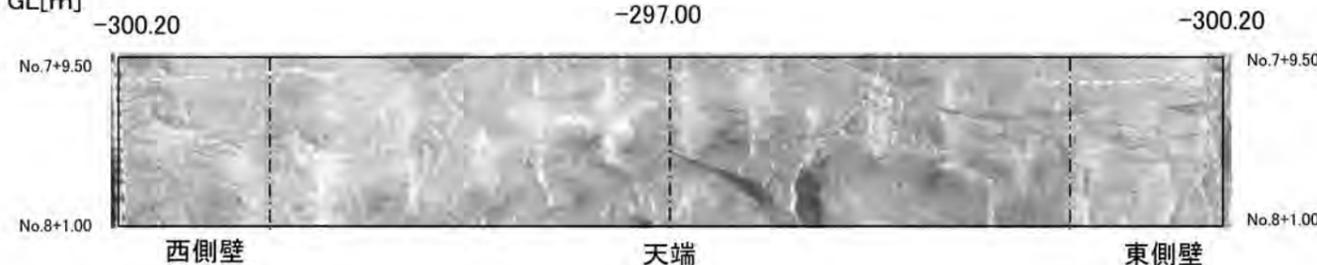
可視画像

0 1 2m



スケッチ

GL[m]



西側壁

天端

東側壁

スキャナー画像

0 1 2m

岩種	花崗岩	電研式岩級	G.L. -297m~299m G.L. -299m~300.2m	B/CH B/CH
岩相	①中粒~粗粒花崗岩 (淡桃色、淡灰色)	RMR値	G.L. -297m~299m G.L. -299m~300.2m	74 80
風化	α	岩石試料番号	M300A57-1 (花崗岩・グラウト)、M300A57-2 (花崗岩)	
変質	1~2	採水試料番号	無	
湧水	滴水程度			

特記事項

当箇所はアクセス坑道の横坑であり、掘進方向はN11E方向である。横坑観察は鏡面から1.5m離れた場所より目視観察を実施した。
岩種は花崗岩で、岩相は石英の粒径がφ2~7mm程度の中粒~粗粒花崗岩である。切羽全体にφ7~10mm程度までの淡桃色~淡灰色を帯びた長石が散在している。
全体に花崗岩は変質の程度が弱く、黒雲母などの有色鉱物はクロライト化せずほぼ残存している。
割れ目は、主要な走向はNW走向とNE走向で、一部NNW走向が認められる。
東側壁の一部では、NE走向高角度南傾斜の割れ目が20~30cm程度で認められる。東側壁~鏡面左側までNE走向高角度北傾斜、および南傾斜の割れ目が60cm間隔(一部20~30cm間隔)で認められる。また、NNW~NW走向高角度西傾斜および北傾斜の割れ目が認められる。NE走向の割れ目4と5はNW走向の割れ目3で止まる。鏡面左側~西側壁にかけてはNW走向高角度北傾斜の割れ目と、NNW走向高角度西傾斜の割れ目が60cm間隔(一部20~30cm間隔)で認められる。NE走向高角度北傾斜の割れ目が60~100cm間隔で認められるが、NW~NNW走向の割れ目で止まる。

西側壁~鏡面には、前回の観察に引き続き、石英脈がNE走向高角度北傾斜で層状に1層認められる。
湧水は、鏡面中央の割れ目10から濡れる程度の量、天端付近の割れ目11から滴水程度の量が認められた。
岩級区分は、東側壁の一部と鏡面中央の一部及び西側壁の一部では割れ目間隔が概ね20~30cm程度の間隔で、ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さであることから、CH(A・Ⅲ・1)級と判断した。その他の切羽の大半では、割れ目間隔が概ね60~100cm程度の間隔で、ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さであることからB(A・Ⅱ・1)級と判断した。
グラウトは、東側壁の割れ目1、3、4、5、6、7、8、鏡面中央~西側壁の割れ目10、11、13、15、16にて黄色グラウトを最大厚さ3mmで確認した。

A工区地質記載シート

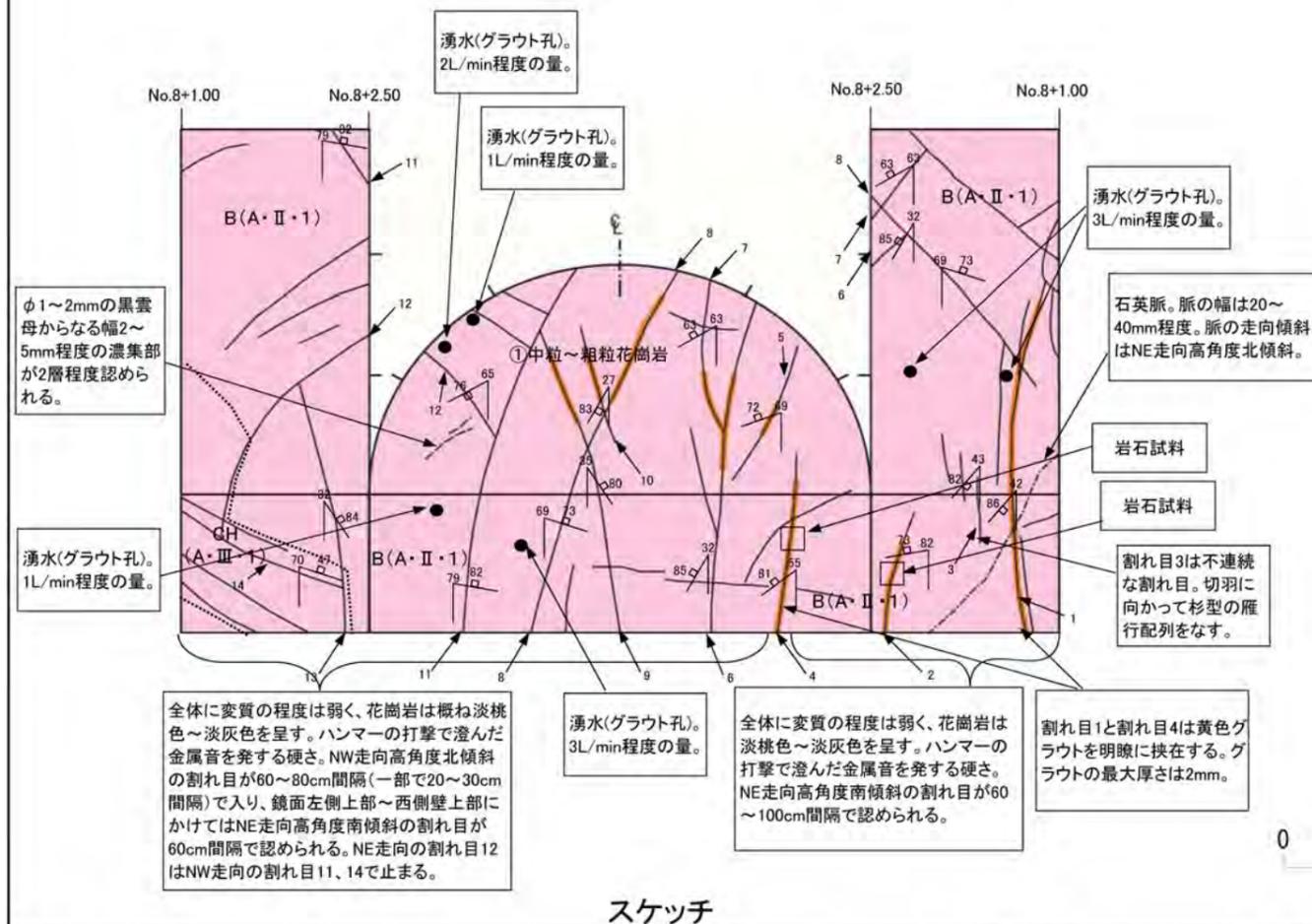
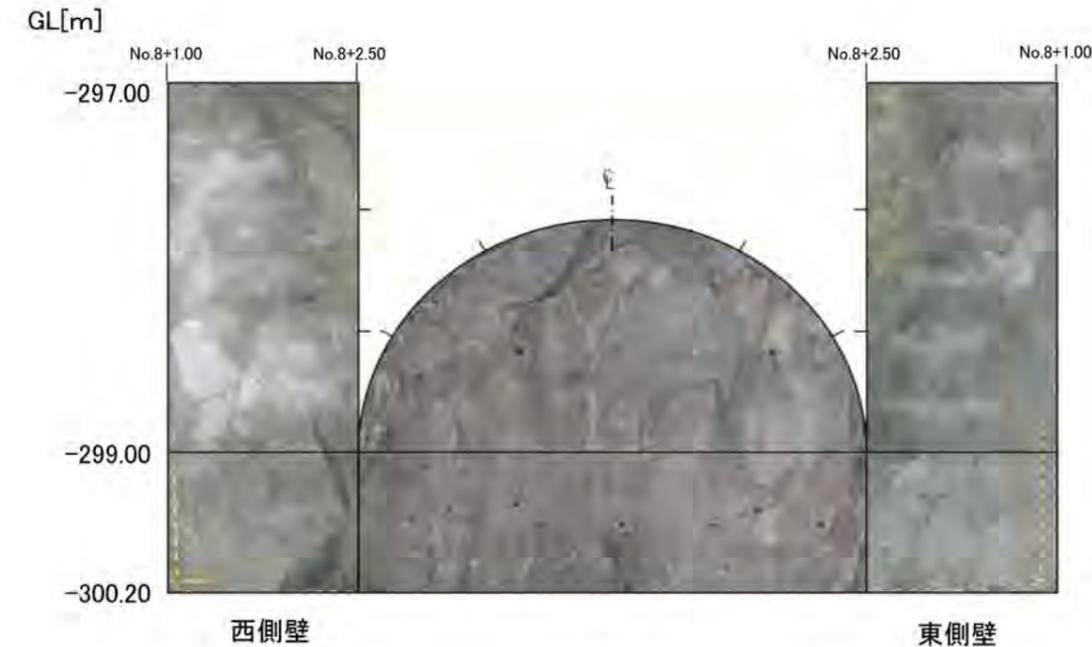
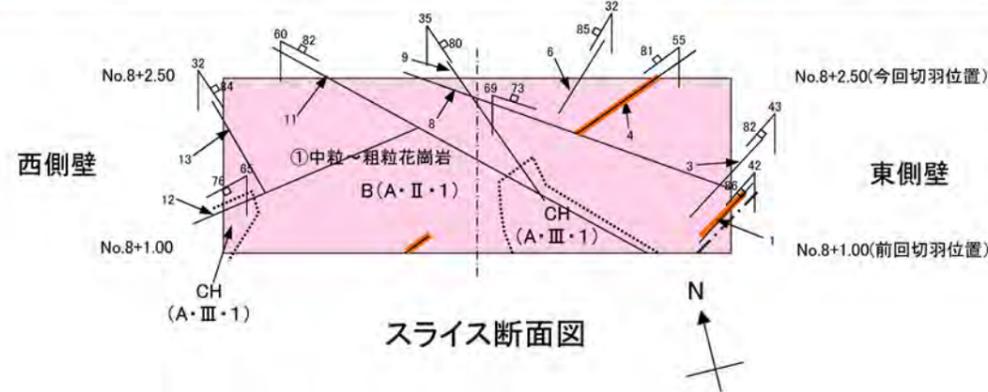
A3-請負-計測工(地質)-090208

シート番号	300mアクセス坑道-58	日時	平成21年2月4日 3:40~5:40	位置・深度	300mアクセス坑道-58 G.L. 297.0 m~G.L. 300.2 m	観察・撮影者	
-------	---------------	----	------------------------	-------	--	--------	--

総括監督員	主任監督員	監督員

請負人 大林・大成・間特定建設工事共同企業体
現場代理人

凡例 花崗岩 湧水 割れ目 黒雲母の濃集 石英脈 グラウト 岩級区分境界



岩種	花崗岩	電研式岩級	G.L. -297m~299m G.L. -299m~300.2m	B/CH B/CH
岩相	①中粒~粗粒花崗岩 (淡桃色、淡灰色)	RMR値	G.L. -297m~299m G.L. -299m~300.2m	80 80
風化	α	岩石試料番号	M300A58-1 (花崗岩・グラウト)、M300A58-2 (花崗岩・グラウト)	
変質	1~2	採水試料番号	無	
湧水	無			

特記事項

当箇所はアクセス坑道の横坑であり、掘進方向はN11E方向である。横坑観察は鏡面から1.5m離れた場所より目視観察を実施した。
 岩種は花崗岩で、岩相は石英の粒径がφ2~7mm程度の中粒~粗粒花崗岩である。切羽全体にφ7~10mm程度までの淡桃色~淡灰色を帯びた長石が散在している。
 全体に花崗岩は変質の程度が弱く、黒雲母などの有色鉱物はクロライト化せずほぼ残存している。
 割れ目は、主要な走向はNW走向で、一部NE走向が認められる。
 東側壁~鏡面右側まではNE走向高角度南傾斜の割れ目が60~100cm間隔で認められる。鏡面右側~西側壁まではNW走向高角度北傾斜の割れ目が60~80cm間隔(一部で20~30cm間隔)で入り、鏡面左側上部~西側壁上部にかけてはNE走向高角度南傾斜の割れ目が60cm間隔で認められる。NE走向の割れ目12はNW走向の割れ目11、14で止まる。

東側壁には、前回の観察に引き続き、石英脈がNE走向高角度北傾斜で層状に1層認められる。
 グラウト孔からの湧水が多く、切羽からの湧水はほとんど確認できなかった。
 岩級区分は、切羽の全面で、割れ目間隔が概ね60~100cm程度の間隔で、ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さであることからB(A・II・1)級と判断した。
 グラウトは、東側壁の割れ目1と鏡面右側の割れ目4にて黄色グラウトが厚さ最大2mm程度で明瞭に認められる。東側壁の割れ目2、鏡面中央の割れ目6、7、8、9、10にて黄色グラウトが厚さ最大1mmで認められる。

A工区地質記載シート

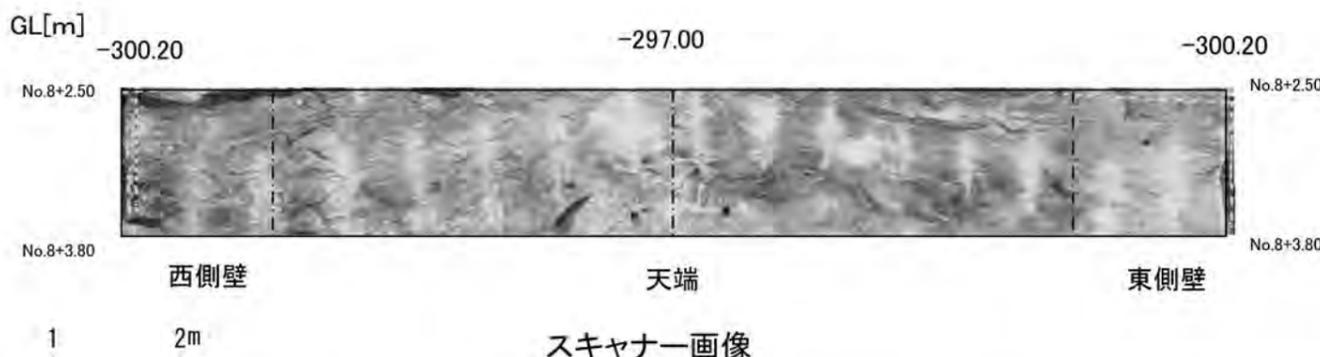
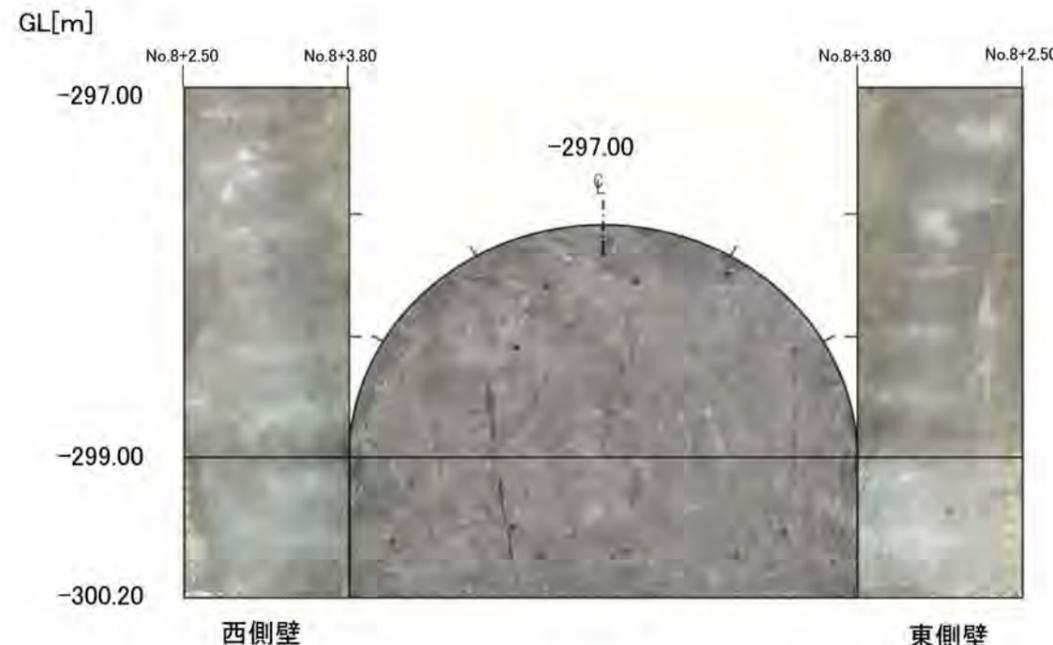
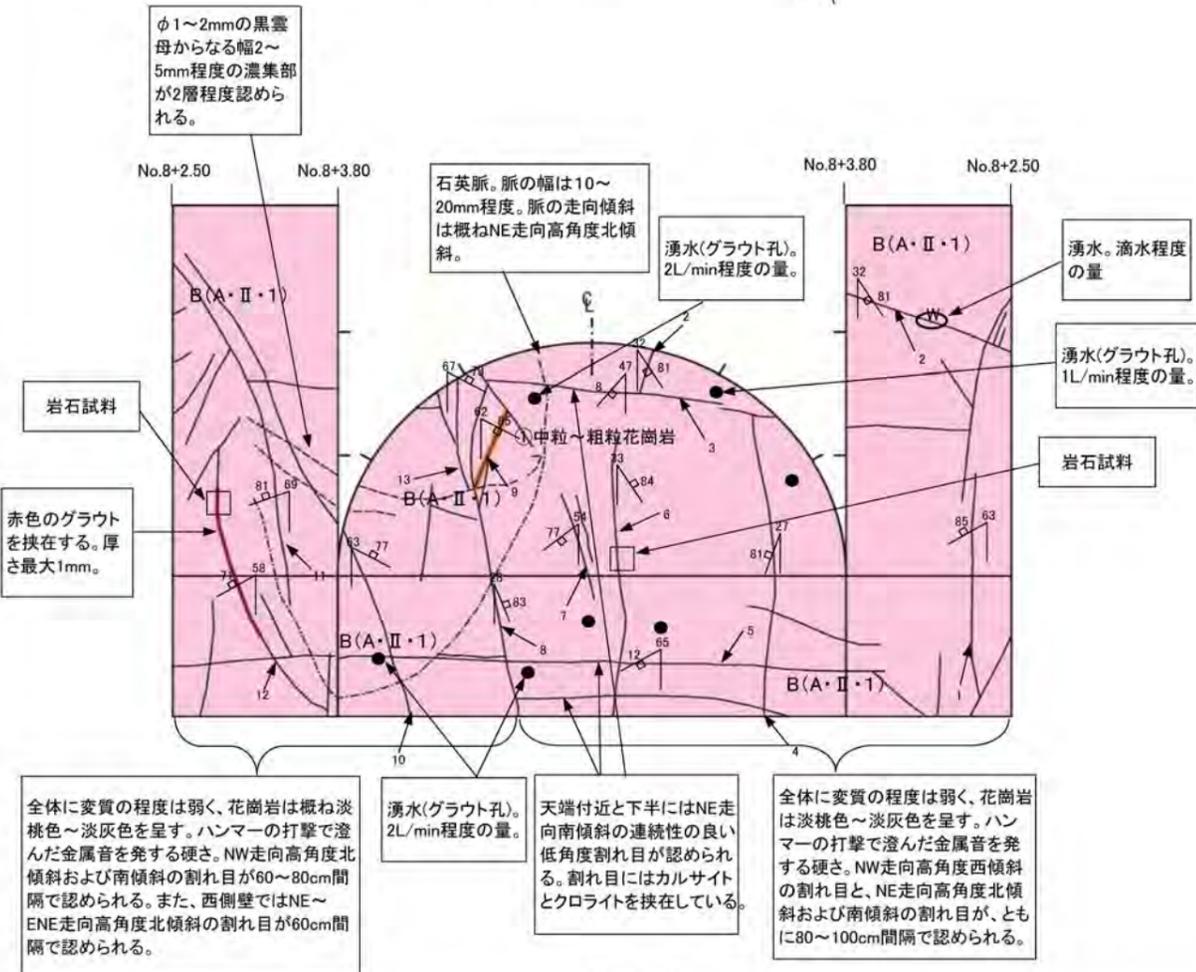
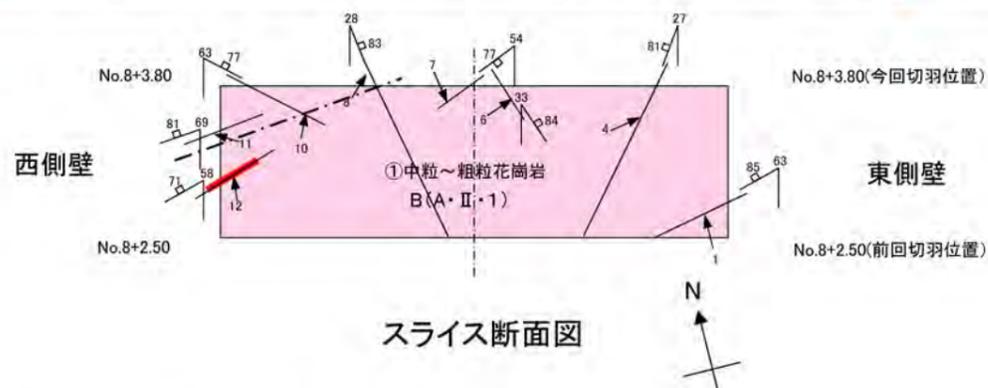
A3-請負-計測工(地質)-090204

シート番号	300mアクセス坑道-59	日時	平成21年2月4日 20:20~21:40	位置・深度	300mアクセス坑道-59 G.L. 297.0 m~G.L. 300.2 m	観察・撮影者	
-------	---------------	----	--------------------------	-------	--	--------	--

総括監督員	主任監督員	監督員

請負人 大林・大成・間特定建設工事共同企業体
現場代理人

凡例	花崗岩	湧水	割れ目	岩級区分境界	黒雲母の濃集	石英脈	グラウト
----	-----	----	-----	--------	--------	-----	------



スケッチ

岩種	花崗岩	電研式岩級	G.L. -297m~299m B G.L. -299m~300.2m B
岩相	①中粒~粗粒花崗岩 (淡桃色、淡灰色)	RMR値	G.L. -297m~299m 74 G.L. -299m~300.2m 80
風化	α	岩石試料番号	M300A59-1 (花崗岩)、M300A59-2 (花崗岩・グラウト)
変質	1~2	採水試料番号	無
湧水	滴水程度		

特記事項

当箇所はアクセス坑道の横坑であり、掘進方向はN11E方向である。横坑観察は鏡面から1.3m離れた場所より目視観察を実施した。

岩種は花崗岩で、岩相は石英の粒径がφ2~7mm程度の中粒~粗粒花崗岩である。切羽全体にφ7~10mm程度までの淡桃色~淡灰色を帯びた長石が散在している。

全体に花崗岩は変質の程度が弱く、黒雲母などの有色鉱物はクォーライト化せずほぼ残存している。

主要な割れ目は、NW走向とENE走向の高角度割れ目、およびNE走向低角度割れ目で、一部NE走向が認められる。

東側壁~鏡面左側まではNW走向高角度西傾斜の割れ目と、NE走向高角度北傾斜および南傾斜の割れ目が、ともに80~100cm間隔で認められる。鏡面左側から西側壁まではNW走向高角度北傾斜および南傾斜の割れ目が60~80cm間隔で認められ、西側壁ではNE~ENE走向高角度北傾斜の割れ目が60cm間隔で認められる。また、天端付近と下半には連続性の良いNE走向南傾斜の低角度割れ目が認められる。

西側壁~鏡面左側には、前回の観察に引き続き、石英脈がNE走向高角度北傾斜で幅10~20mm程度の層状に認められる。

湧水は、東側壁の割れ目2から滴水程度の量が認められた。

岩級区分は、切羽の全面で、割れ目間隔が概ね60~100cmの間隔で、ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さであることからB(A・II・1)級と判断した。

グラウトは、鏡面左側の割れ目9にて黄色グラウトを最大厚さ2mmで、西側壁の割れ目12にて赤色グラウトを最大厚さ1mmで確認した。

A工区地質記載シート

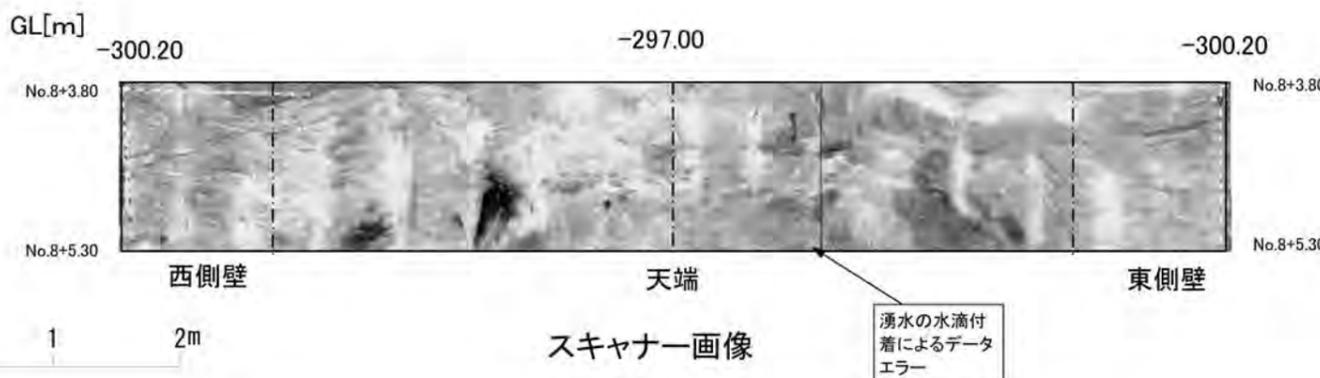
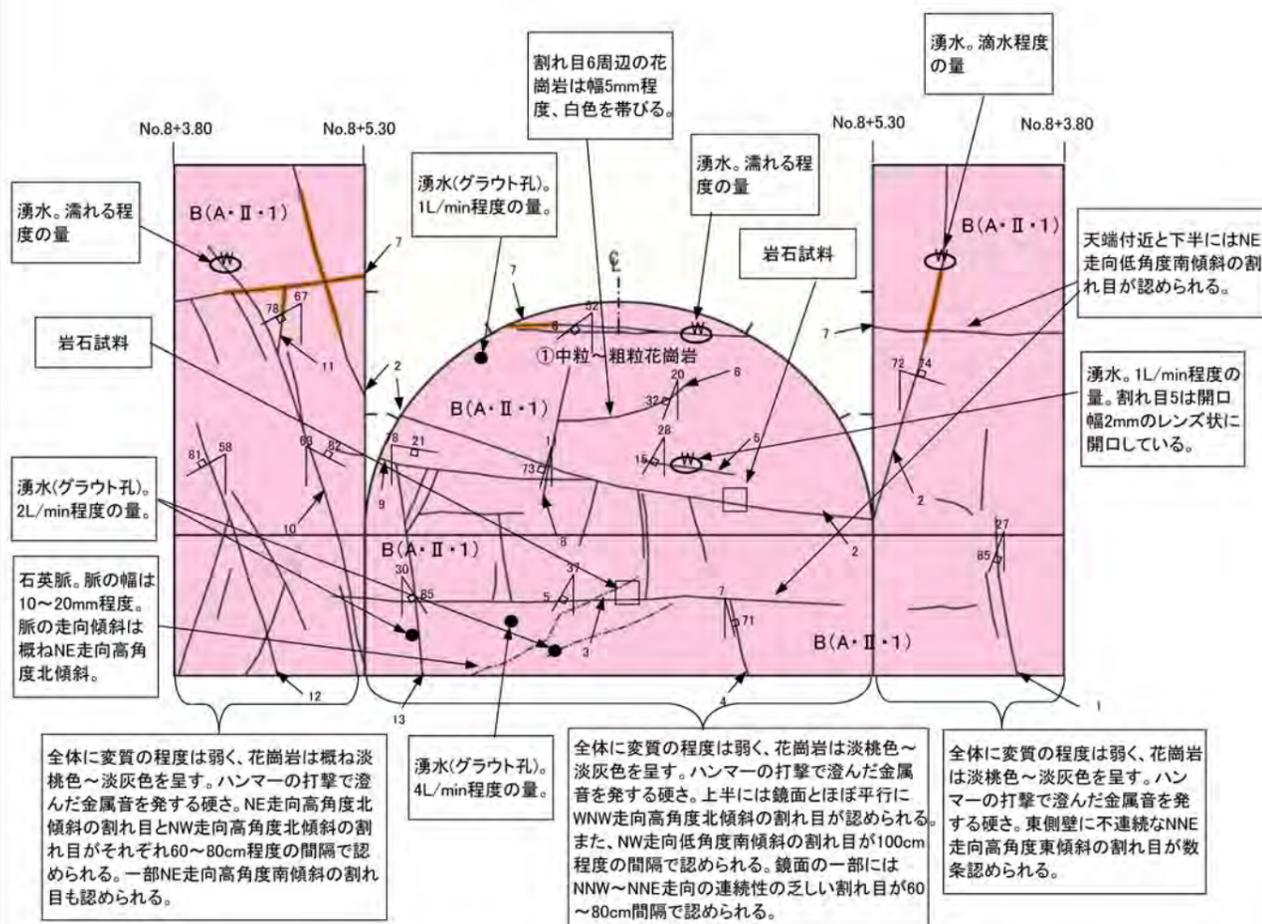
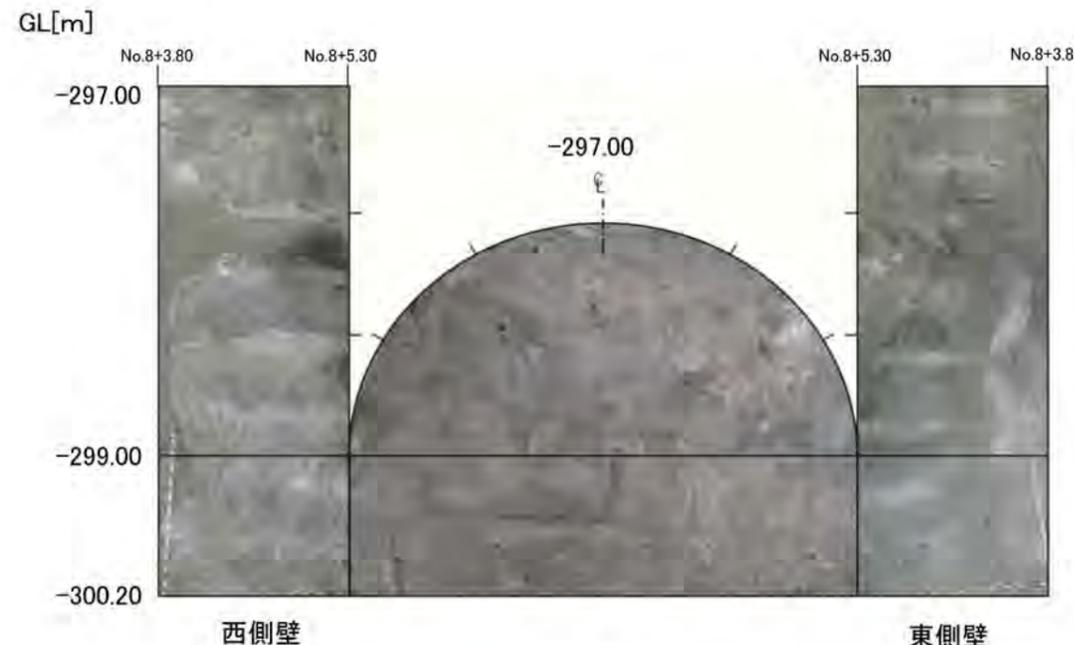
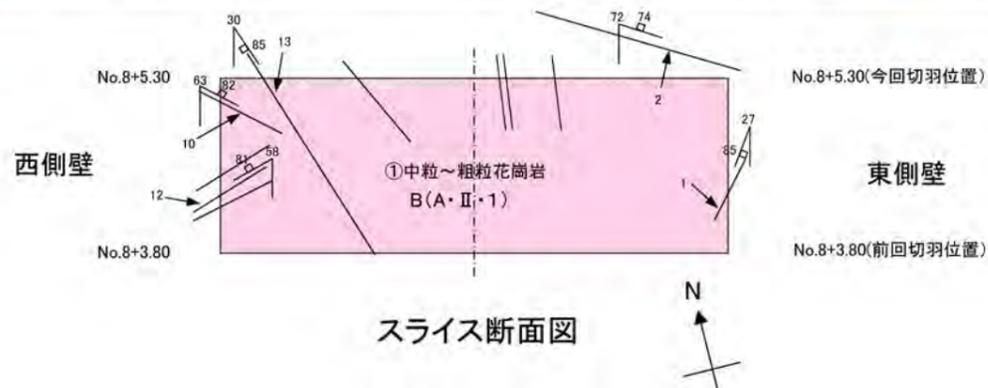
A3-請負-計測工(地質)-090205

シート番号	300mアクセス坑道-60	日時	平成21年2月5日 10:50~12:20	位置・深度	300mアクセス坑道-60 G.L. 297.0 m~G.L. 300.2 m	観察・撮影者	
-------	---------------	----	--------------------------	-------	--	--------	--

総括監督員	主任監督員	監督員

請負人 大林・大成・間特定建設工事共同企業体
現場代理人

凡例	花崗岩	湧水	割れ目	岩級区分境界	黒雲母の濃集	石英脈	グラウト
----	-----	----	-----	--------	--------	-----	------



岩種	花崗岩	電研式岩級	G.L. -297m~299m B G.L. -299m~300.2m B
岩相	①中粒~粗粒花崗岩 (淡桃色、淡灰色)	RMR値	G.L. -297m~299m 70 G.L. -299m~300.2m 80
風化	α	岩石試料番号	M300A60-1 (花崗岩・グラウト)、M300A60-2 (花崗岩・グラウト)
変質	1~2	採水試料番号	無
湧水	1L/min程度		

特記事項

当箇所はアクセス坑道の横坑であり、掘進方向はN11E方向である。横坑観察は鏡面から1.5m離れた場所より目視観察を実施した。

岩種は花崗岩で、岩相は石英の粒径がφ2~7mm程度の中粒~粗粒花崗岩である。切羽全体にφ7~10mm程度までの淡桃色~淡灰色を帯びた長石が散在している。

全体に花崗岩は変質の程度が弱く、黒雲母などの有色鉱物はクロライト化せずほぼ残存している。

割れ目の主要な走向傾斜は、NE走向低角度南傾斜とNW走向高角度北傾斜で、一部NNW走向、NNE走向が認められる。

東側壁では不連続なNNE走向高角度東傾斜の割れ目が100cm以上の間隔で認められる。鏡面の上半には鏡面とほぼ平行にWNW走向高角度北傾斜の割れ目が認められる。また、天端付近と下半にはNE走向低角度南傾斜の割れ目が100cm程度の間隔で認められる。鏡面の一部にはNNW~NNE走向の連続性の乏しい割れ目が60~80cm間隔で認められる。西側壁にはNE走向高角度北傾斜の割れ目とNW走向高角度北傾斜の割れ目がそれぞれ60~80cm程度の間隔で認められる。一部NE走向高角度南傾斜の割れ目も認められる。

鏡面中央下半には、石英脈がNE走向高角度北傾斜で層状に2層認められる。

湧水は、鏡面中央の割れ目5から1L/min程度の量、東側壁上部の割れ目2から滴水程度の量、天端付近の割れ目7、西側壁上部の割れ目10から濡れる程度の量が認められた。

岩級区分は、切羽の全面で、割れ目間隔が概ね60~100cm程度の間隔で、ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さであることからB(A・II・1)級と判断した。

グラウトは、天端付近の割れ目7、東側壁上部~西側壁上部の割れ目2、7にて黄色グラウトを最大厚さ2mmで確認した。

A工区地質記載シート

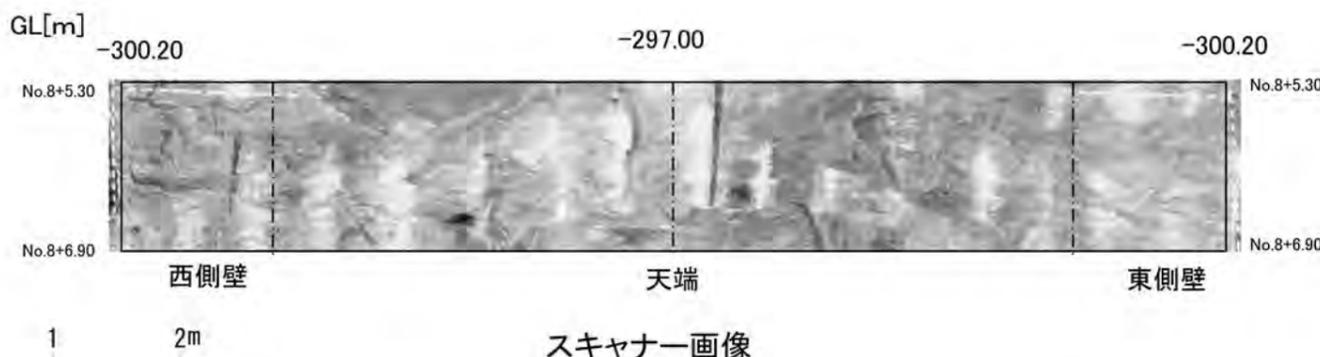
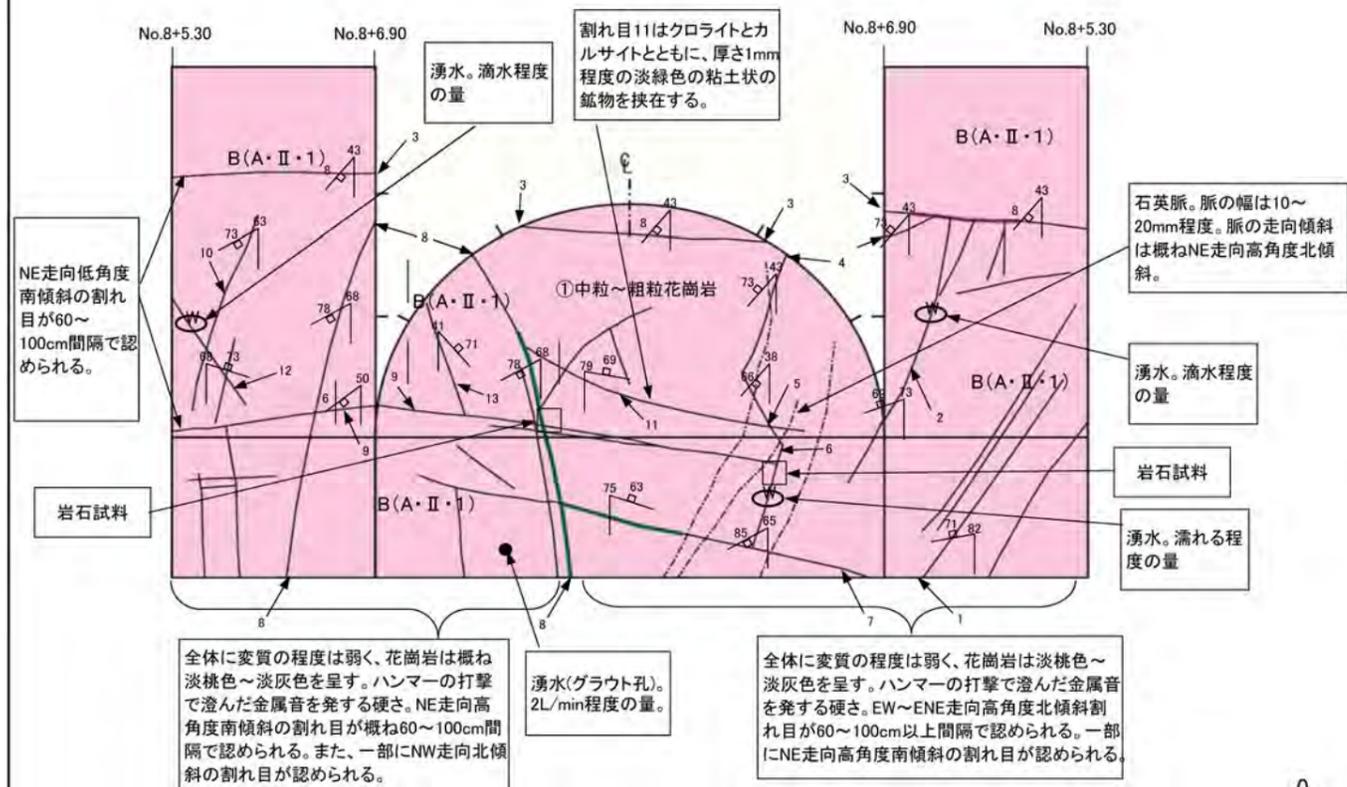
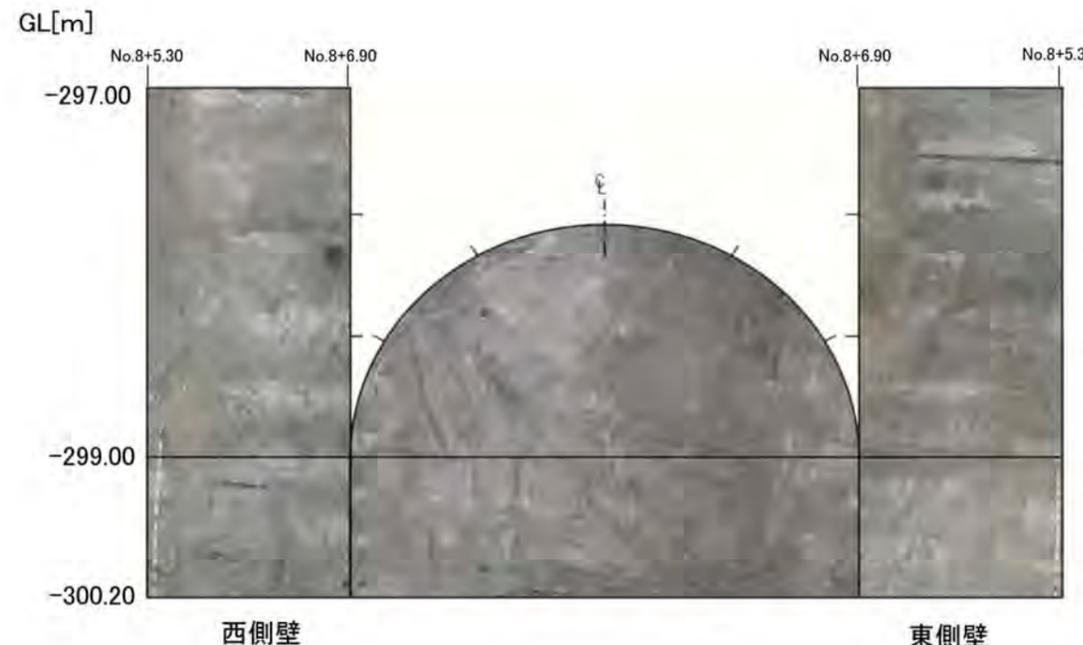
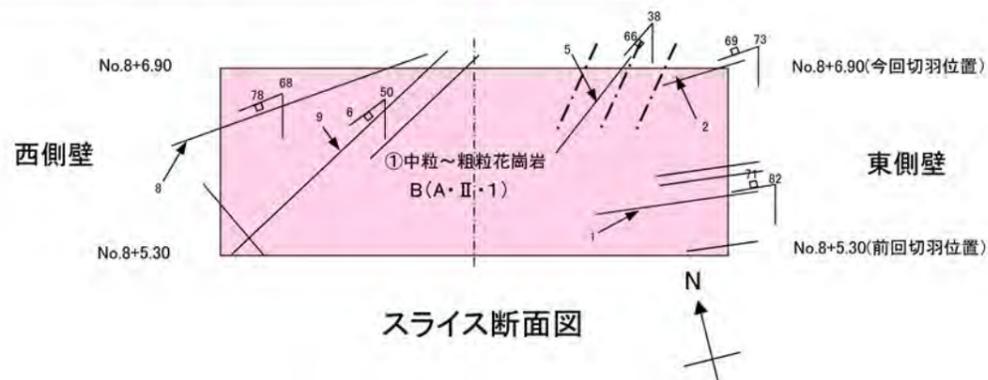
A3-請負-計測工(地質)-090206

シート番号	300mアクセス坑道-61	日時	平成21年2月6日 5:30~7:00	位置・深度	300mアクセス坑道-61 G.L. 297.0 m~G.L. 300.2 m	観察・撮影者	
-------	---------------	----	------------------------	-------	--	--------	--

総括監督員	主任監督員	監督員

請負人 大林・大成・間特定建設工事共同企業体
現場代理人

凡例 花崗岩 湧水 割れ目 石英脈 グラウト



岩種	花崗岩	電研式岩級	G.L. -297m~299m B G.L. -299m~300.2m B
岩相	①中粒~粗粒花崗岩 (淡桃色、淡灰色)	RMR値	G.L. -297m~299m 74 G.L. -299m~300.2m 77
風化	α	岩石試料番号	M300A61-1 (花崗岩・グラウト)、M300A61-2 (花崗岩)
変質	1~2	採水試料番号	無
湧水	滴水程度		

特記事項

当箇所はアクセス坑道の横坑であり、掘進方向はN11E方向である。横坑観察は鏡面から1.6m離れた場所より目視観察を実施した。
岩種は花崗岩で、岩相は石英の粒径がφ2~7mm程度の中粒~粗粒花崗岩である。切羽全体にφ7~10mm程度までの淡桃色~淡灰色を帯びた長石が散在している。
全体に花崗岩は変質の程度が弱く、黒雲母などの有色鉱物はクロライト化せずほぼ残存している。
割れ目の主要な走向傾斜は、NE走向低角度南傾斜とNE走向高角度南傾斜で、一部にEW走向高角度北傾斜が認められる。
東側壁~鏡面左側まではEW~ENE走向高角度北傾斜割れ目が60~100cm以上間隔で認められる。一部にNE走向高角度南傾斜の割れ目が認められる。鏡面左側~西側壁まではNE走向高角度南傾斜の割れ目が概ね60~100cm間隔で認められる。また、一部にNW走向北傾斜の割れ目が認められる。

鏡面右側には、前回の観察に引き続き、石英脈がNE走向高角度北傾斜で層状に3層認められる。
湧水は、東側壁の割れ目2と西側壁の割れ目10から滴水程度の量、鏡面右側の割れ目6から濡れる程度の量が認められた。
岩級区分は、切羽の全面では、割れ目間隔が概ね60~100cm程度の間隔で、ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さであることからB(A・II・1)級と判断した。
グラウトは、天端付近の割れ目3にて赤色グラウトを最大厚さ1mmで、鏡面中央の割れ目7、8にて緑色グラウトを最大厚さ2mmで確認した。

A工区地質記載シート

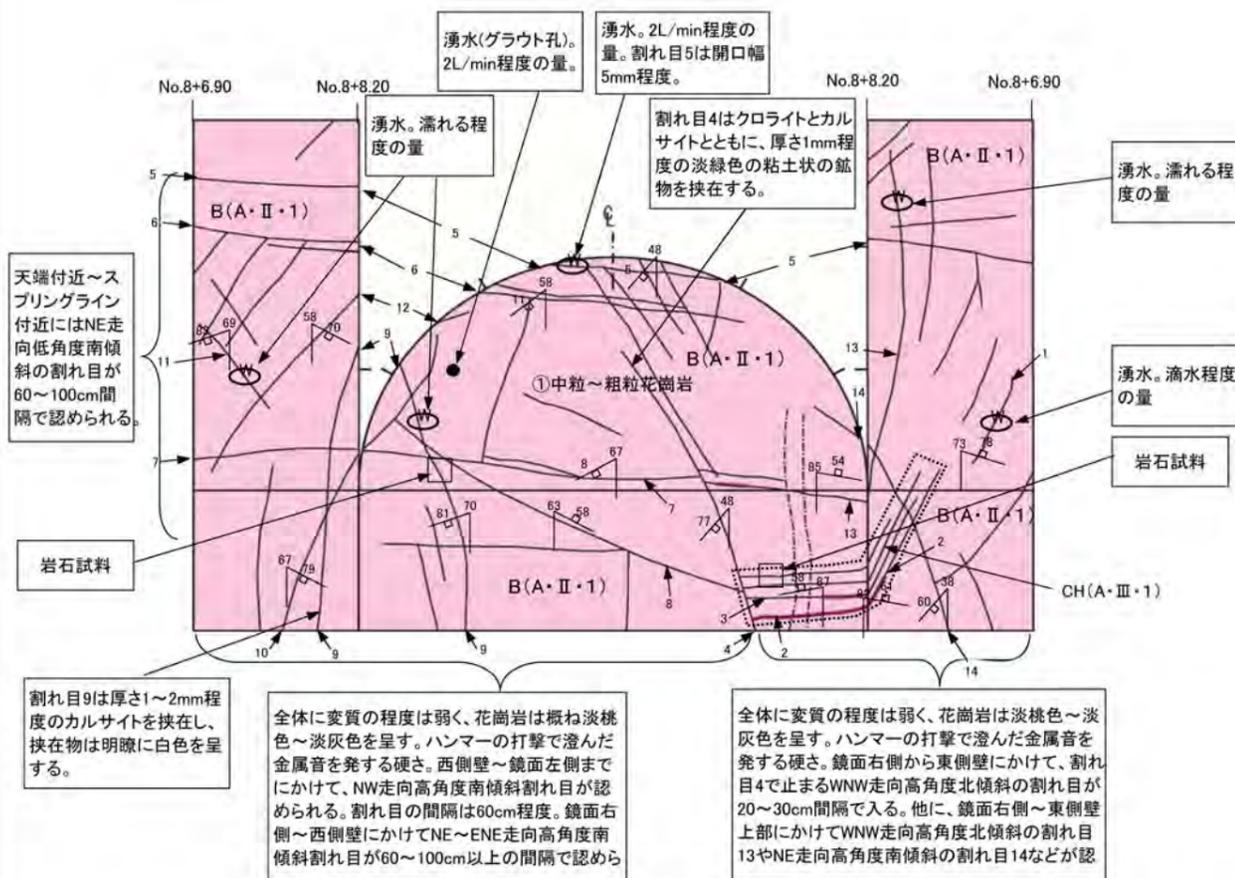
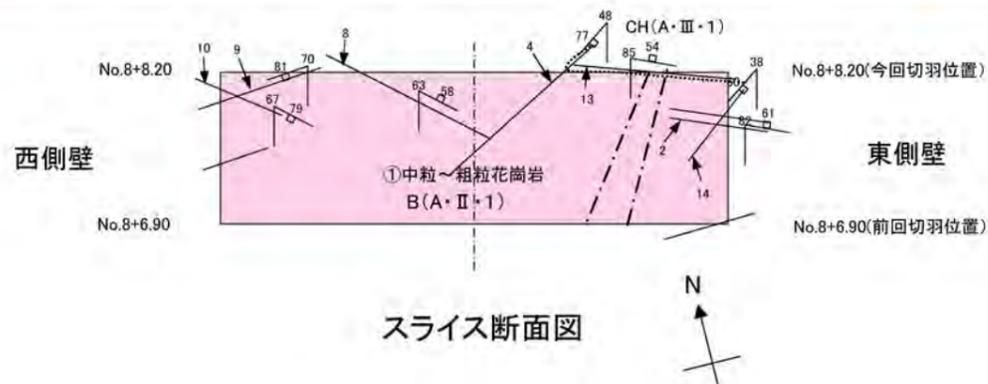
A3-請負-計測工(地質)-090207

シート番号	300mアクセス坑道-62	日時	平成21年2月7日 3:10~4:40	位置・深度	300mアクセス坑道-62 G.L. 297.0 m~G.L. 300.2 m	観察・撮影者	
-------	---------------	----	------------------------	-------	--	--------	--

総括監督員	主任監督員	監督員

請負人 大林・大成・間特定建設工事共同企業体
現場代理人

凡例 花崗岩 湧水 割れ目 岩級区分境界 石英脈 割れ目の走向傾斜 グラウト



スケッチ

岩種	花崗岩	電研式岩級	G.L. -297m~299m G.L. -299m~300.2m	B/CH B/CH
岩相	①中粒~粗粒花崗岩 (淡桃色、淡灰色)	RMR値	G.L. -297m~299m G.L. -299m~300.2m	70 80
風化	α	岩石試料番号	M300A62-1 (花崗岩)、M300A62-2 (花崗岩)	
変質	1~2	採水試料番号	無	
湧水	2L/min			

特記事項

当箇所はアクセス坑道の横坑であり、掘進方向はN11E方向である。横坑観察は鏡面から1.3m離れた場所より目視観察を実施した。
岩種は花崗岩で、岩相は石英の粒径がφ2~7mm程度の中粒~粗粒花崗岩である。切羽全体にφ7~10mm程度までの淡桃色~淡灰色を帯びた長石が散在している。
全体に花崗岩は変質の程度が弱く、黒雲母などの有色鉱物はクロライト化せずほぼ残存している。
割れ目の主要な走向傾斜は、NE走向低角度南傾斜とNE走向高角度南傾斜で、一部にENE走向高角度南傾斜とNW走向高角度北傾斜が認められる。
鏡面右側から東側壁にかけては、割れ目4で止まるNW走向高角度北傾斜の割れ目が20~30cm間隔で入る。他に、鏡面右側~東側壁上部にかけてWNW走向高角度北傾斜の割れ目13やNE走向高角度南傾斜の割れ目14などが認められる。西側壁~鏡面左側までにかけては、NW走向高角度南傾斜割れ目が60~100cm以上の間隔で認められる。鏡面右側~西側壁にかけてNE~ENE走向高角度南傾斜の割れ目が60~100cm以上の間隔で認められる。

鏡面右側には、前回の観察に引き続き、石英脈がNE走向高角度北傾斜で層状に2層認められる。
湧水は、天端付近の割れ目5から2L/min程度、東側壁の割れ目1から滴水程度、天端付近の割れ目13、西側壁の割れ目11と鏡面左側の割れ目9から濡れる程度の量が認められた。
岩級区分は、鏡面右側~東側壁の一部で割れ目間隔が20~30cm程度で、ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さであることからB(A・Ⅱ・1)級と判断した。その他の切羽の大半では、割れ目間隔が概ね60~100cm程度の間隔で、ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さであることからB(A・Ⅱ・1)級と判断した。
グラウトは、鏡面右側の割れ目2、3、13にて赤色グラウトを最大で厚さ2mm確認した。

A工区地質記載シート

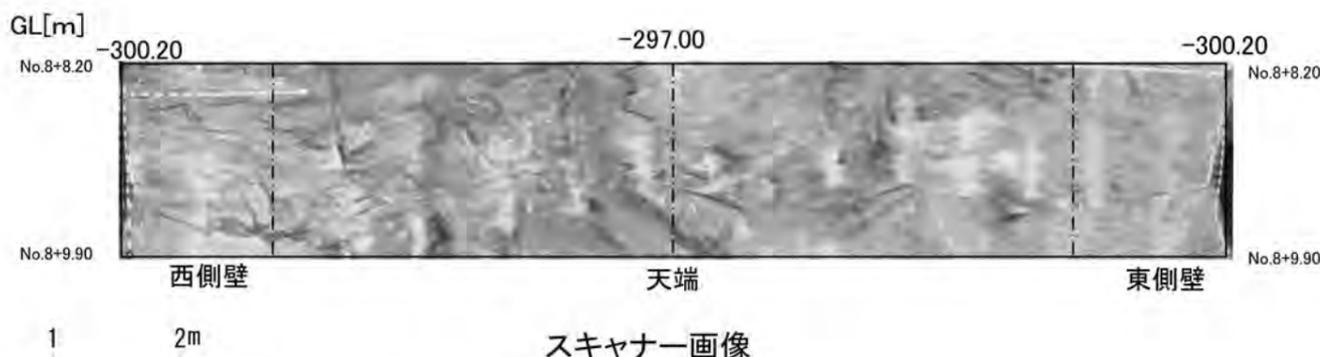
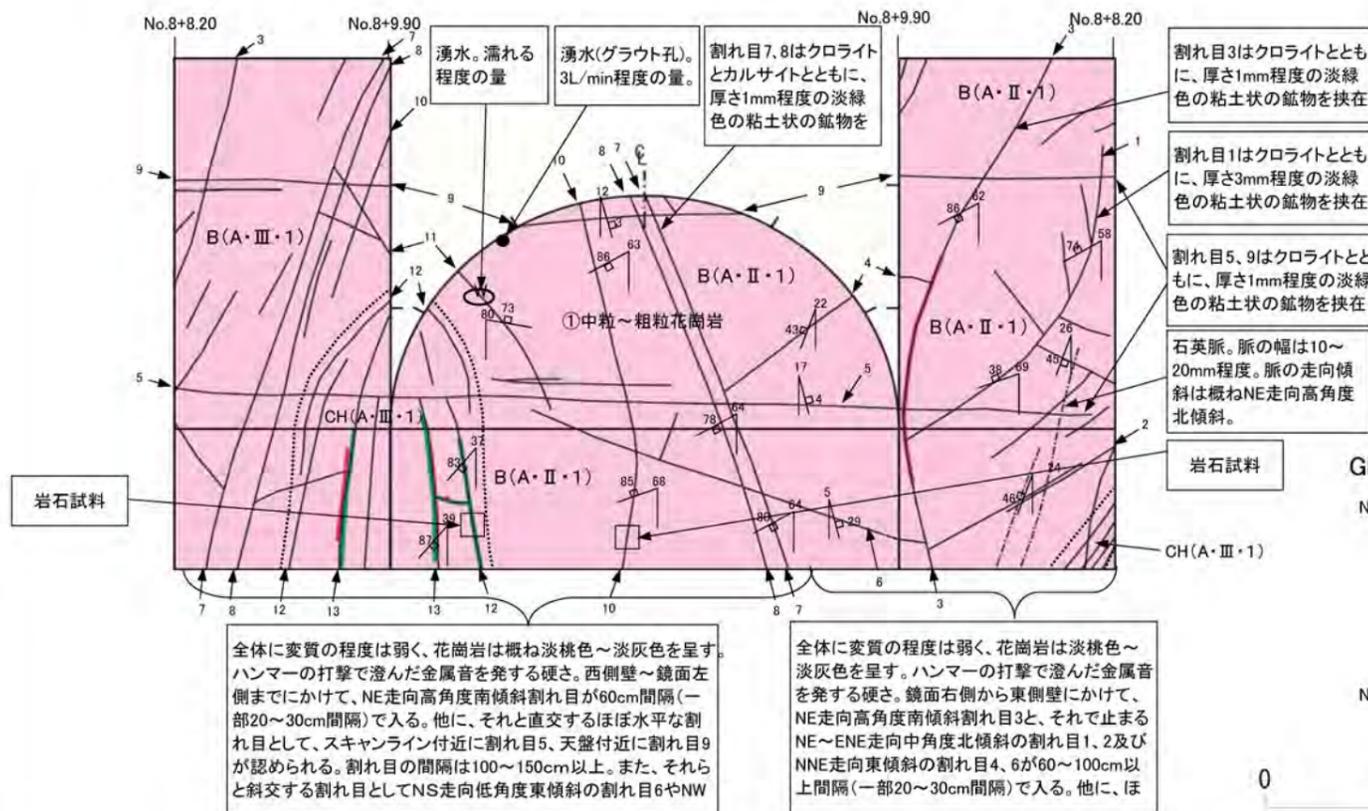
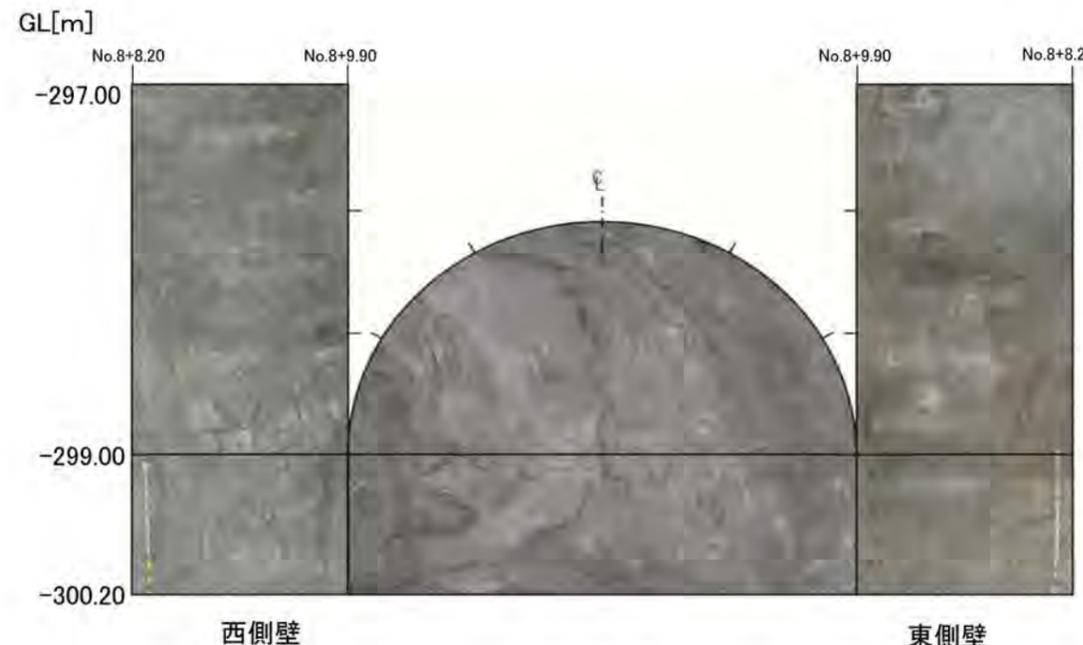
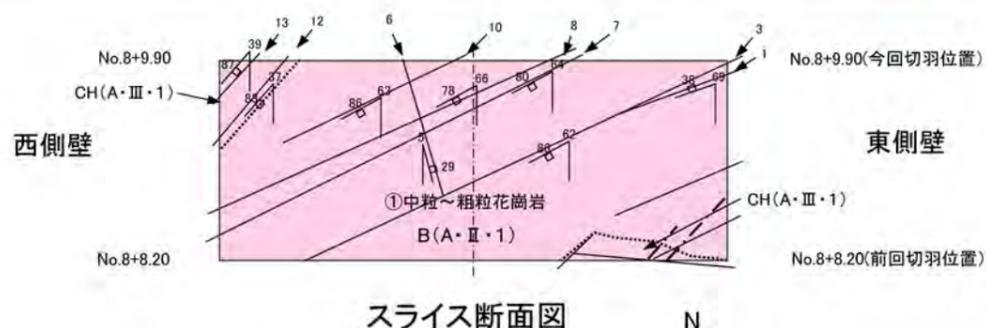
A3-請負-計測工(地質)-090210

シート番号	300mアクセス坑道-63	日時	平成21年2月10日 0:20~1:50	位置・深度	300mアクセス坑道-63 G.L. 297.0 m~G.L. 300.2 m	観察・撮影者	
-------	---------------	----	-------------------------	-------	--	--------	--

総括監督員	主任監督員	監督員

請負人 大林・大成・間特定建設工事共同企業体
現場代理人

凡例	花崗岩	湧水	割れ目	岩級区分境界	石英脈	割れ目の走向傾斜	グラウト
----	-----	----	-----	--------	-----	----------	------



全体に変質の程度は弱く、花崗岩は概ね淡桃色～淡灰色を呈す。ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する硬さ。西側壁～鏡面左側までにかけて、NE走向高角度南傾斜割れ目が60cm間隔(一部20~30cm間隔)で入る。他に、それと直交するほぼ水平な割れ目として、スキャンライン付近に割れ目5、天盤付近に割れ目9が認められる。割れ目の間隔は100~150cm以上。また、それらと斜交する割れ目としてNS走向低角度東傾斜の割れ目6やNW

全体に変質の程度は弱く、花崗岩は淡桃色～淡灰色を呈す。ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する硬さ。鏡面右側から東側壁にかけて、NE走向高角度南傾斜割れ目3と、それに斜交して止まる割れ目1、2及びENE走向中角度北傾斜の割れ目1、2及びNNE走向東傾斜の割れ目4、6が60~100cm以上間隔(一部20~30cm間隔)で入る。他に、ほ

スケッチ

岩種	花崗岩	電研式岩級	G.L. -297m~299m G.L. -299m~300.2m	B/CH B/CH
岩相	①中粒~粗粒花崗岩 (淡桃色、淡灰色)	RMR値	G.L. -297m~299m G.L. -299m~300.2m	77 80
風化	α	岩石試料番号	M300A63-1 (花崗岩)、M300A63-2 (花崗岩)	
変質	1~2	採水試料番号	無	
湧水	濡れる程度			

特記事項

当箇所はアクセス坑道の横坑であり、掘進方向はN11E方向である。横坑観察は鏡面から1.3m離れた場所より目視観察を実施した。岩種は花崗岩で、岩相は石英の粒径がφ2~7mm程度の中粒~粗粒花崗岩である。切羽全体にφ7~10mm程度までの淡桃色～淡灰色を帯びた長石が散在している。全体に花崗岩は変質の程度が弱く、黒雲母などの有色鉱物はクロライト化せずほぼ残存している。割れ目の主要な走向傾斜は、NS走向低角度東傾斜(ほぼ水平)とNE走向高角度南傾斜で、一部にNE~ENE中角度北傾斜やNW走向高角度北傾斜が認められる。鏡面右側から東側壁にかけて、NE走向高角度南傾斜割れ目3と、それに斜交して止まる割れ目1、2及び割れ目4、6が60~100cm以上間隔で入る。他に、ほぼ水平な割れ目5、9が認められる。西側壁～鏡面左側までにかけて、NE走向高角度南傾斜割れ目が20~30cm間隔で入る。他に、それと直交するほぼ水平な割れ目として、スキャンライン付近に割れ目5、天盤付近に割れ目9が認められる。割れ目の間隔は100~150cm以上。また、それらと斜交する割れ目としてNS系東傾斜の割れ目6や北傾斜の割れ目11などが認められる。

東側壁には、前回の観察に引き続き、石英脈がNE走向高角度北傾斜で層状に2層認められる。湧水は、鏡面左側の割れ目11から濡れる程度の量が認められた。岩級区分は、東側壁の一部及び鏡面左側~西側壁の一部で割れ目間隔が20~30cm程度で、ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さであることからCH(A・Ⅲ・1)級と判断した。その他の切羽の大半では、割れ目間隔が概ね60~100cm程度の間隔で、ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さであることからB(A・Ⅱ・1)級と判断した。グラウトは、鏡面右側の割れ目3、西側壁～鏡面左側の割れ目13にて赤色グラウトを、また、西側壁～鏡面左側の割れ目12, 13にて緑色のグラウトを最大で厚さ2mm確認した。

A工区地質記載シート

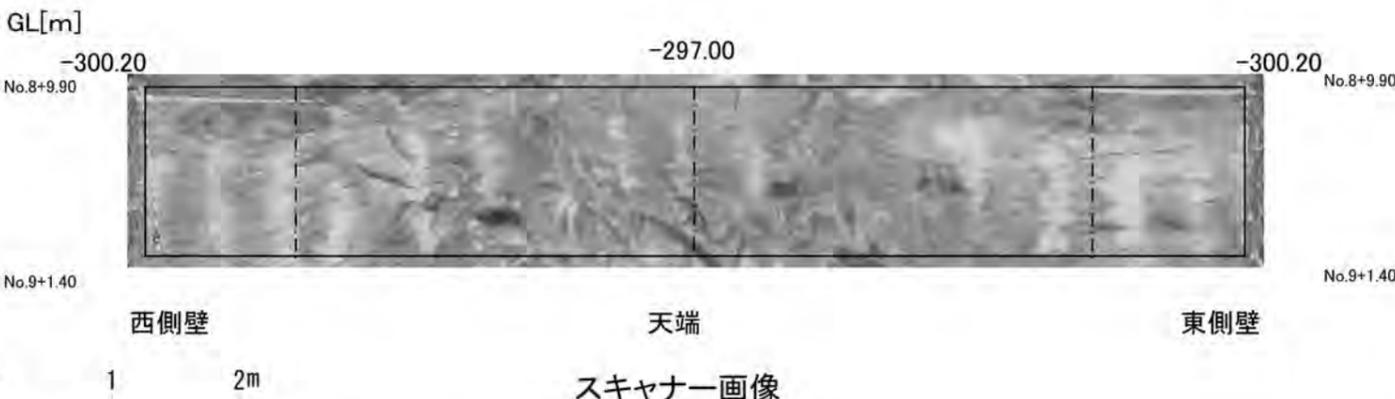
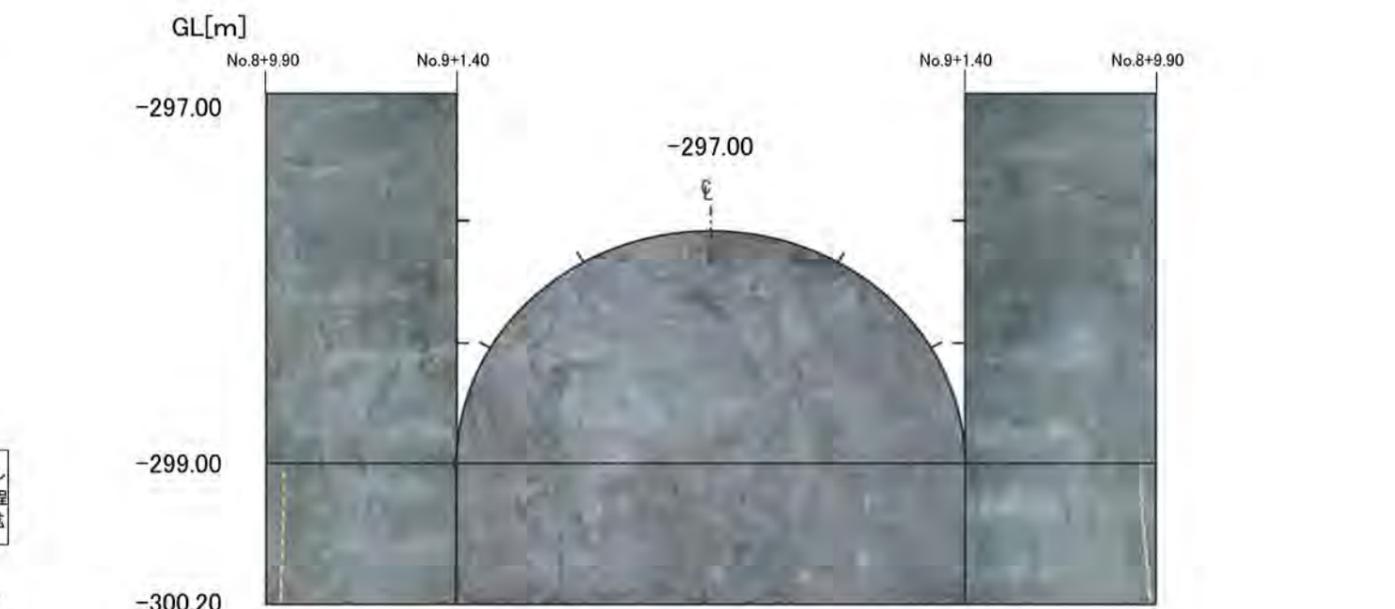
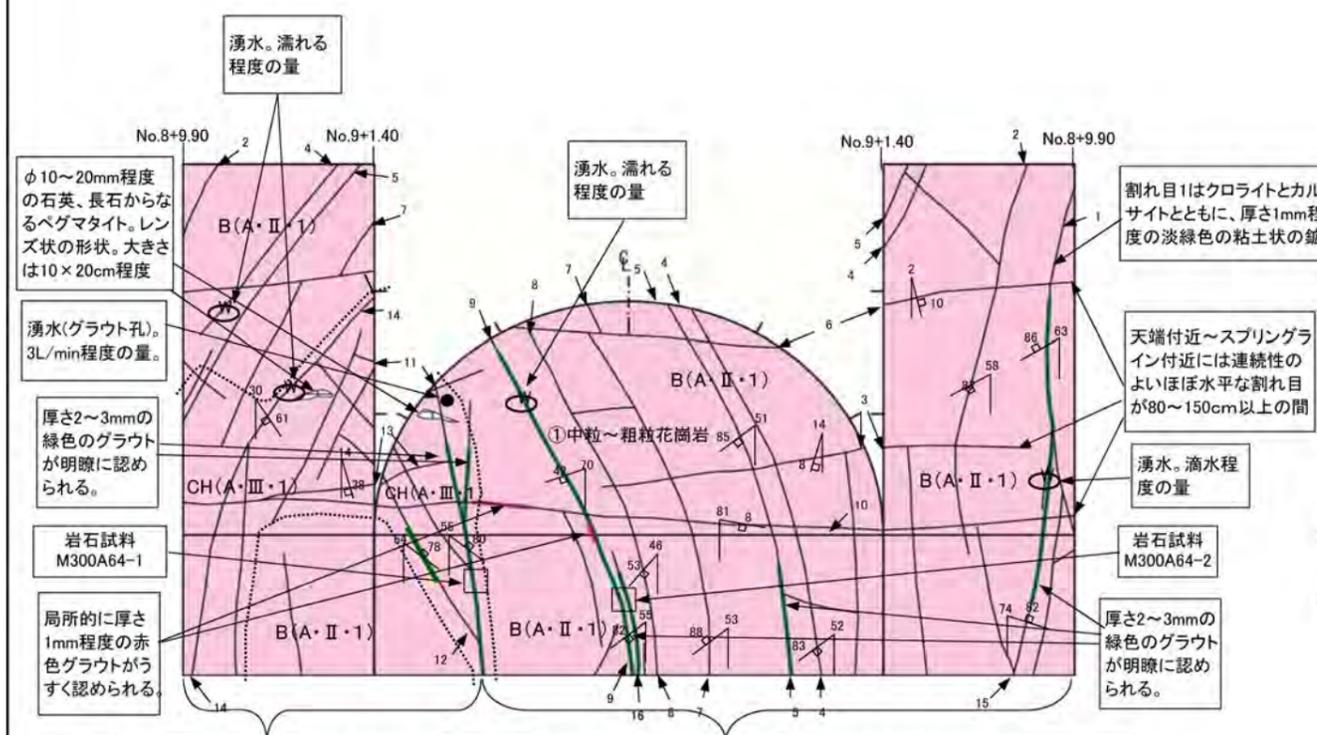
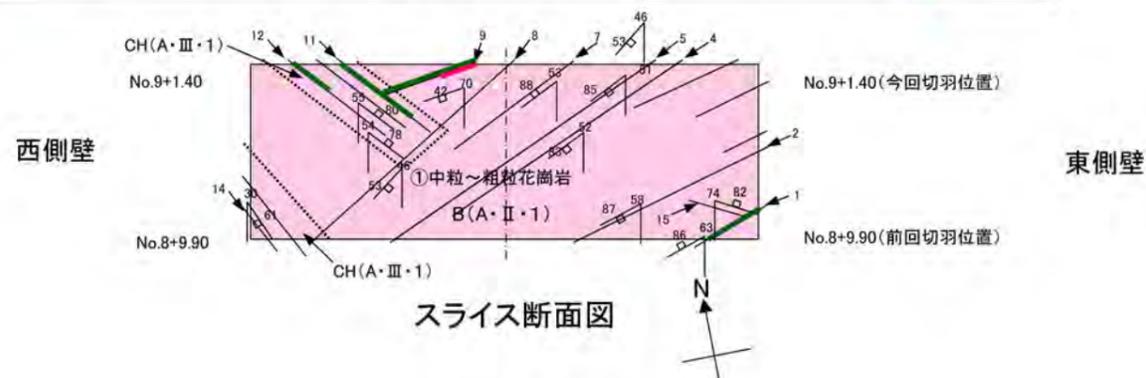
A3-請負-計測工(地質)-090211

シート番号	300mアクセス坑道-64	日時	平成21年2月11日 1:00~2:30	位置・深度	300mアクセス坑道-64 G.L. 297.0 m~G.L. 300.2 m	観察・撮影者	
-------	---------------	----	-------------------------	-------	--	--------	--

総括監督員	主任監督員	監督員

請負人 大林・大成・間特定建設工事共同企業体
現場代理人

凡例 花崗岩 湧水 割れ目 岩級区分境界 割れ目の走向傾斜 グラウト



全体に変質の程度は弱く、花崗岩は淡桃色~淡灰色を呈す。ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する硬さ。西側壁~鏡面左側までにかけて、NNW走向西傾斜の割れ目14やNW走向高角度北傾斜の割れ目11、12等が60~100cm程度の間隔(一部20~30cm間隔)で入る。他に、ほぼ水平な割れ目6、10が認められる。割れ目の走向は、鏡面左側でNW走向、鏡面右側でENE走向が卓越する。

全体に変質の程度は弱く、花崗岩は概ね淡桃色~淡灰色を呈す。ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する硬さ。鏡面左側~東側壁にかけて、NE~ENE走向高角度南傾斜割れ目が60~100cm程度の間隔で入る。他に、ほぼ水平な割れ目として、スプリングライン付近に割れ目10、天端付近に割れ目6、その間に割れ目3が認められる。この水平な割れ目の間隔は80~150cm以上。

スケッチ

岩種	花崗岩	電研式岩級	G.L. -297m~299m G.L. -299m~300.2m	B/CH B/CH
岩相	①中粒~粗粒花崗岩 (淡桃色、淡灰色)	RMR値	G.L. -297m~299m G.L. -299m~300.2m	73 80
風化	α	岩石試料番号	M300A64-1 (花崗岩)、M300A64-2 (花崗岩)	
変質	1~2	採水試料番号	無	
湧水	滴水程度			

特記事項

当箇所はアクセス坑道の横坑であり、掘進方向はN11E方向である。横坑観察は鏡面から1.5m離れた場所より目視観察を実施した。

岩種は花崗岩で、岩相は石英の粒径がφ2~7mm程度の中粒~粗粒花崗岩である。切羽全体にφ7~10mm程度までの淡桃色~淡灰色を帯びた長石が散在している。

全体に花崗岩は変質の程度が弱く、黒雲母などの有色鉱物はクロライト化せずほぼ残存している。

割れ目の主要な走向傾斜は、ほぼ水平で低角度南傾斜のものNE走向高角度南傾斜で、一部にNW走向高角度北傾斜が認められる。

鏡面左側~東側壁にかけては、NE~ENE走向高角度南傾斜割れ目が60~100cm程度で入る。また、ほぼ水平な割れ目として、スプリングライン付近に割れ目10、天端付近に割れ目6などが80~150cm以上の間隔で認められる。西側壁~鏡面左側にかけては、NNW走向西傾斜の割れ目14や、NW走向高角度北傾斜の割れ目11、12などが60~100cm程度の間隔(一部20~30cm間隔)で入り、他にほぼ水平な割れ目6や割れ目10が認められる。

西側壁及び鏡面左側には、レンズ状にペグマタイトが認められる。湧水は、東側壁の割れ目15から滴水程度の量、鏡面左側の割れ目9、西側壁の割れ目4、14から濡れる程度の量が認められた。

岩級区分は、鏡面左側~西側壁の一部で割れ目間隔が20~30cm程度で、ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さであることからCH(A・III・1)級と判断した。その他の切羽の大半では、割れ目間隔が概ね60~100cm程度の間隔で、ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さであることからB(A・II・1)級と判断した。

グラウトは、東側壁の割れ目1、15、鏡面の割れ目5、9、11、12、16にて緑色グラウトを最大厚さ2mmで、また、西側壁~鏡面左側の割れ目9、10にて赤色のグラウトを最大厚さ1mmで確認した。

A工区地質記載シート

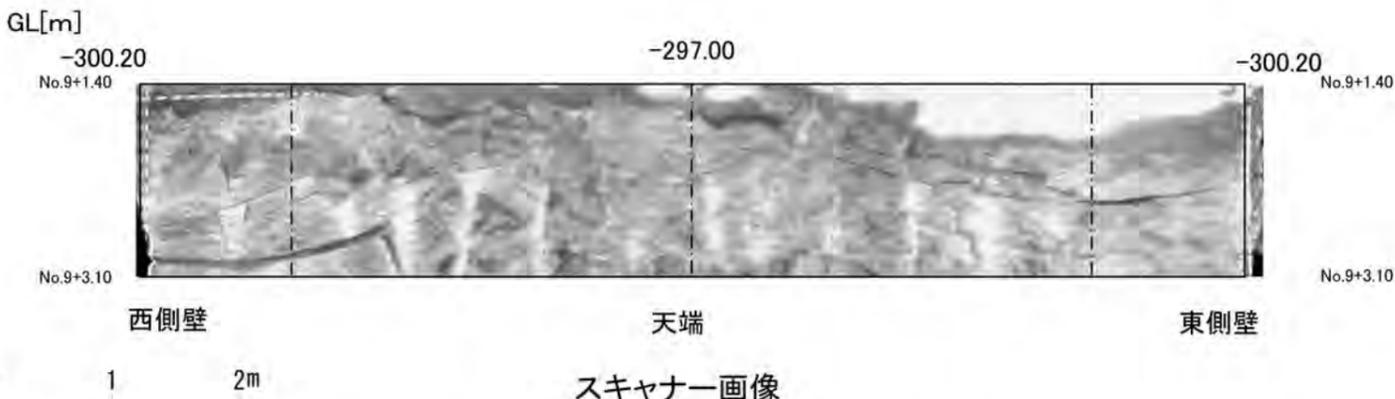
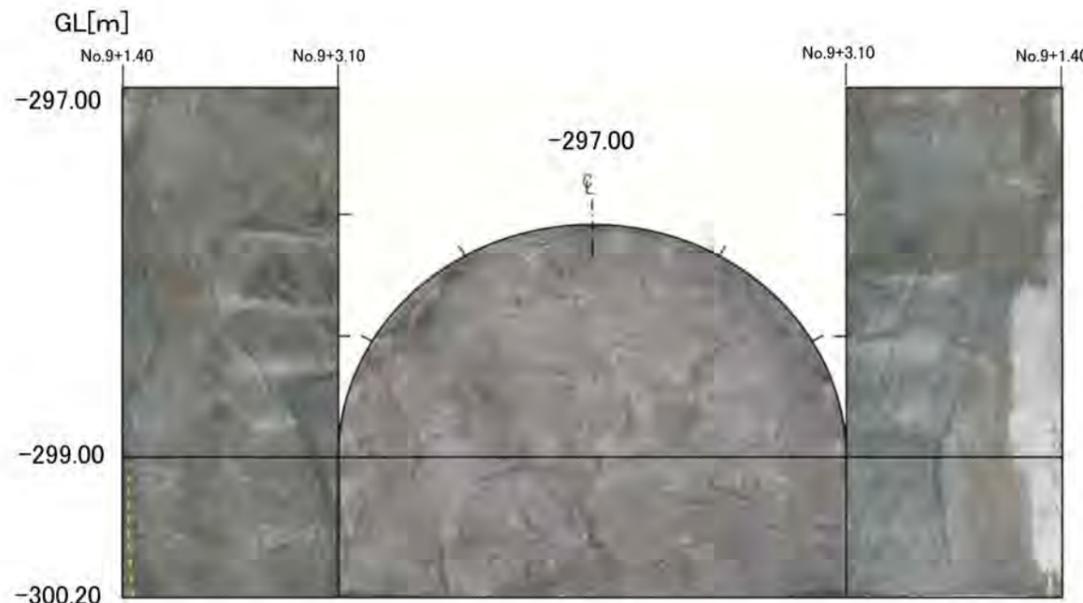
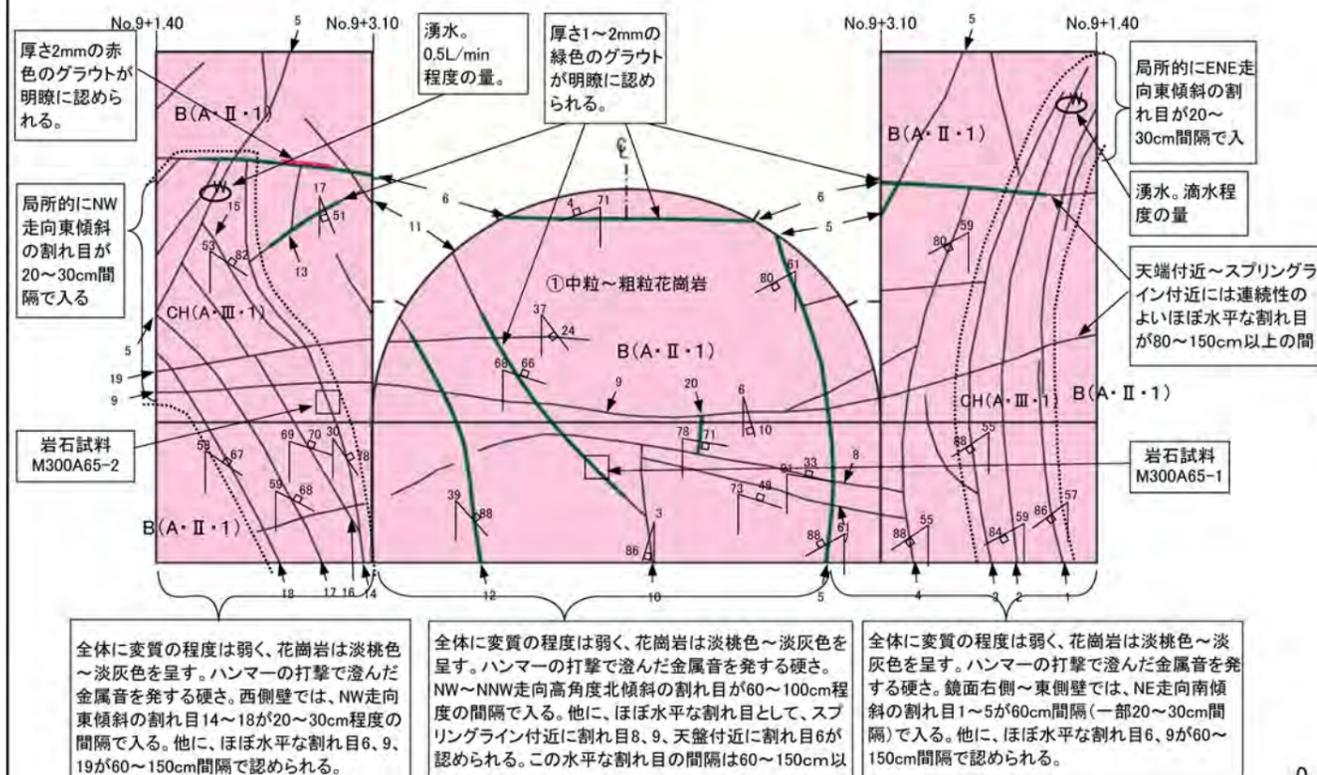
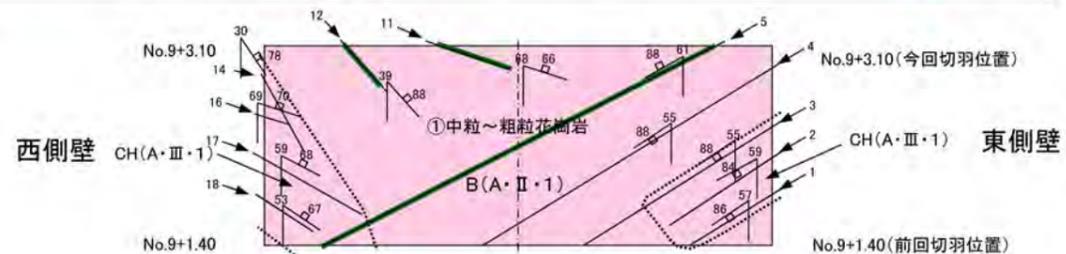
A3-請負-計測工(地質)-090212

シート番号	300mアクセス坑道-65	日時	平成21年2月12日 0:30~2:00	位置・深度	300mアクセス坑道-65 G.L. 297.0 m~G.L. 300.2 m	観察・撮影者	
-------	---------------	----	-------------------------	-------	--	--------	--

総括監督員	主任監督員	監督員

請負人 大林・大成・間特定建設工事共同企業体
現場代理人

凡例 花崗岩 湧水 割れ目 岩級区分境界 割れ目の走向傾斜 グラウト



岩種	花崗岩	電研式岩級	G.L. -297m~299m B/CH G.L. -299m~300.2m B/CH
岩相	①中粒~粗粒花崗岩 (淡桃色、淡灰色)	RMR値	G.L. -297m~299m 74 G.L. -299m~300.2m 77
風化	α	岩石試料番号	M300A65-1 (花崗岩・グラウト)、 M300A65-2 (花崗岩)
変質	1~2	採水試料番号	無
湧水	0.5L/min		

特記事項

当箇所はアクセス坑道の横坑であり、掘進方向はN11E方向である。横坑観察は鏡面から1.7m離れた場所より目視観察を実施した。
岩種は花崗岩で、岩相は石英の粒径がφ2~7mm程度の中粒~粗粒花崗岩である。切羽全体にφ7~10mm程度までの淡桃色~淡灰色を帯びた長石が散在している。
全体に花崗岩は変質の程度が弱く、黒雲母などの有色鉱物はクロライト化せずほぼ残存している。
割れ目の主要な走向傾斜は、低角度でほぼ水平とENE走向高角度南傾斜、NW~NNW走向高角度東傾斜である。
東側壁から鏡面右側にかけて、NE走向高角度南傾斜割れ目が60cm間隔(一部20~30cm間隔)で入る。鏡面にはNW~NNW走向高角度北傾斜の割れ目が60~100cm程度の間隔で入る。西側壁には、NW走向東傾斜の割れ目が20~30cm程度の間隔で入る。ほぼ水平な割れ目として、スプリングライン付近に割れ目8、9、天盤付近に割れ目6が認められる。この水平な割れ目の間隔は60~150cm以上。
湧水は、東側壁の割れ目2で通水程度、西側壁の割れ目5から0.5L/min程度の量が認められた。
岩級区分は、西側壁及び東側壁の一部では、割れ目間隔が20~30cm程度で、ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さであることからCH(A・Ⅲ・1)級と判断した。その他の切羽の大半では、割れ目間隔が概ね60~150cm程度の間隔で、ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さであることからB(A・Ⅱ・1)級と判断した。
グラウトは、東側壁の割れ目5、6、鏡面の割れ目5、6、11、12、20西側壁割れ目6、13にて明瞭な緑色グラウトを、また、西側壁の割れ目6にて赤色グラウトを最大で厚さ2mm確認した。

A工区地質記載シート

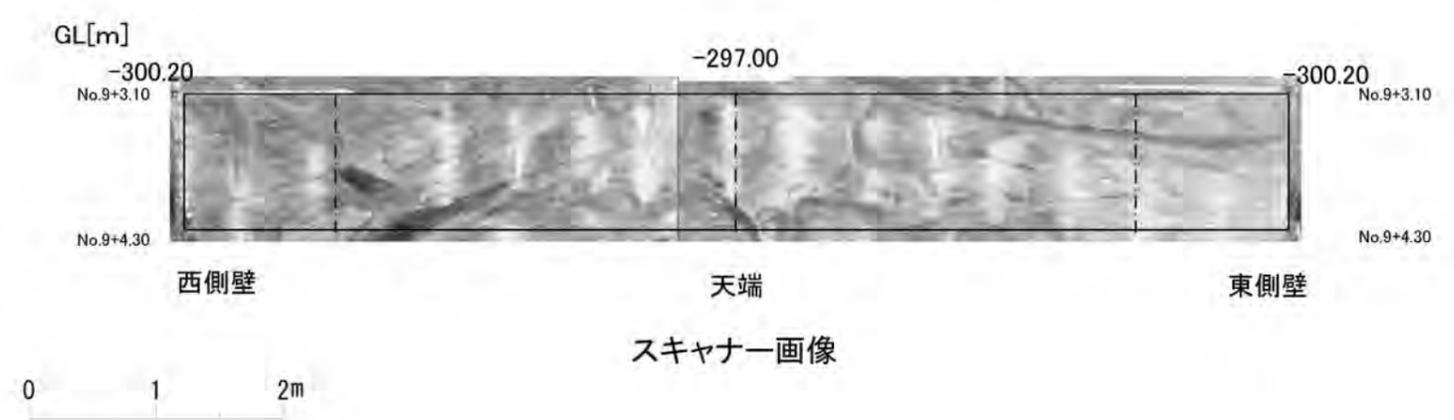
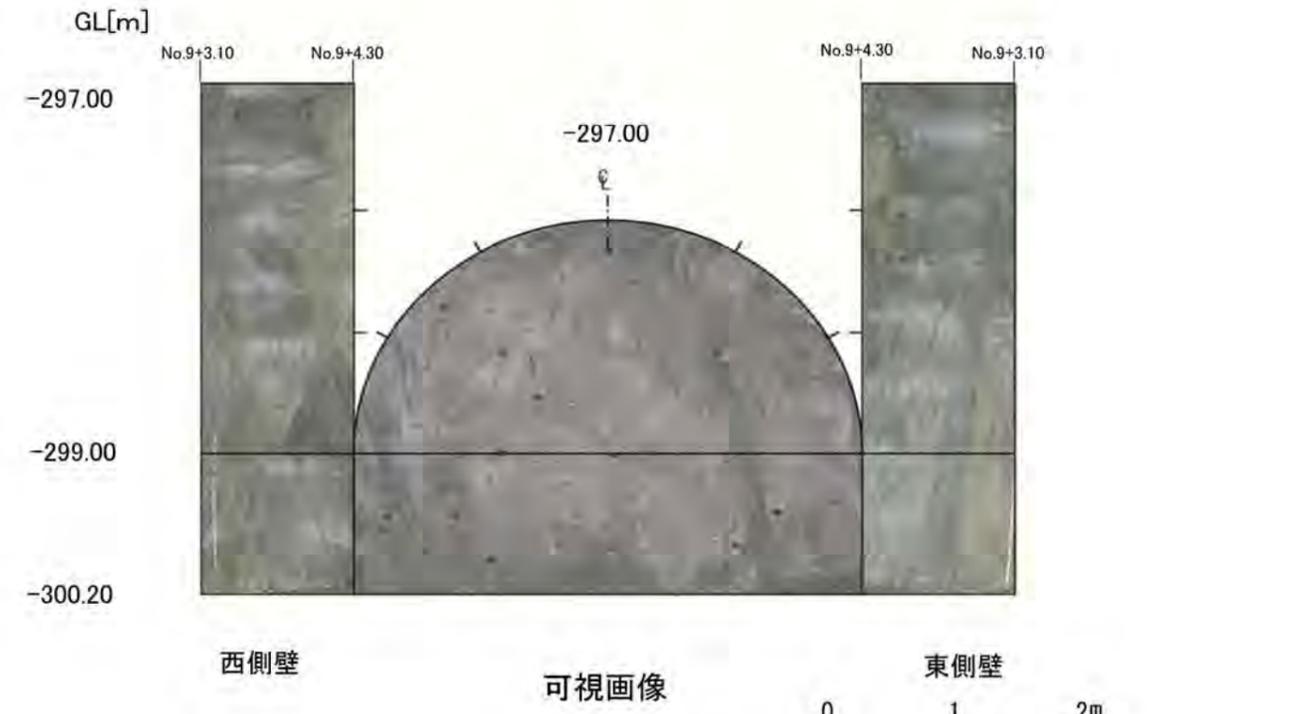
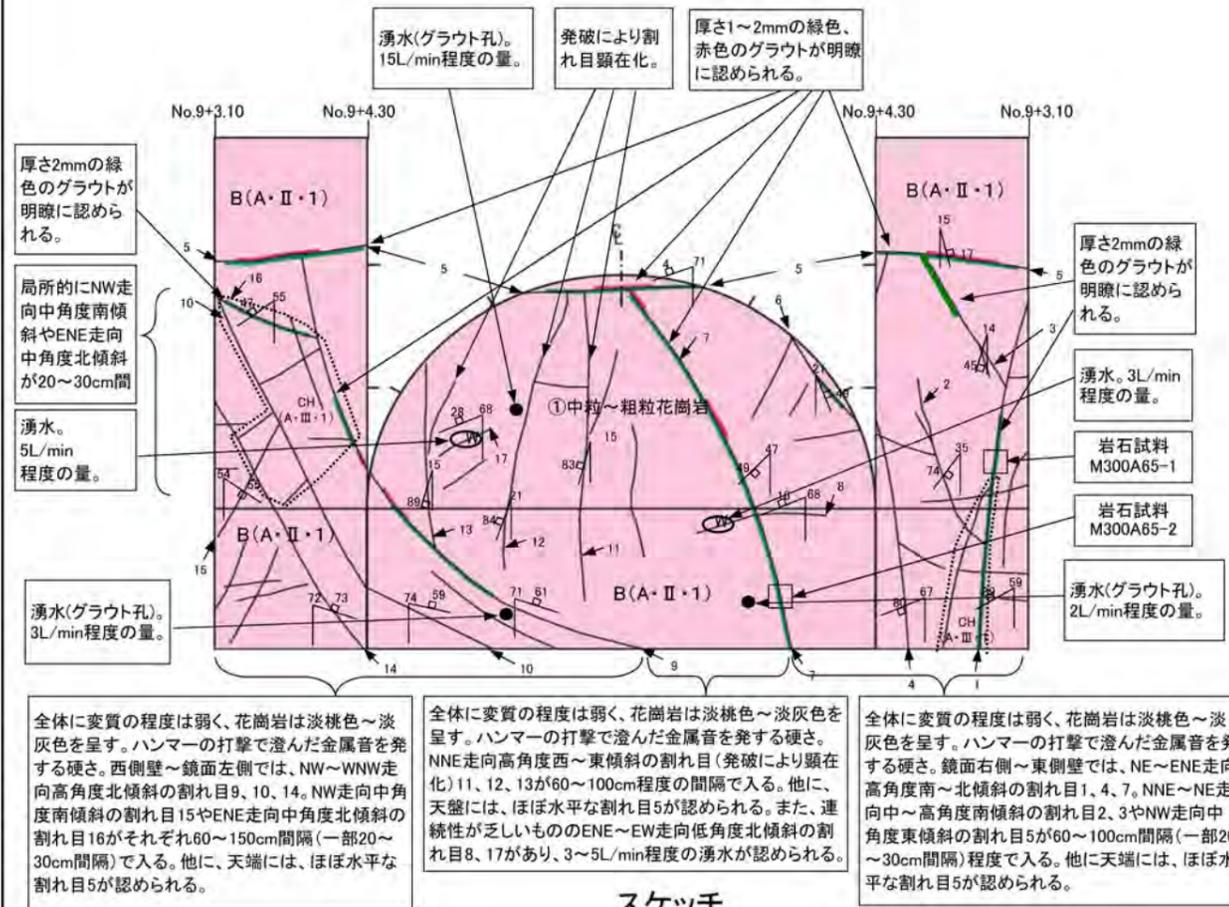
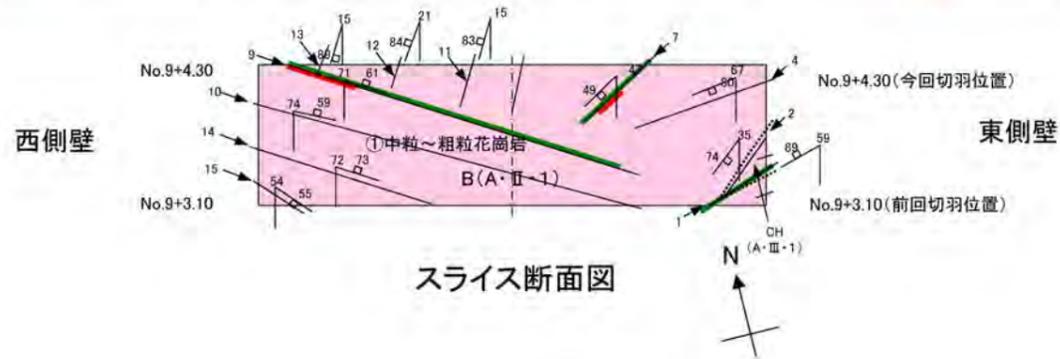
A3-請負-計測工(地質)-090218

シート番号	300mアクセス坑道-66	日時	平成21年2月18日 10:30~12:30	位置・深度	300mアクセス坑道-66 G.L. 297.0 m~G.L. 300.2 m	観察・撮影者	
-------	---------------	----	---------------------------	-------	--	--------	--

総括監督員	主任監督員	監督員

請負人 大林・大成・間特定建設工事共同企業体
現場代理人

凡例	花崗岩	湧水	割れ目	岩級区分境界	割れ目の走向傾斜	グラウト	グラウト湧水面所
----	-----	----	-----	--------	----------	------	----------



岩種	花崗岩	電研式岩級	G.L. -297m~299m B/CH
岩相	①中粒~粗粒花崗岩 (淡桃色、淡灰色)	RMR値	G.L. -297m~299m 70 G.L. -299m~300.2m 70
風化	α	岩石試料番号	M300A66-1 (花崗岩・グラウト)、 M300A66-2 (花崗岩・グラウト)
変質	1~2	採水試料番号	無
湧水	5L/min		

特記事項

当箇所はアクセス坑道の横坑であり、掘進方向はN11E方向である。横坑観察は鏡面から1.2m離れた場所より目視観察を実施した。

岩種は花崗岩で、岩相は石英の粒径がφ2~7mm程度の中粒~粗粒花崗岩である。切羽全体にφ7~10mm程度までの淡桃色~淡灰色を帯びた長石が散在している。

全体に花崗岩は変質の程度が弱く、黒雲母などの有色鉱物はクロライト化せずほぼ残存している。

割れ目の主要な走向傾斜は、低角度でほぼ水平とNW~WNW走向高角度北傾斜、NE~ENE走向高角度南~北傾斜である。

東側壁から鏡面右側にかけては、NE~ENE走向高角度南~北傾斜の割れ目1、4、7や、NNE~NE走向中~高角度南傾斜の割れ目2、3、NW走向中角度東傾斜の割れ目5が60~100cm間隔(一部20~30cm間隔)程度で入る。鏡面には、NNE走向高角度西~東傾斜の割れ目(発破により顕在化)11、12、13が60~100cm程度の間隔で入る。鏡面左側~西側壁には、NW~WNW走向高角度北傾斜の割れ目9、10、14や、NW走向中角度南傾斜の割れ目15やENE走向中角度北傾斜の割れ目16が60~150cm間隔(一部20~30cm間隔)程度で入る。

湧水は、東側壁の割れ目8で3L/min程度、割れ目17で5L/min程度の量が認められた。

岩級区分は、西側壁及び東側壁の一部では割れ目間隔が20~30cm程度で、ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さであることからCH(A-III-1)級と判断した。その他の切羽の大半では、割れ目間隔が概ね60~150cm程度の間隔で、ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さであることからB(A-II-1)級と判断した。

グラウトは、東側壁の割れ目1、3、鏡面の割れ目6、7、9、西側壁の割れ目16および天盤付近の割れ目5にて明瞭な緑色グラウトを厚さ最大2mmで確認した、また、鏡面の割れ目7、9および天盤付近の割れ目5にて赤色グラウトを厚さ最大2mmで確認した。

A工区地質記載シート

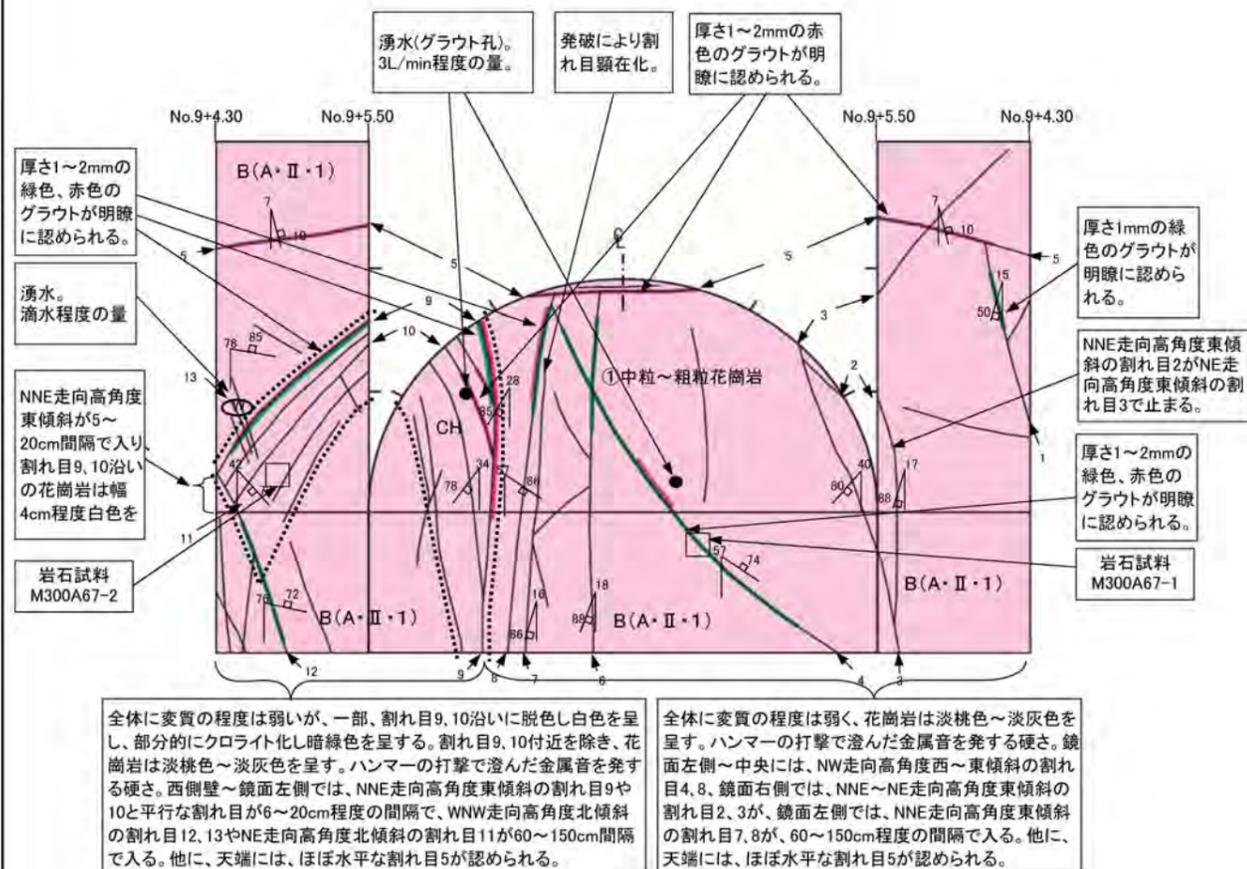
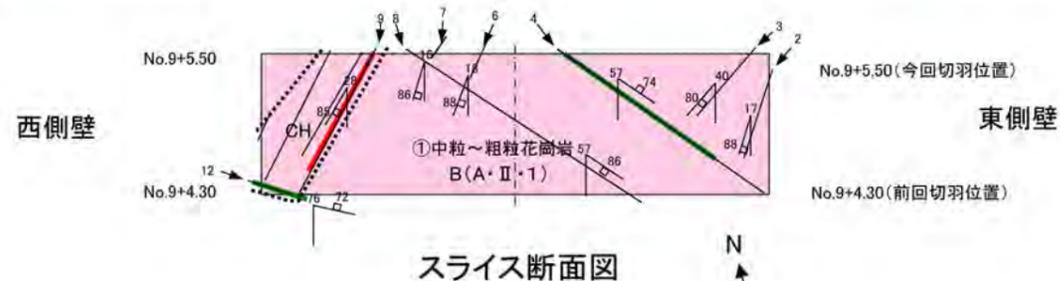
A3-請負-計測工(地質)-090219

シート番号	300mアクセス坑道-67	日時	平成21年2月19日 4:00~5:30	位置・深度	300mアクセス坑道-67 G.L. 297.0 m~G.L. 300.2 m	観察・撮影者	
-------	---------------	----	-------------------------	-------	--	--------	--

総括監督員	主任監督員	監督員

請負人 大林・大成・間特定建設工事共同企業体
現場代理人

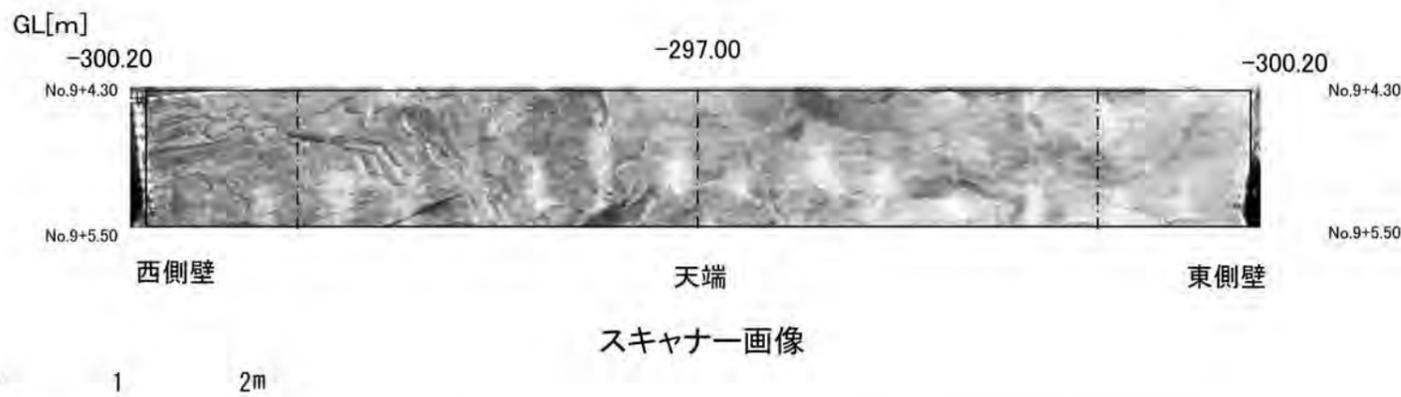
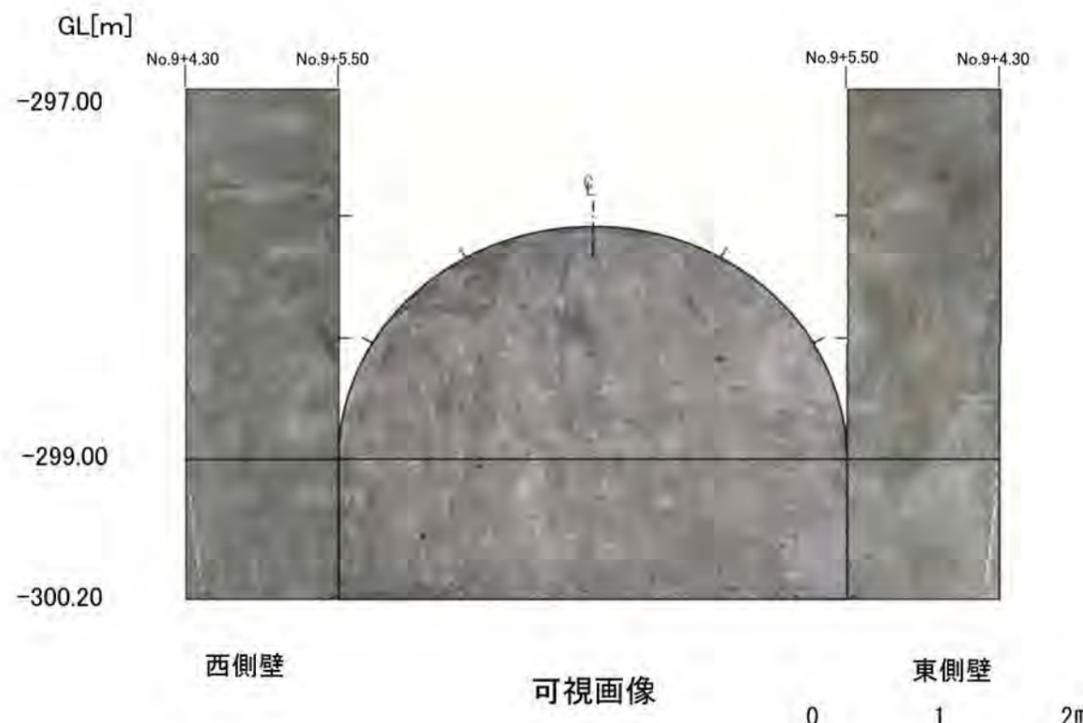
凡例	花崗岩	湧水	割れ目	岩級区分境界	割れ目の走向傾斜	グラウト
----	-----	----	-----	--------	----------	------



全体に変質の程度は弱い、一部、割れ目9, 10沿いに脱色し白色を呈し、部分的にクロライト化し暗緑色を呈する。割れ目9, 10付近を除き、花崗岩は淡桃色~淡灰色を呈す。ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する硬さ。西側壁~鏡面左側では、NNE走向高角度東傾斜の割れ目9や10と平行な割れ目が6~20cm程度の間隔で、WNW走向高角度北傾斜の割れ目12, 13やNE走向高角度北傾斜の割れ目11が60~150cm間隔で入る。他に、天端には、ほぼ水平な割れ目5が認められる。

全体に変質の程度は弱く、花崗岩は淡桃色~淡灰色を呈す。ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する硬さ。鏡面左側~中央には、NW走向高角度西~東傾斜の割れ目4, 8、鏡面右側では、NNE~NE走向高角度東傾斜の割れ目2, 3が、鏡面左側では、NNE走向高角度東傾斜の割れ目7, 8が、60~150cm程度の間隔で入る。他に、天端には、ほぼ水平な割れ目5が認められる。

スケッチ



岩種	花崗岩	電研式岩級	G.L. -297m~299m B/CH G.L. -299m~300.2m B/CH
岩相	①中粒~粗粒花崗岩 (淡桃色、淡灰色)	RMR値	G.L. -297m~299m 74 G.L. -299m~300.2m 80
風化	α	岩石試料番号	M300A67-1 (花崗岩・グラウト)、 M300A67-2 (花崗岩・グラウト)
変質	1~3	採水試料番号	無
湧水	滴水程度		

特記事項

当箇所はアクセス坑道の横坑であり、掘進方向はN11E方向である。横坑観察は鏡面から1.2m離れた場所より目視観察を実施した。

岩種は花崗岩で、岩相は石英の粒径がφ2~7mm程度の中粒~粗粒花崗岩である。切羽全体にφ7~10mm程度までの淡桃色~淡灰色を帯びた長石が散在している。

全体に花崗岩は変質の程度が弱く、黒雲母などの有色鉱物はクロライト化せずほぼ残存しているが、一部NNE走向高角度東傾斜の割れ目9, 10沿いでは弱~中程度の変質作用により、割れ目沿いの白色化が認められる。

割れ目の主要な走向傾斜は、低角度でほぼ水平とNW走向高角度西~東傾斜、NNE走向高角度東傾斜である。

鏡面左側~中央には、NW走向高角度西~東傾斜の割れ目4, 8、鏡面右側では、NNE~NE走向高角度東傾斜の割れ目2, 3が、鏡面左側では、NNE走向高角度東傾斜の割れ目(発破により顕在化)7, 8が、60~150cm程度の間隔で入る。西側壁~鏡面左側では、NNE走向高角度東傾斜の割れ目9, 10が5~20cm程度の間隔で、WNW走向高角度北傾斜の割れ目12, 13やNE走向高角度北傾斜の割れ目11が60~150cm間隔で入る。他に天端付近にほぼ水平な割れ目5が認められる。

湧水は、西側壁の割れ目13で滴水程度の量が認められた。岩級区分は、西側壁~鏡面左側の一部で、割れ目が6~20cm程度の間隔で入り、ハンマーの打撃で鈍い金属音を発する程度の硬さであることからCH(A・IV・1)級。そのほかの切羽の大半は、割れ目が概ね60~150cm程度の間隔で、ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さであることからB(A・II・1)級と判断した。グラウトは、東側壁の割れ目1、鏡面の割れ目4, 6, 8, 9、西側壁の割れ目9, 12にて明瞭な緑色グラウトを、また、鏡面の割れ目4, 8, 9, 10および天端付近の割れ目5にて赤色グラウトを最大で厚さ2mm確認した。

A工区地質記載シート

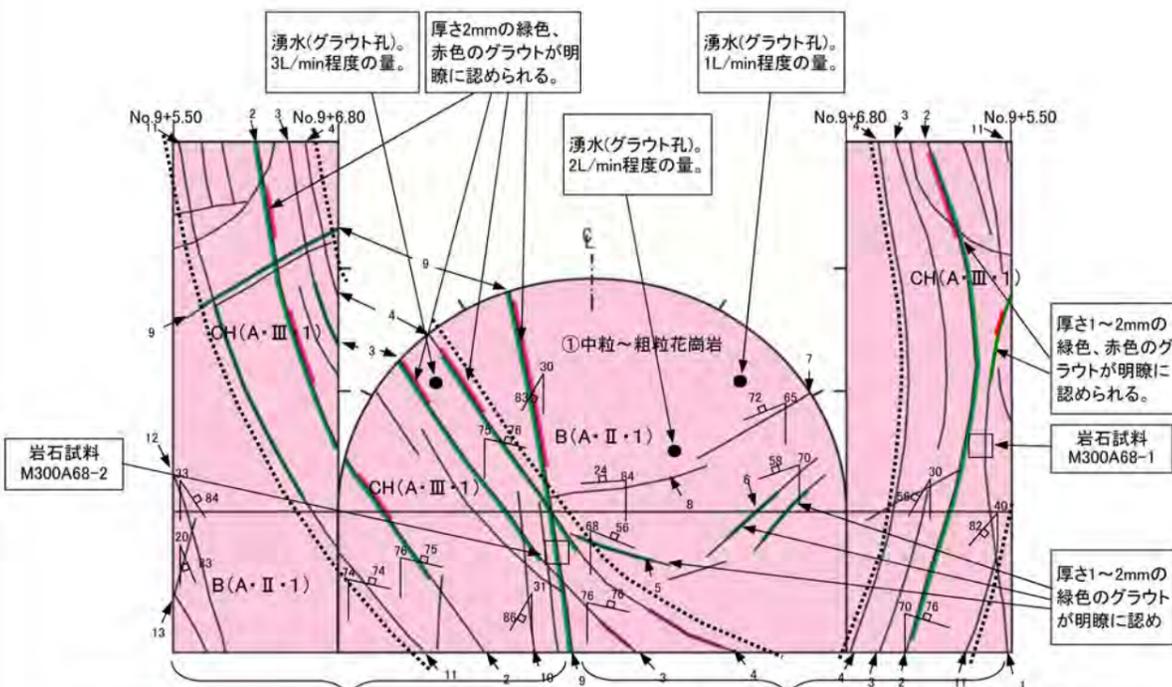
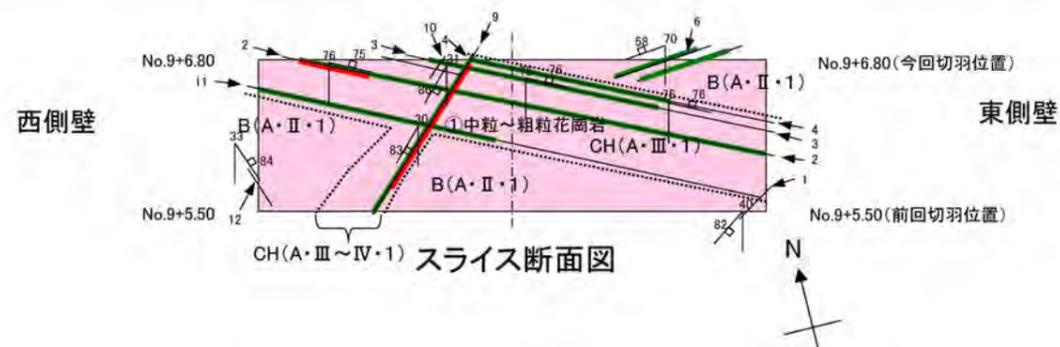
A3-請負-計測工(地質)-090219

シート番号	300mアクセス坑道-68	日時	平成21年2月19日 21:00~22:30	位置・深度	300mアクセス坑道-68 G.L. 297.0 m~G.L. 300.2 m	観察・撮影者	
-------	---------------	----	---------------------------	-------	--	--------	--

総括監督員	主任監督員	監督員

請負人 大林・大成・間特定建設工事共同企業体
現場代理人

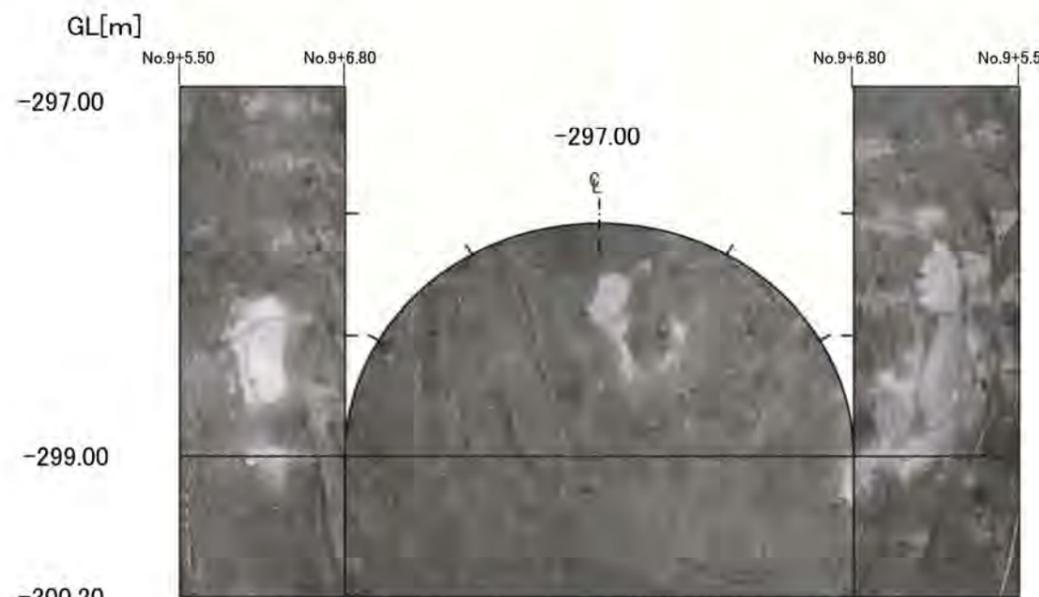
凡例	花崗岩	湧水	割れ目	岩級区分境界	割れ目の走向傾斜	グラウト
----	-----	----	-----	--------	----------	------



全体に変質の程度は弱く、花崗岩は淡桃色～淡灰色を呈す。ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する硬さ。西側壁～鏡面中央では、WNW走向高角度北傾斜の割れ目2, 3, 4, 11が30～60cm間隔で認められる。また、NE走向高角度東傾斜の割れ目9, 10が下半において一部30cm程度の間隔で認められる。他に、NW走向高角度北傾斜の割れ目12やNS走向高角度西傾斜の割れ目13が認められる。

全体に変質の程度は弱く、花崗岩は淡桃色～淡灰色を呈す。ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する硬さ。鏡面中央～東側壁では、WNW走向高角度北傾斜の割れ目2, 3, 4, 11やNE走向高角度南傾斜の割れ目1が60～100cm程度の間隔(一部30～60cm間隔)で認められる。また、鏡面中央～右側には、EW走向低～高角度北傾斜の割れ目6, 7, 8が、60～100cm程度の間隔で入る。

スケッチ



可視画像



スキャナー画像

岩種	花崗岩	電研式岩級	G.L. -297m~299m G.L. -299m~300.2m	B/CH B/CH
岩相	①中粒～粗粒花崗岩 (淡桃色、淡灰色)	RMR値	G.L. -297m~299m G.L. -299m~300.2m	80 80
風化	α	岩石試料番号	M300A68-1 (花崗岩・グラウト)、 M300A68-2 (花崗岩・グラウト)	
変質	1~2	採水試料番号	無	
湧水	無			

特記事項

当箇所はアクセス坑道の横坑であり、掘進方向はN11E方向である。横坑観察は鏡面から1.3m離れた場所より目視観察を実施した。
岩種は花崗岩で、岩相は石英の粒径がφ2~7mm程度の中粒～粗粒花崗岩である。切羽全体にφ7~10mm程度までの淡桃色～淡灰色を帯びた長石が散在している。
全体に花崗岩は変質の程度が弱く、黒雲母などの有色鉱物はクロライト化せずほぼ残存している。
割れ目の主要な走向傾斜は、WNW走向高角度北傾斜やNE走向高角度南傾斜が卓越し、他にEW走向低～高角度北傾斜、NW走向高角度北傾斜、NS走向高角度西傾斜、NE走向高角度南傾斜である。
東側壁～鏡面左側及び西側壁には、WNW走向高角度北傾斜の割れ目2, 3, 4, 11やNE走向高角度南傾斜の割れ目9, 10が30~60cm程度で認められる。また、東側壁にはNE走向高角度南傾斜の割れ目1、西側壁にはNW走向高角度北傾斜の割れ目12やNS走向高角度西傾斜の割れ目13が認められる。鏡面中央～右側には、EW走向低～高角度北傾斜の割れ目6, 7, 8が、60~100cm程度の間隔で入る。

湧水は、グラウト孔から認められるものの割れ目からは認められなかった。
岩級区分は、東側壁及び鏡面左側～西側壁の一部で割れ目間隔が30~60cm程度で、ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さであることからCH(A・III・1)級と判断した。その他の切羽の大半では、割れ目間隔が概ね60~100cm程度の間隔で、ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さであることからB(A・II・1)級と判断した。
グラウトは、東側壁及び鏡面左側～西側壁の割れ目1, 2, 3, 4, 11、鏡面の割れ目5, 6, 9にて明瞭な緑色グラウトを、また、東側壁から鏡面左側及び西側壁の割れ目1, 2, 3, 4, 9にて赤色グラウトを最大で厚さ2mm確認した。

A工区地質記載シート

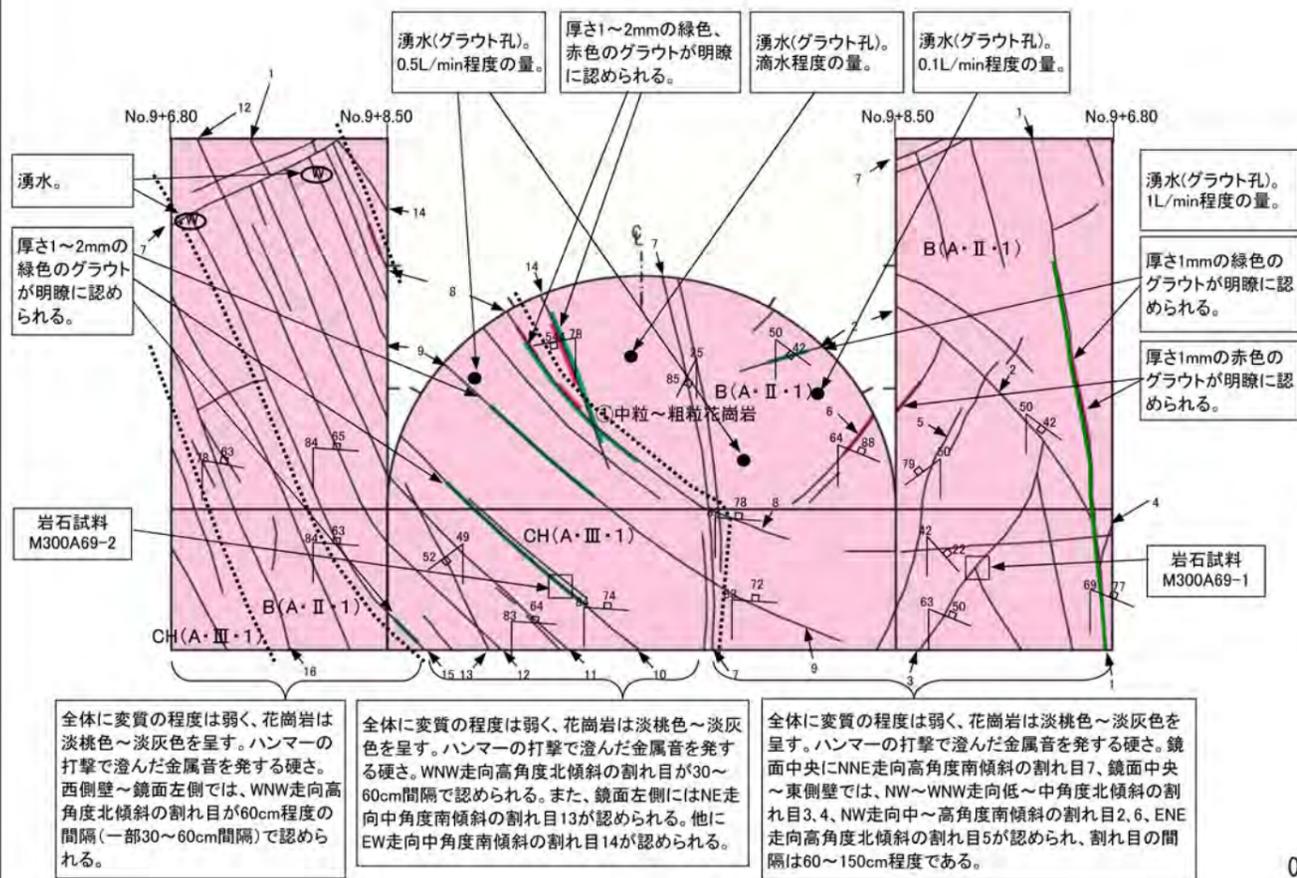
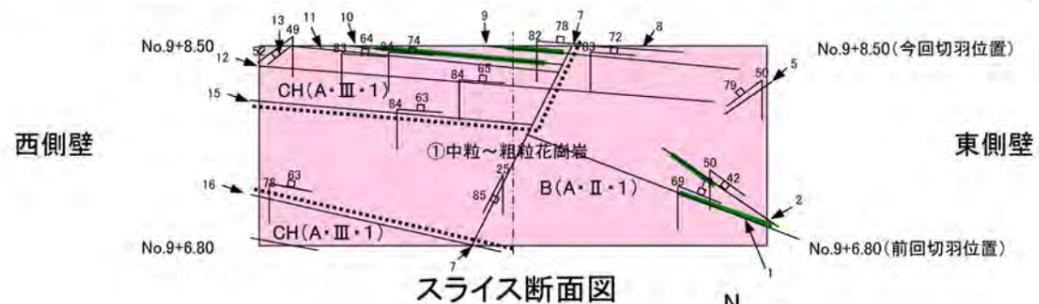
A3-請負-計測工(地質)-090220

シート番号	300mアクセス坑道-69	日時	平成21年2月20日 15:00~16:30	位置・深度	300mアクセス坑道-69 G.L. 297.0 m~G.L. 300.2 m	観察・撮影者	
-------	---------------	----	---------------------------	-------	--	--------	--

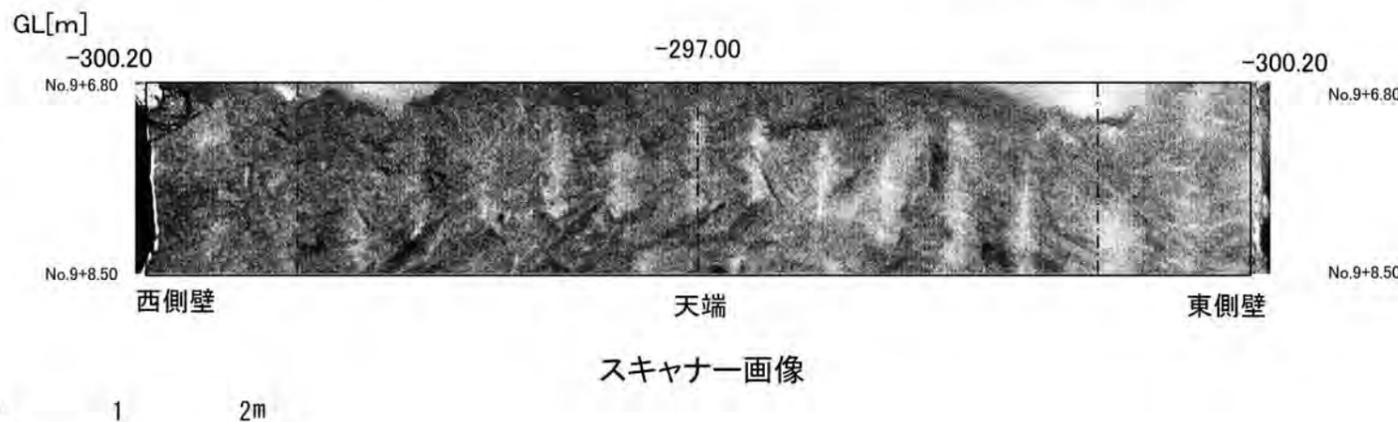
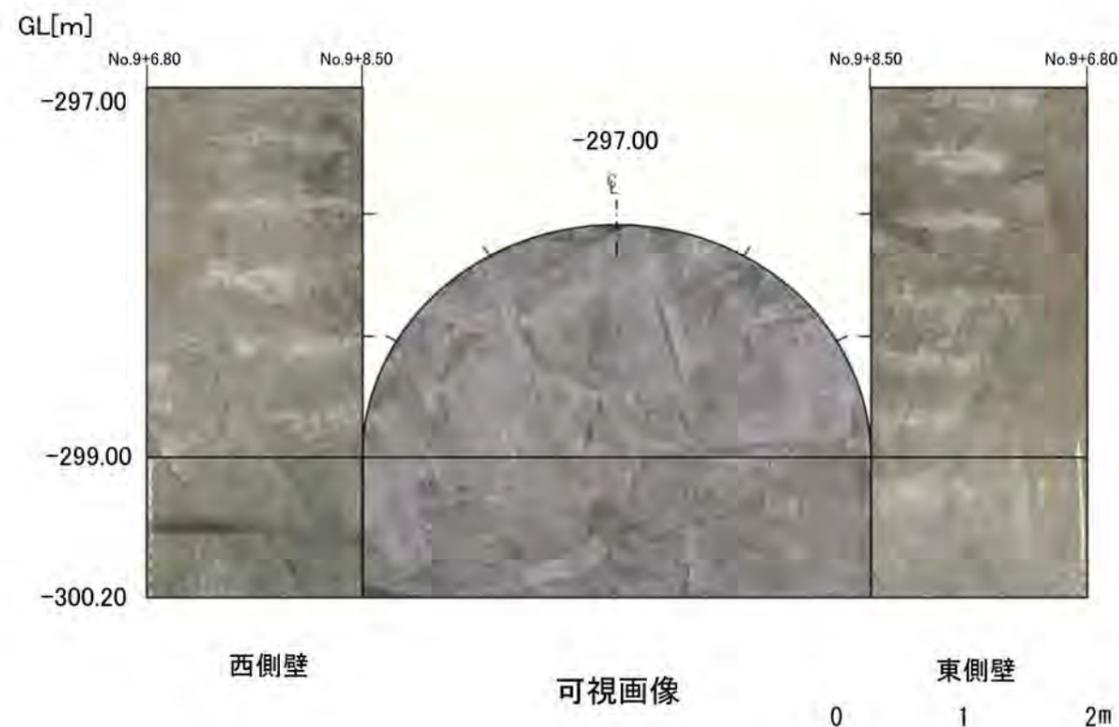
総括監督員	主任監督員	監督員

請負人 大林・大成・間特定建設工事共同企業体
現場代理人

凡例 花崗岩 湧水 割れ目 岩級区分境界 割れ目の走向傾斜 グラウト



スケッチ



岩種	花崗岩	電研式岩級	G.L. -297m~299m B/CH G.L. -299m~300.2m B/CH
岩相	①中粒~粗粒花崗岩 (淡桃色、淡灰色)	RMR値	G.L. -297m~299m 74 G.L. -299m~300.2m 80
風化	α	岩石試料番号	M300A69-1 (花崗岩)、 M300A69-2 (花崗岩・グラウト)
変質	1~2	採水試料番号	無
湧水	滴水程度		

特記事項

当箇所はアクセス坑道の横坑であり、掘進方向はN11E方向である。横坑観察は鏡面から1.7m離れた場所より目視観察を実施した。岩種は花崗岩で、岩相は石英の粒径がφ2~7mm程度の中粒~粗粒花崗岩である。切羽全体にφ7~10mm程度までの淡桃色~淡灰色を帯びた長石が散在している。全体に花崗岩は変質の程度が弱く、黒雲母などの有色鉱物はクロライト化せずほぼ残存している。割れ目の主要な走向傾斜は、WNW走向高角度北傾斜とNE走向高角度南傾斜で、一部にNW走向中~高角度南傾斜、NW走向中角度北傾斜、EW走向中角度南傾斜が認められる。鏡面左側~鏡面中央までWNW走向高角度北傾斜の割れ目が30~60cm間隔で認められる。鏡面中央にはNNE走向高角度南傾斜の割れ目7が認められる。また、鏡面中央~東側壁までには、NW~WNW走向低~中角度北傾斜の割れ目3、4、NW走向中~高角度南傾斜の割れ目2、6、ENE走向高角度北傾斜の割れ目5が認められ、割れ目の間隔は60~150cm程度である。

湧水は、西側壁の割れ目9、15で滴水程度の量が認められた。岩級区分は、鏡面中央から西側壁で割れ目間隔が30~60cm程度であり、ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さであることからCH(A・Ⅲ・1)級と判断した。その他の切羽の大半では、割れ目間隔が概ね60~150cm程度の間隔で、ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さであることからB(A・Ⅱ・1)級と判断した。グラウトは、鏡面右側~東側壁の割れ目1、鏡面中央~左側の割れ目8、9、10、14、15にて明瞭な緑色グラウトを、また、東側壁から鏡面左側及び西側壁の割れ目1、6、8、14にて赤色グラウトを最大で厚さ2mm確認した。

A工区地質記載シート

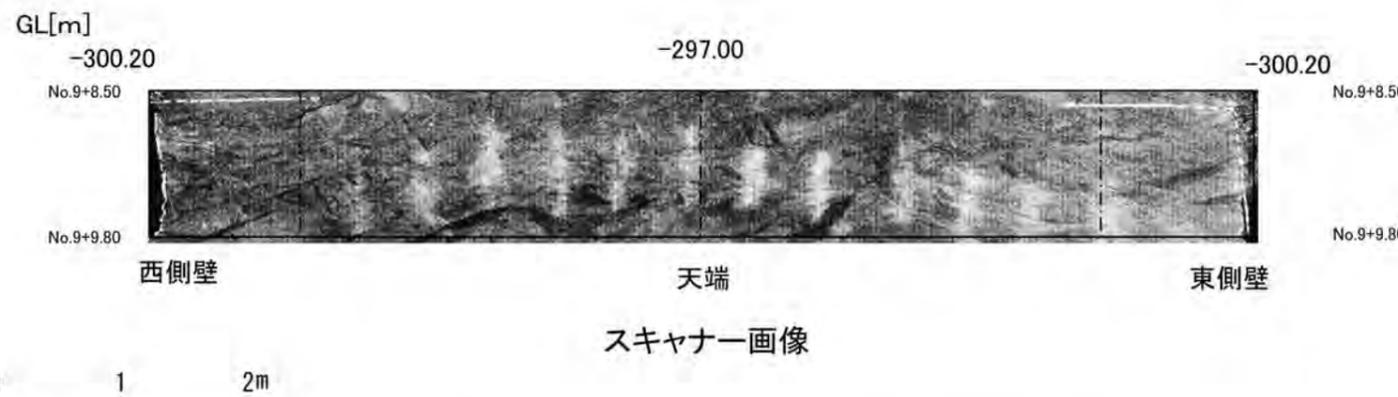
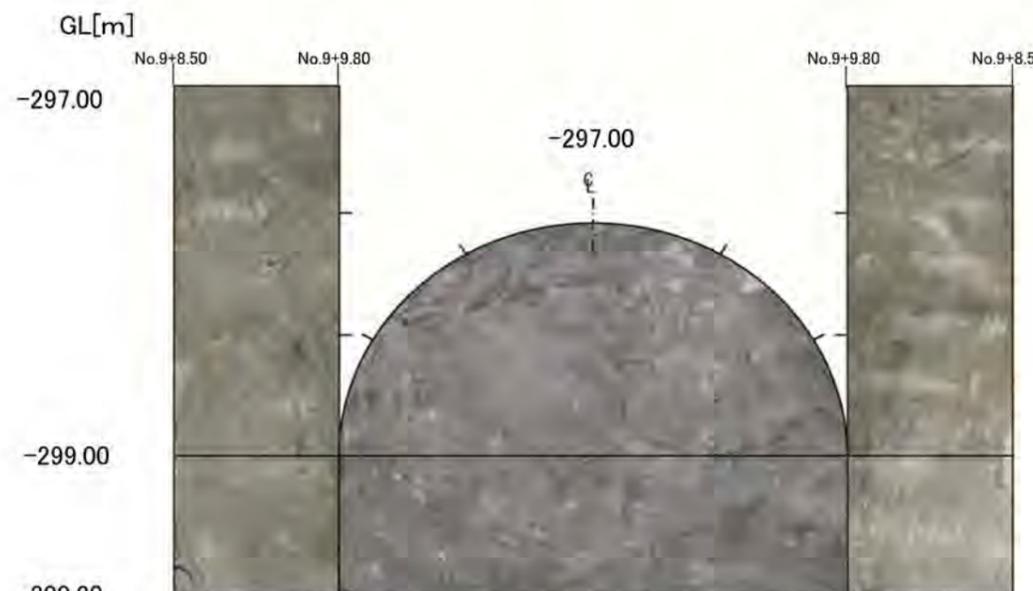
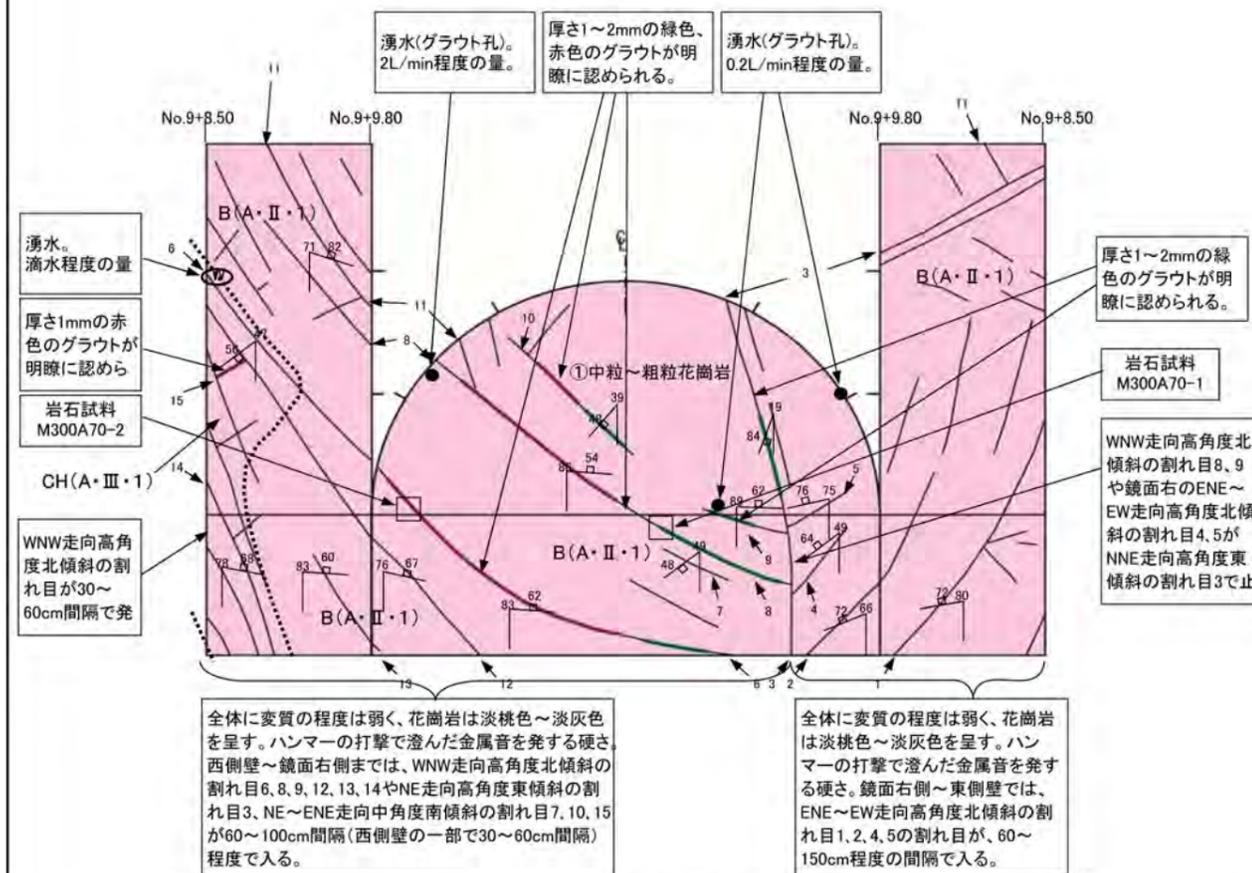
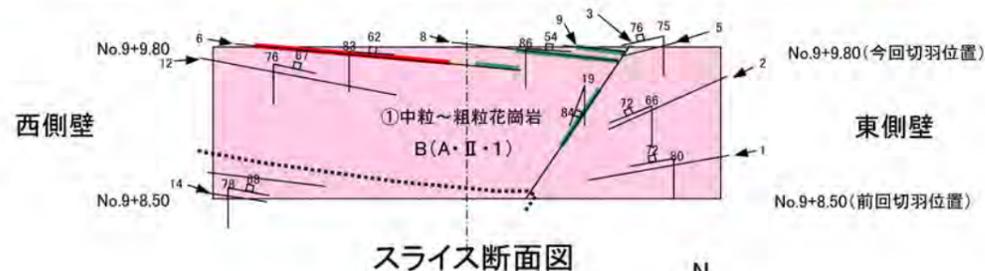
A3-請負-計測工(地質)-090221

シート番号	300mアクセス坑道-70	日時	平成21年2月21日 6:00~7:30	位置・深度	300mアクセス坑道-70 G.L. 297.0 m~G.L. 300.2 m	観察・撮影者	
-------	---------------	----	-------------------------	-------	--	--------	--

総括監督員	主任監督員	監督員

請負人 大林・大成・間特定建設工事共同企業体
現場代理人

凡例	花崗岩	湧水	割れ目	岩級区分境界	割れ目の走向傾斜	グラウト
----	-----	----	-----	--------	----------	------



岩種	花崗岩	電研式岩級	G.L. -297m~299m B/CH G.L. -299m~300.2m B/CH
岩相	①中粒~粗粒花崗岩 (淡桃色、淡灰色)	RMR値	G.L. -297m~299m 74 G.L. -299m~300.2m 80
風化	α	岩石試料番号	M300A70-1 (花崗岩・グラウト)、 M300A70-2 (花崗岩・グラウト)
変質	1~2	採水試料番号	無
湧水	滴水程度		

特記事項

当箇所はアクセス坑道の横坑であり、掘進方向はN11E方向である。横坑観察は鏡面から1.3m離れた場所より目視観察を実施した。
岩種は花崗岩で、岩相は石英の粒径がφ2~7mm程度の中粒~粗粒花崗岩である。切羽全体にφ7~10mm程度までの淡桃色~淡灰色を帯びた長石が散在している。
全体に花崗岩は変質の程度が弱く、黒雲母などの有色鉱物はクロライト化せずほぼ残存している。
割れ目の主要な走向傾斜は、WNW走向高角度北傾斜やNE走向高角度東傾斜で、他にNE~ENE走向中角度南傾斜、ENE~EW走向高角度北傾斜が認められる。
鏡面右側~東側壁では、ENE~EW走向高角度北傾斜の割れ目1、2、4、5の割れ目5が、60~150cm程度の間隔で入る。西側壁から鏡面右側までは、WNW走向高角度北傾斜の割れ目6、8、9、12、13、14やNE走向高角度東傾斜の割れ目3、NE~ENE走向中角度南傾斜の割れ目7、10、15が60~100cm間隔(西側壁の一部30~60cm間隔)程度で入る。

湧水は、西壁の割れ目6で滴水程度の量が認められた。
岩級区分は、西側壁の一部で割れ目間隔が30~60cm程度であり、ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さであることからCH(A・Ⅲ・1)級と判断した。その他の切羽の大半では、割れ目間隔が概ね60~150cm程度の間隔で、ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さであることからB(A・Ⅱ・1)級と判断した。
グラウトは、鏡面右側~東側壁の割れ目1、鏡面中央~左側の割れ目3、6、8、9、10にて明瞭な緑色グラウトを、また、東側壁から鏡面左側及び西側壁の割れ目6、8、10、15にて赤色グラウトを最大で厚さ2mm確認した。

A工区地質記載シート

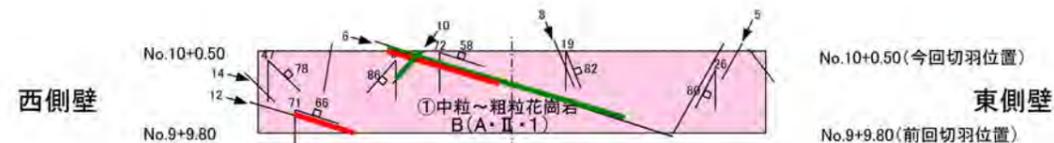
A3-請負-計測工(地質)-090223

シート番号	300mアクセス坑道-71	日時	平成21年2月23日 17:30~19:00	位置・深度	300mアクセス坑道-71 G.L. 297.0 m~G.L. 300.2 m	観察・撮影者	
-------	---------------	----	---------------------------	-------	--	--------	--

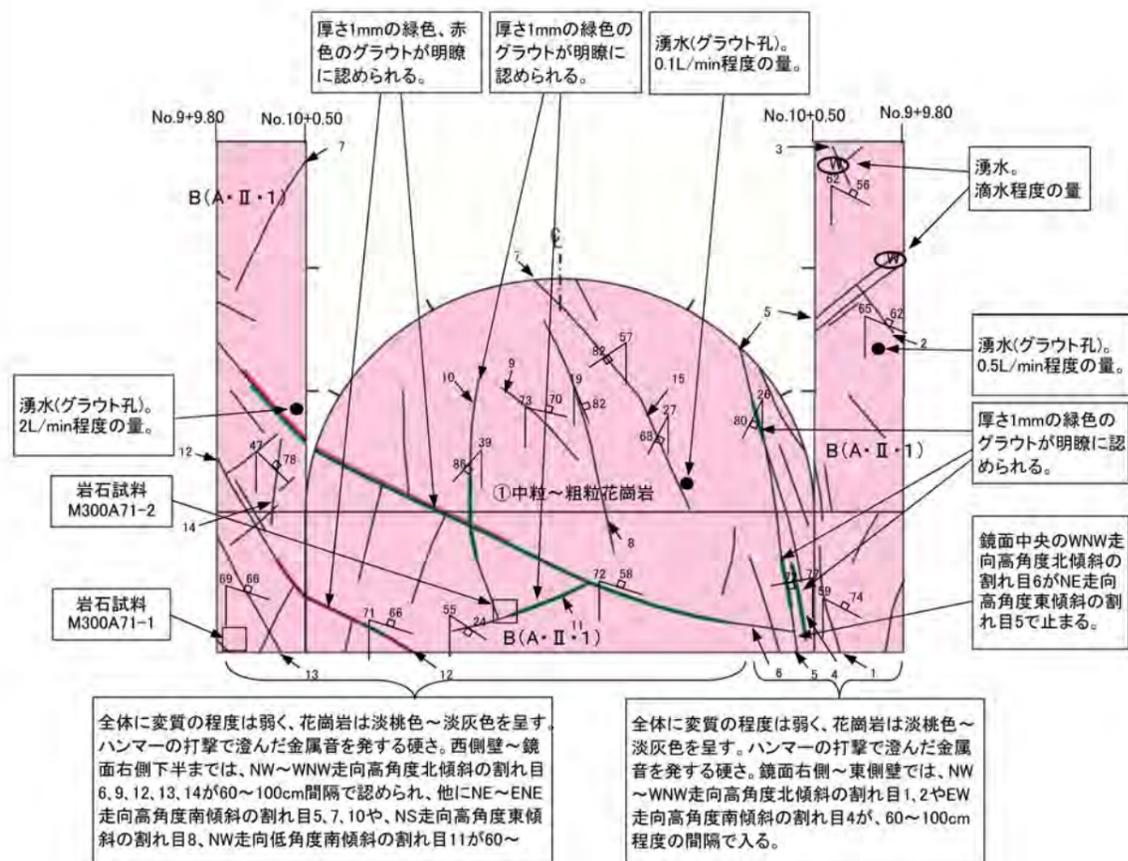
総括監督員	主任監督員	監督員

請負人 大林・大成・間特定建設工事共同企業体
現場代理人

凡例	花崗岩	湧水	割れ目	岩級区分境界	割れ目の走向傾斜	グラウト
----	-----	----	-----	--------	----------	------



スライス断面図



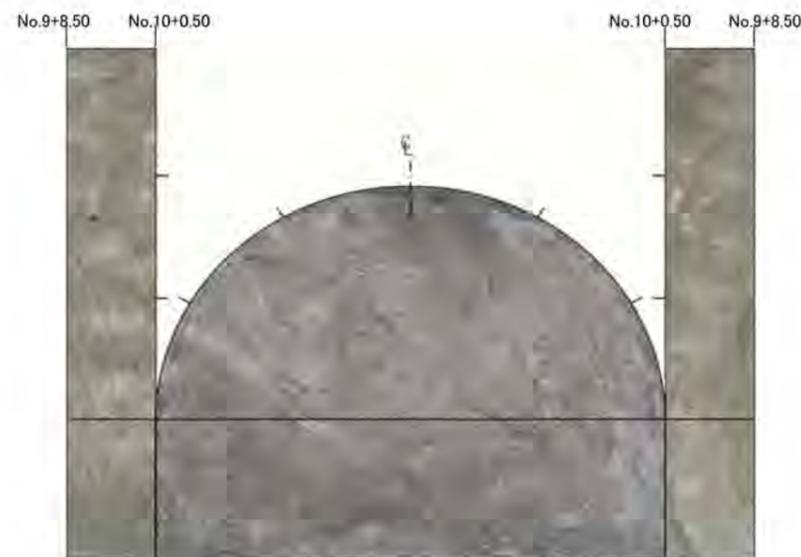
スケッチ

GL[m]

-297.00

-299.00

-300.20



西側壁

可視画像

東側壁

0 1 2m

GL[m]

-300.20

No.9+9.80

No.10+0.50

西側壁

天端

東側壁

スキャナー画像

0 1 2m

岩種	花崗岩	電研式岩級	G.L. -297m~299m B/CH
岩相	①中粒~粗粒花崗岩 (淡桃色、淡灰色)	RMR値	G.L. -297m~299m 74 G.L. -299m~300.2m 80
風化	α	岩石試料番号	M300A71-1 (花崗岩)、 M300A71-2 (花崗岩・グラウト)
変質	1~2	採水試料番号	無
湧水	滴水程度		

特記事項

当箇所はアクセス坑道の横坑であり、掘進方向はN11E方向である。横坑観察は鏡面から0.7m離れた場所より目視観察を実施した。
岩種は花崗岩で、岩相は石英の粒径がφ2~7mm程度の中粒~粗粒花崗岩である。切羽全体にφ7~10mm程度までの淡桃色~淡灰色を帯びた長石が散在している。
全体に花崗岩は変質の程度が弱く、黒雲母などの有色鉱物はクロライト化せずほぼ残存している。
割れ目の主要な走向傾斜は、NW~WNW走向高角度北傾斜とNE~ENE走向高角度南傾斜である。他にNS走向高角度東傾斜、NW走向低角度南傾斜、EW走向高角度南傾斜が認められる。
東側壁~鏡面右側までは、NW~WNW走向高角度北傾斜の割れ目1,2やEW走向高角度南傾斜の割れ目4が、60~100cm程度の間隔で入る。西側壁~鏡面右側までは、NW~WNW走向高角度北傾斜の割れ目6,9,12,13,14が60~100cmの間隔で認められる。他にNE~ENE走向高角度南傾斜の割れ目5,7,10やNS走向高角度東傾斜の割れ目8やNW走向低角度南傾斜の割れ目11が60~100cm程度の間隔で入る。

湧水は、西壁の割れ目3,5で滴水程度の量が認められた。
岩級区分は、全体に割れ目間隔が概ね60~100cm程度の間隔で、ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さであることからB(A・II・1)級と判断した。
グラウトは、鏡面の割れ目4,6,7,10,11,12にて明瞭な緑色グラウトを、また、鏡面中央~左側の割れ目6,12にて赤色グラウトを最大で厚さ2mm確認した。